

No.

2023 年度 国語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                                                             |     |   |      |   |          |                |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|----------------|
| 科目            | 現代文B                                                                                                                        | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年次・一般コース・1～4組 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 東京書籍『精選現代文B』・『学習課題ノート』<br>桐原書店『読解を深める現代文単語』・文英堂『現代文単語ノート』<br>駿台文庫『基礎編現代文読解問題』ほか演習テキスト<br>第一学習社『意味から学ぶ頻出漢字3000』・『新国語便覧』・国語辞典 |     |   |      |   |          |                |

① 学習の到達目標

- 1 近代以降の文章を題材として、大学進学などの進路実現に向け、受験生としてふさわしい学習の方法を理解し、**主体的な学習**を継続して実践する。
- 2 主体的に学習する態度を土台として、現代文における**基礎的な知識・技能**を身につける。  
また、知識・技能を活用して、**国語を的確に理解し、適切に表現する力**を身につけ、これらを活用し、高めていく。
- 3 国語を的確に理解し、適切に表現する力を土台として、**ものの見方・感じ方・考え方を豊かにし、自分の考えの形成に役立てる力**を養う。

② 評価の観点、方法

【関心・意欲・態度】授業や家庭学習に主体的に取り組もうとするとともに、生涯にわたって国語に親しむ態度を育もうとしている。  
【話す・聞く能力】他者と伝え合う多様な「話す・聞く」言語活動を通して、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにし、自分の考えを深めることができる。  
【書く能力】他者と伝え合う多様な「書く」言語活動を通して、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにし、自分の考えを深めることができる。  
【読む能力】さまざまな文章に関する多様な「読む」言語活動を通して、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにすることができる。  
【知識・理解】生涯にわたって国語に親しむために必要な漢字や語彙、教養としての文学史などを理解している。

※ これらの評価は、観察・試験・ノート・ワークシート・自己評価(振り返り)などの多様な方法によって総合的に行う。

③ 担当者から

・現代文は「授業」が勝負です。意味を説明できない言葉は、すぐに辞書を引きましょう。  
授業中の問いかけは、全て自分自身に対するものだと思って、頭を動かし、手を動かして下さい。「答え待ち人間」に未来はありません。自分自身の頭で答えを導き出す、その過程が大切です。最初は自分で答えを導き出せなくとも、「どうしてこの答えになるのか」という検証を重ねていきましょう。もちろん、ペアやグループで話し合う場面もあります。頭、手、口をフルに使っていきましょう。そして、言葉との出会いは、いつだって一期一会です。気になった言葉は、すぐに辞書を引いて確認し、語彙を増やしていきましょう。言葉との出会いを大切にしてきた人だけが、入試現代文を攻略できるのです。  
・「ノート」は自分や仲間、クラスの思考の過程を記録する大切な道具です。  
板書を書き写すだけでは意味がありません。先生や仲間の発言や気づきで大切だと思ったことを記録したり、自分が知らなかった言葉の意味をまとめたりして、自分だけのノートを作っていきます。分からないことはその場で、もしくは授業後にノートを持参して質問しに来て下さい。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名  | 教科書項目等                             | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                          | 授業予定<br>時数 | 授業<br>実施<br>時数 |
|-----|------|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----------------|
| 4   | 評論Ⅰ  | 丸山圭三郎「言語と記号」                       | ・本文の話題に対して関心を持ち、筆者の考えを理解する。<br>・論理的な文章の基本的な読み方を習得し、活用する。<br>・生涯にわたってものの見方・感じ方・考え方を豊かにしていく態度を養う。                                      | 前期中間Ⅰまで    |                |
|     | 演習   | 記述問題演習①                            | ・演習を通して、読解力を高める。                                                                                                                     | 予定 9       | 9              |
| 5   | 小説Ⅰ  | 梶井基次郎「檸檬」(前半)<br>〈 前期中間試験Ⅰ 〉       | ・文学的な文章の基本的な読み方を習得し、活用する。<br>・特徴的な表現とその効果を理解することで、読みとりを深める。<br>・心情の変化をとらえることで、主題についての考えを深める。<br>・生涯にわたって文学に親しむために必要な、教養としての文学史を理解する。 | 実施 0       |                |
|     |      | 梶井基次郎「檸檬」(後半)                      |                                                                                                                                      | 前期中間Ⅱまで    |                |
| 6   | 演習   | マーク問題演習①<br>記述問題演習②<br>〈 前期中間試験Ⅱ 〉 | ・演習を通して、読解力を高める。                                                                                                                     | 予定 7       | 16             |
|     |      |                                    |                                                                                                                                      | 実施 0       |                |
| 7・8 | 評論Ⅱ  | 見田宗介<br>「鏡の中の現代社会」                 | ・本文の話題に対して関心を持ち、筆者の考えを理解する。<br>・論理的な文章の基本的な読み方を習得し、活用する。<br>・生涯にわたってものの見方・感じ方・考え方を豊かにしていく態度を養う。                                      | 前期期末まで     |                |
|     | 演習   | 記述問題演習③<br>マーク問題演習②<br>〈 前期期末試験 〉  | ・演習を通して、読解力を高める。                                                                                                                     | 予定 11      | 27             |
| 9   |      |                                    |                                                                                                                                      | 実施 0       |                |
| 10  | 演習   | 記述問題演習④<br>マーク問題演習③<br>〈 後期中間試験 〉  |                                                                                                                                      | 後期中間まで     |                |
| 11  |      |                                    |                                                                                                                                      | 予定 13      | 40             |
|     |      |                                    |                                                                                                                                      | 実施 0       |                |
| 12  | 演習   | マーク問題演習④                           |                                                                                                                                      | 年度末        |                |
| 1   |      |                                    |                                                                                                                                      |            |                |
|     | 二次講習 | 個別試験対策                             |                                                                                                                                      |            |                |
| 2・3 |      |                                    | ・演習を通して、読解力を高める。                                                                                                                     | 予定 8       | 48             |
|     |      |                                    |                                                                                                                                      | 実施 0       |                |

No.

2023 年度 国語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                                                             |     |   |      |   |          |              |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 科目            | 現代文B                                                                                                                        | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年次・探究コース・5組 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 東京書籍『精選現代文B』・『学習課題ノート』<br>桐原書店『読解を深める現代文単語』・文英堂『現代文単語ノート』<br>駿台文庫『基礎編現代文読解問題』ほか演習テキスト<br>第一学習社『意味から学ぶ頻出漢字3000』・『新国語便覧』・国語辞典 |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

- 近代以降の文章を題材として、大学進学などの進路実現に向け、受験生としてふさわしい学習の方法を理解し、**主体的な学習**を継続して実践する。
- 主体的に学習する態度を土台として、現代文における**基礎的な知識・技能**を身につける。  
また、知識・技能を活用して、**国語を的確に理解し、適切に表現する力**を身につけ、これらを活用し、高めていく。
- 国語を的確に理解し、適切に表現する力を土台として、**ものの見方・感じ方・考え方を豊かにし、自分の考えの形成に役立てる力**を養う。

② 評価の観点、方法

【関心・意欲・態度】授業や家庭学習に主体的に取り組もうとするとともに、生涯にわたって国語に親しむ態度を育もうとしている。  
【話す・聞く能力】他者と伝え合う多様な「話す・聞く」言語活動を通して、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにし、自分の考えを深めることができる。  
【書く能力】他者と伝え合う多様な「書く」言語活動を通して、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにし、自分の考えを深めることができる。  
【読む能力】さまざまな文章に関する多様な「読む」言語活動を通して、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにすることができる。  
【知識・理解】生涯にわたって国語に親しむために必要な漢字や語彙、教養としての文学史などを理解している。

※ これらの評価は、観察・試験・ノート・ワークシート・自己評価(振り返り)などの多様な方法によって総合的に行う。  
**また、個別に自らの課題を設定し取り組んだ学習の成果を添削し、学習の過程や成果を評価し、全体の評価に加える。**

③ 担当者から

・現代文は「授業」が勝負です。**意味を説明できない言葉は、すぐに辞書を引きましょう。**  
授業中の問いかけは、全て自分自身に対するものだと考えて、頭を動かし、手を動かして下さい。「答え待ち人間」に未来はありません。自分自身の頭で答えを導き出す、その過程が大切です。最初は自分で答えを導き出せなくとも、「どうしてこの答えになるのか」という検証を重ねていきましょう。もちろん、ペアやグループで話し合う場面もあります。頭、手、口をフルに使っていきましょう。そして、言葉との出会いは、いつだって一期一会です。気になった言葉は、すぐに辞書を引いて確認し、語彙を増やしていきましょう。**言葉との出会いを大切にしてきた人だけが、入試現代文を攻略できるのです。**  
・「ノート」は自分や仲間、クラスの思考の過程を記録する大切な道具です。  
板書を書き写すだけでは意味がありません。先生や仲間の発言や気づきで大切だと思ったことを記録したり、自分が知らなかった言葉の意味をまとめたりして、自分だけのノートを作っていきます。分からないことはその場で、もしくは授業後にノートを持参して質問しに来て下さい。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名  | 教科書項目等                                     | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                     | 授業予定<br>時数              | 授業<br>実施<br>時数 |
|-----|------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|----------------|
| 4   | 評論Ⅰ  | 丸山圭三郎「言語と記号」                               | ・本文の話題に対して関心を持ち、筆者の考えを理解する。<br>・論理的な文章の基本的な読み方を習得し、活用する。<br>・生涯にわたってものの見方・感じ方・考え方を豊かにしていく態度を養う。                                                                 | 前期中間Ⅰまで                 |                |
|     | 演習   | 記述問題演習①<br>個別添削                            | ・演習を通して、総合的な読解力を高める。<br>・添削指導を通して、記述力を高めるとともに、苦手分野を克服する。                                                                                                        | 予定 9                    | 9              |
| 5   | 小説Ⅰ  | 梶井基次郎「檸檬」(前半)<br>〈 前期中間試験Ⅰ 〉               | ・文学的な文章の基本的な読み方を習得し、活用する。<br>・特徴的な表現とその効果を理解することで、読みとりを深める。<br>・心情の変化をとらえることで、主題についての考えを深める。<br>・生涯にわたって文学に親しむために必要な、教養としての文学史を理解する。                            | 実施 0                    |                |
|     |      | 梶井基次郎「檸檬」(後半)                              |                                                                                                                                                                 | 前期中間Ⅱまで                 |                |
| 6   | 演習   | マーク問題演習①<br>記述問題演習②<br>個別添削<br>〈 前期中間試験Ⅱ 〉 | ・演習を通して、総合的な読解力を高める。<br>・添削指導を通して、記述力を高めるとともに、苦手分野を克服する。                                                                                                        | 予定 7                    | 16             |
|     |      |                                            |                                                                                                                                                                 | 実施 0                    |                |
| 7・8 | 評論Ⅱ  | 見田宗介<br>「鏡の中の現代社会」                         | ・本文の話題に対して関心を持ち、筆者の考えを理解する。<br>・論理的な文章の基本的な読み方を習得し、活用する。<br>・生涯にわたってものの見方・感じ方・考え方を豊かにしていく態度を養う。<br><br>・演習を通して、総合的な読解力を高める。<br>・添削指導を通して、記述力を高めるとともに、苦手分野を克服する。 | 前期期末まで                  |                |
|     | 演習   | 記述問題演習③<br>マーク問題演習②<br>個別添削<br>〈 前期期末試験 〉  |                                                                                                                                                                 | 予定 11                   | 27             |
|     |      |                                            |                                                                                                                                                                 | 実施 0                    |                |
| 10  | 演習   | 記述問題演習④<br>マーク問題演習③<br>個別添削<br>〈 後期中間試験 〉  |                                                                                                                                                                 | 後期中間まで                  |                |
| 11  |      |                                            |                                                                                                                                                                 | 予定 13                   | 40             |
|     |      |                                            |                                                                                                                                                                 | 実施 0                    |                |
| 12  | 演習   | マーク問題演習④                                   |                                                                                                                                                                 | 年度末                     |                |
| 1   |      |                                            |                                                                                                                                                                 |                         |                |
|     |      |                                            |                                                                                                                                                                 |                         |                |
| 2・3 | 二次講習 | 個別試験対策                                     |                                                                                                                                                                 | ・演習を通して、総合的な読解力の完成を目指す。 | 予定 8           |
|     |      |                                            |                                                                                                                                                                 | 実施 0                    |                |

No.

2023 年度 国語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                                                 |     |   |      |   |          |              |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 科目            | 古典B                                                                                                             | 単位数 | 4 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次・一般コース・文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 『新探究古典B 古文編』(桐原書店)<br>『新探究古典B 漢文編』(桐原書店)<br>『体系古典文法』(数研出版)・『漢文必携』(桐原書店)<br>『古文単語315』(桐原書店)・『マドンナ古文常識217』(学習研究社) |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 単語や古典文法を身につけ正確に本文を理解することで、古典としての古文と漢文を読む能力を養う。<br>2. 古典についての理解や関心を深めることを通して、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【関心・意欲・態度】テーマについて主体的に考え、深めようとしている。(観察・ワークシート)<br>【読む能力】文章の展開・構成を捉え、書き手の意図を考えながら読んでいる。(ペーパーテスト・ノート・ワークシート・自己評価・相互評価)<br>【知識・理解】古典文法・語彙、漢文句法・語彙を理解している。(ペーパーテスト) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「みなさんは、なぜ古典を学ぶのですか？」文系に進んだみなさんには、一度は考えてほしい問いです。私たちは、どれほど豊かな伝統文化に養われているのか、古典文学の読解を通じてみなさんに感じてほしいと思います。古典文学に触れ、「ああ、昔の人も『同じこと』を感じたんだな」ということが実感されると、「私はひとりじゃない」と思う時があります。今後の人生で心の支えになる作品に出会うかもしれません。そして、時代が隔たっていればいるほど、「あ、昔の人も、これと同じことを感じたのかな…」と直感したときの喜びは深いです。「古典を学ぶ喜び」を、高校生活最後の1年でぜひ味わってほしいと思います。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名            | 教科書項目等                                                              | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                             | 授業時数                    |
|-----|----------------|---------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 4   | 古文:物語<br>漢文:説話 | ガイドランス<br>古文:源氏物語「若紫との出会い」<br>漢文:「画竜点睛」「漱石枕流」「杞憂」                   | ・【古文】古典常識の確認を行い宮廷文学の背景を把握する。<br>・【古文】和歌を正確に解釈して心情を理解する。<br>・【古文】人物関係を把握しながら、光源氏が尼君と少女をどのように捉えたかを理解する。<br>・【漢文】故事成語を教材として、基本的な文法事項を振り返る。<br>◎課題や授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 18 18 |
| 5   | 古文:説話<br>漢文:思想 | 古文:古今著聞集<br>「刑部卿敦兼と北の方」<br>＜中間試験Ⅰ＞<br>漢文:論語                         | ・【古文】掛詞の技法を理解し、わかりやすく現代語訳をする。<br>・【古文】平安時代の結婚について、古典常識を踏まえた上で内容を正しく理解する。<br>・【古文】敦兼に対する北の方の気持ちの変化と、その要因を理解する。<br>・【漢文】孔子が理想とする学問・教育・政治のあり方を理解する。<br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                     | 実施 0<br><br>前期中間Ⅱまで     |
| 6   | 古文:歴史<br>漢文:思想 | 模試対策・マーク演習<br>古文:大鏡「三船の才」<br>漢文:孟子「性善」<br>荀子「性悪」<br>＜中間試験Ⅱ＞         | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>・【古文】和歌に用いられている技巧を理解し、歌に描き出された情景を読み取る。<br>・【古文】道長と公任の人物像、漢詩と和歌に対する当時の見方を考察する。<br>・【漢文】孟子が主張する「性善説」とその根拠を理解する。<br>・【漢文】荀子が主張する「性悪説」とその根拠を理解する。<br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト | 予定 14 32<br><br>実施 0    |
| 7・8 | 古文:物語<br>漢文:思想 | 模試対策・記述演習、マーク演習<br>古文:堤中納言物語<br>「虫めづる姫君」<br>漢文:老子「無用之用」<br>莊子「胡蝶之夢」 | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>・【古文】物語に表れたものの見方、考え方について現代と比較して考える。<br>・【古文】姫君の言動がどのような考えによるものか適切に読み取る。<br>・【漢文】老荘思想について理解する。<br>◎課題や授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                   | 前期期末まで                  |
| 9   | 古文:日記<br>漢文:史伝 | 古文:和泉式部日記<br>「夢よりもはかなき世の中を」<br>漢文:「江南橋為江北枳」<br>＜前期・期末試験＞            | ・【古文】橋の花、ほととぎすは何をたとえているのか読み取る。<br>・【古文】人物関係を把握しながら、作者の心情の変化を理解する。<br>・【漢文】本文で用いられている比喩を理解し、晏子の主張を読み取る。<br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                                               | 予定 22 54<br><br>実施 0    |
| 10  | 問題演習           | 2次試験対策・記述演習                                                         | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                                | 後期中間まで                  |
| 11  | 問題演習           | 2次試験対策・記述演習<br>共通テスト対策・マーク演習<br>＜後期・中間試験＞                           | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                                                                                                                  | 予定 25 79<br><br>実施 0    |
| 12  | 問題演習           | 共通テスト対策・マーク演習                                                       | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                                | 年度末                     |
| 1   | 問題演習           | 共通テスト対策・マーク演習<br>2次講習                                               | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                                |                         |
| 2・3 |                | 2次講習                                                                |                                                                                                                                                                                                                         |                         |
|     |                |                                                                     |                                                                                                                                                                                                                         | 予定 16 95<br><br>実施 0    |

No.

2023 年度 国語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                                                 |     |   |      |   |          |              |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 科目            | 古典B                                                                                                             | 単位数 | 4 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次・探究コース・文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 『新探究古典B 古文編』(桐原書店)<br>『新探究古典B 漢文編』(桐原書店)<br>『体系古典文法』(数研出版)・『漢文必携』(桐原書店)<br>『古文単語315』(桐原書店)・『マドンナ古文常識217』(学習研究社) |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 単語や古典文法を身につけ正確に本文を理解することで、古典としての古文と漢文を読む能力を養う。<br>2. 古典についての理解や関心を深めることを通して、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【関心・意欲・態度】テーマについて主体的に考え、深めようとしている。(観察・ワークシート)<br>【読む能力】文章の展開・構成を捉え、書き手の意図を考えながら読んでいる。(ペーパーテスト・ノート・ワークシート・自己評価・相互評価)<br>【知識・理解】古典文法・語彙、漢文句法・語彙を理解している。(ペーパーテスト) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「みなさんは、なぜ古典を学ぶのですか？」文系に進んだみなさんには、一度は考えてほしい問いです。私たちは、どれほど豊かな伝統文化に養われているのか、古典文学の読解を通じてみなさんに感じてほしいと思います。古典文学に触れ、「ああ、昔の人も『同じこと』を感じたんだな」ということが実感されると、「私はひとりじゃない」と思う時があります。今後の人生で心の支えになる作品に出会うかもしれません。そして、時代が隔たっていればいるほど、「あ、昔の人も、これと同じことを感じたのかな…」と直感したときの喜びは深いです。「古典を学ぶ喜び」を、高校生活最後の1年でぜひ味わってほしいと思います。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                  | 教科書項目等                                                                      | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                           | 授業時数                            |
|-----|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 4   | 古文:物語<br>漢文:説話       | ガイドランス<br>古文:源氏物語「若紫との出会い」<br>漢文:「画竜点睛」「漱石枕流」「杞憂」                           | ・【古文】古典常識の確認を行い宮廷文学の背景を把握する。<br>・【古文】和歌を正確に解釈して心情を理解する。<br>・【古文】人物関係を把握しながら、光源氏が尼君と少女をどのように捉えたかを理解する。<br>・【漢文】故事成語を教材として、基本的な文法事項を振り返る。<br>◎課題や授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                              | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 18 18         |
| 5   | 古文:説話<br>漢文:思想       | 古文:古今著聞集<br>「刑部卿敦兼と北の方」<br>＜中間試験Ⅰ＞<br>漢文:論語                                 | ・【古文】掛詞の技法を理解し、わかりやすく現代語訳をする。<br>・【古文】平安時代の結婚について、古典常識を踏まえた上で内容を正しく理解する。<br>・【古文】敦兼に対する北の方の気持ちの変化と、その要因を理解する。<br>・【漢文】孔子が理想とする学問・教育・政治のあり方を理解する。<br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                   | 実施 0<br><br>前期中間Ⅱまで             |
| 6   | 古文:歴史<br>随筆<br>漢文:思想 | 模試対策・マーク演習<br>古文:大鏡「三船の才」<br>枕草子「二月つごもりに」<br>漢文:孟子「性善」<br>荀子「性悪」<br>＜中間試験Ⅱ＞ | ・【古文】和歌に用いられている技巧を理解し、歌に描き出された情景を読み取る。<br>・【古文】道長と公任の人物像、漢詩と和歌に対する当時の見方を考察する。<br>・【古文】古代における和歌贈答の意味、連歌について理解する。<br>・【漢文】孟子が主張する「性善説」とその根拠を理解する。<br>・【漢文】荀子が主張する「性悪説」とその根拠を理解する。<br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト    | 予定 14 32<br><br>実施 0            |
| 7・8 | 古文:物語<br>漢文:思想       | 模試対策・記述演習、マーク演習<br>古文:堤中納言物語<br>「虫めづる姫君」<br>漢文:老子「無用之用」<br>莊子「胡蝶之夢」         | ・【古文】物語に表れたものの見方、考え方について現代と比較して考える。<br>・【古文】姫君の言動がどのような考えによるものか適切に読み取る。<br>・【漢文】荀子が主張する「性善説」とその根拠を理解する。<br>・【漢文】老荘思想について理解する。<br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                      | 前期期末まで                          |
| 9   | 古文:日記<br>漢文:史伝<br>小説 | 古文:和泉式部日記<br>「夢よりもはかなき世の中を」<br>漢文:「江南橋為江北枳」<br>「人面桃花」<br>＜前期・期末試験＞          | ・【古文】橘の花、ほととぎすは何をたとえているのか読み取る。<br>・【古文】人物関係を把握しながら、作者の心情の変化を理解する。<br>・【漢文】本文で用いられている比喻を理解し、晏子の主張を読み取る。<br>・【漢文】登場人物の人物像を明らかにし、物語の面白さを味わう。<br>・【漢文】「女」がなぜ死に、またどのようにして生き返ったか適切に読み取る。<br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト | 予定 22 54<br><br>実施 0            |
| 10  | 問題演習                 | 2次試験対策・記述演習                                                                 | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                              | 後期中間まで                          |
| 11  | 問題演習                 | 共通テスト対策・マーク演習<br>2次試験対策・記述演習<br>＜後期・中間試験＞                                   | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                                                                                                                | 予定 25 79<br><br>実施 0            |
| 12  | 問題演習                 | 共通テスト対策・マーク演習                                                               | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                              | 年度末<br><br>予定 16 95<br><br>実施 0 |
| 1   | 問題演習                 | 共通テスト対策・マーク演習<br>2次講習                                                       | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                              |                                 |
| 2・3 |                      | 2次講習                                                                        |                                                                                                                                                                                                                       |                                 |

No.

2023 年度 国語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                                                 |     |   |      |   |          |              |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 科目            | 古典B                                                                                                             | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年次・一般コース・理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 『新探究古典B 古文編』(桐原書店)<br>『新探究古典B 漢文編』(桐原書店)<br>『体系古典文法』(数研出版)・『漢文必携』(桐原書店)<br>『古文単語315』(桐原書店)・『マドンナ古文常識217』(学習研究社) |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 単語や古典文法を身につけ正確に本文を理解することで、古典としての古文と漢文を読む能力を養う。<br>2. 古典についての理解や関心を深めることを通して、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【関心・意欲・態度】テーマについて主体的に考え、深めようとしている。(観察・ワークシート)<br>【読む能力】文章の展開・構成を捉え、書き手の意図を考えながら読んでいる。(ペーパーテスト・ノート・ワークシート・自己評価・相互評価)<br>【知識・理解】古典文法・語彙、漢文句法・語彙を理解している。(ペーパーテスト) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「みなさんは、なぜ古典を学ぶのですか？」文系に進んだみなさんには、一度は考えてほしい問いです。私たちは、どれほど豊かな伝統文化に養われているのか、古典文学の読解を通じてみなさんに感じてほしいと思います。古典文学に触れ、「ああ、昔の人も『同じこと』を感じたんだな」ということが実感されると、「私はひとりじゃない」と思う時があります。今後の人生で心の支えになる作品に出会うかもしれません。そして、時代が隔たっていればいるほど、「あ、昔の人も、これと同じことを感じたのかな…」と直感したときの喜びは深いです。「古典を学ぶ喜び」を、高校生活最後の1年でぜひ味わってほしいと思います。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名            | 教科書項目等                                                                                         | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                     | 授業時数                  |
|-----|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 4   | 古文:物語<br>漢文:説話 | ガイダンス<br>古文:源氏物語「若紫との出会い」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>漢文:「画竜点睛」<br>(一部プリント・家庭学習課題)                   | ・【古文】古典常識の確認を行い宮廷文学の背景を把握する。<br>・【古文】和歌を正確に解釈して心情を理解する。<br>・【古文】人物関係を把握しながら、光源氏が尼君と少女をどのように捉えたかを理解する。<br>・【漢文】故事成語を教材として、基本的な文法事項を振り返る。<br><br>◎課題や授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                    | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 9 9 |
| 5   | 古文:説話<br>漢文:思想 | 古文:古今著聞集<br>「刑部卿敦兼と北の方」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>＜中間試験Ⅰ＞<br><br>漢文:論語<br>(一部プリント・家庭学習課題)          | ・【古文】掛詞の技法を理解し、わかりやすく現代語訳をする。<br>・【古文】平安時代の結婚について、古典常識を踏まえた上で内容を正しく理解する。<br>・【古文】敦兼に対する北の方の気持ちの変化と、その要因を理解する。<br>・【漢文】孔子が理想とする学問・教育・政治のあり方を理解する。<br><br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                         | 実施 0<br><br>前期中間Ⅱまで   |
| 6   | 古文:歴史<br>漢文:思想 | 模試対策・マーク演習<br>古文:大鏡「三船の才」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>漢文:孟子「性善」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>＜中間試験Ⅱ＞        | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>・【古文】和歌に用いられている技巧を理解し、歌に描き出された情景を読み取る。<br>・【古文】道長と公任の人物像、漢詩と和歌に対する当時の見方を考察する。<br>・【漢文】孟子が主張する「性善説」とその根拠を理解する。<br>・【漢文】荀子が主張する「性悪説」とその根拠を理解する。<br><br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト | 予定 7 16<br><br>実施 0   |
| 7・8 | 古文:物語<br>漢文:思想 | 模試対策・記述演習、マーク演習<br>古文:堤中納言物語<br>「虫めづる姫君」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>漢文:老子「無用之用」<br>(一部プリント・家庭学習課題)  | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>・【古文】物語に表れたものの見方、考え方について現代と比較して考える。<br>・【古文】姫君の言動がどのような考えによるものか適切に読み取る。<br>・【漢文】老荘思想について理解する。<br><br>◎課題や授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                   | 前期期末まで                |
| 9   | 古文:日記<br>漢文:史伝 | 古文:和泉式部日記<br>「夢よりもはかなき世の中を」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>漢文:「江南橋為江北枳」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>＜前期・期末試験＞ | ・【古文】橋の花、ほととぎすは何をたとえているのか読み取る。<br>・【古文】人物関係を把握しながら、作者の心情の変化を理解する。<br>・【漢文】本文で用いられている比喻を理解し、晏子の主張を読み取る。<br><br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                                                   | 予定 11 27<br><br>実施 0  |
| 10  | 問題演習           | 2次試験対策・記述演習                                                                                    | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                                    | 後期中間まで                |
| 11  | 問題演習           | 2次試験対策・記述演習<br>共通テスト対策・マーク演習<br><br>＜後期・中間試験＞                                                  | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                                                                                                                      | 予定 13 40<br><br>実施 0  |
| 12  | 問題演習           | 共通テスト対策・マーク演習                                                                                  | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                                    | 年度末                   |
| 1   | 問題演習           | 共通テスト対策・マーク演習<br>2次講習                                                                          | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                                    |                       |
| 2・3 |                | 2次講習                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                 |                       |
|     |                |                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                 | 予定 8 48<br><br>実施 0   |

No.

2023 年度 国語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                                                 |     |   |      |   |          |              |
|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 科目            | 古典B                                                                                                             | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年次・探究コース・理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 『新探究古典B 古文編』(桐原書店)<br>『新探究古典B 漢文編』(桐原書店)<br>『体系古典文法』(数研出版)・『漢文必携』(桐原書店)<br>『古文単語315』(桐原書店)・『マドンナ古文常識217』(学習研究社) |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 単語や古典文法を身につけ正確に本文を理解することで、古典としての古文と漢文を読む能力を養う。<br>2. 古典についての理解や関心を深めることを通して、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確に捉え、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【関心・意欲・態度】テーマについて主体的に考え、深めようとしている。(観察・ワークシート)<br>【読む能力】文章の展開・構成を捉え、書き手の意図を考えながら読んでいる。(ペーパーテスト・ノート・ワークシート・自己評価・相互評価)<br>【知識・理解】古典文法・語彙、漢文句法・語彙を理解している。(ペーパーテスト) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「みなさんは、なぜ古典を学ぶのですか？」理系に進んだみなさんにこそ、古典を学ぶ意義を伝えたいと思います。私たちは、どれほど豊かな伝統文化に養われているのか、古典文学の読解を通じてみなさんに感じてほしいと思います。古典文学に触れ、「ああ、昔の人も『同じこと』を感じたんだな」ということが実感されると、「私はひとりじゃない」と思う時があります。幾千年の時を超えた作品が、今後の人生での心の支えになるかもしれません。そして、時代が隔たっていればいほど、「あ、昔の人も、これと同じことを感じたのかな…」と直感したときの喜びは深いです。理系の皆さんは、今後の進路で古典文学を深く学ぶ機会はないかなありません。だからこそ、「古典を学ぶ喜び」を、高校生活最後の1年でぜひ味わってほしいと思います。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                  | 教科書項目等                                                                                                              | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                               | 授業時数                  |
|-----|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|
| 4   | 古文:物語<br>漢文:説話       | ガイダンス<br>古文:源氏物語「若紫との出会い」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>漢文:「画竜点睛」「漱石枕流」<br>(一部プリント・家庭学習課題)                                  | ・【古文】古典常識の確認を行い宮廷文学の背景を把握する。<br>・【古文】和歌を正確に解釈して心情を理解する。<br>・【古文】人物関係を把握しながら、光源氏が尼君と少女をどのように捉えたかを理解する。<br>・【漢文】故事成語を教材として、基本的な文法事項を振り返る。<br><br>◎課題や授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                              | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 9 9 |
| 5   | 古文:説話<br>漢文:思想       | 古文:古今著聞集<br>「刑部卿敦兼と北の方」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>＜中間試験Ⅰ＞<br><br>漢文:論語<br>(一部プリント・家庭学習課題)                               | ・【古文】掛詞の技法を理解し、わかりやすく現代語訳をする。<br>・【古文】平安時代の結婚について、古典常識を踏まえた上で内容を正しく理解する。<br>・【古文】敦兼に対する北の方の気持ちの変化と、その要因を理解する。<br>・【漢文】孔子が理想とする学問・教育・政治のあり方を理解する。<br><br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                   | 実施 0<br><br>前期中間Ⅱまで   |
| 6   | 古文:歴史<br>随筆<br>漢文:思想 | 模試対策・マーク演習<br>古文:大鏡「三船の才」<br>枕草子「二月つごもりごろに」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>漢文:孟子「性善」<br>荀子「性悪」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>＜中間試験Ⅱ＞ | ・【古文】和歌に用いられている技巧を理解し、歌に描き出された情景を読み取る。<br>・【古文】道長と公任の人物像、漢詩と和歌に対する当時の見方を考察する。<br>・【古文】古代における和歌贈答の意味、連歌について理解する。<br>・【漢文】孟子が主張する「性善説」とその根拠を理解する。<br>・【漢文】荀子が主張する「性悪説」とその根拠を理解する。<br><br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト    | 予定 7 16<br><br>実施 0   |
| 7・8 | 古文:物語<br>漢文:思想       | 模試対策・記述演習・マーク演習<br>古文:堤中納言物語<br>「虫めづる姫君」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>漢文:老子「無用之用」<br>(一部プリント・家庭学習課題)                       | ・【古文】物語に表れたものの見方、考え方について現代と比較して考える。<br>・【古文】姫君の言動がどのような考えによるものか適切に読み取る。<br>・【漢文】荀子が主張する「性悪説」とその根拠を理解する。<br>・【漢文】老荘思想について理解する。<br><br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                      | 前期期末まで                |
| 9   | 古文:日記<br>漢文:史伝<br>小説 | 古文:和泉式部日記<br>「夢よりもはかなき世の中を」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>漢文:「江南橋為江北枳」<br>(一部プリント・家庭学習課題)<br>＜前期・期末試験＞                      | ・【古文】橘の花、ほととぎすは何をたとえているのか読み取る。<br>・【古文】人物関係を把握しながら、作者の心情の変化を理解する。<br>・【漢文】本文で用いられている比喻を理解し、晏子の主張を読み取る。<br>・【漢文】登場人物の人物像を明らかにし、物語の面白さを味わう。<br>・【漢文】「女」がなぜ死に、またどのようにして生き返ったか適切に読み取る。<br><br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト | 予定 11 27<br><br>実施 0  |
| 10  | 問題演習                 | 2次試験対策・記述演習                                                                                                         | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                              | 後期中間まで                |
| 11  | 問題演習                 | 共通テスト対策・マーク演習<br>2次試験対策・記述演習<br>＜後期・中間試験＞                                                                           | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>◎定期試験と授業時間内の取り組みの様子<br>◎漢文音読テスト                                                                                                                                                | 予定 13 40<br><br>実施 0  |
| 12  | 問題演習                 | 共通テスト対策・マーク演習                                                                                                       | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                              | 年度末                   |
| 1   | 問題演習                 | 共通テスト対策・マーク演習<br>2次講習                                                                                               | ・問題演習を通して読解力を身につけ、内容やテーマについて考えを深める。<br><br>◎授業時間内・復習の取り組みの様子                                                                                                                                                              |                       |
| 2・3 |                      | 2次講習                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                           |                       |
|     |                      |                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                           | 予定 8 48<br><br>実施 0   |

No.

2023 年度 国語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |        |     |   |      |         |          |                |
|---------------|--------|-----|---|------|---------|----------|----------------|
| 科目            | 教養国語   | 単位数 | 1 | 週時間数 | 2(後期のみ) | 年次・コース・組 | 3年次・一般コース・3～4組 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 現代文問題集 |     |   |      |         |          |                |

① 学習の到達目標

- 1 長文を読解するためのポイントを繰り返し確認し、本文をより速く、的確に読む力を身につける。
- 2 本文のテーマや要点を把握し、記述問題の解答の書き方を身につける。
- 3 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。

② 評価の観点、方法

【関心・意欲・態度】本文の構造を意識しながら、本文のテーマや要点を的確に把握しようとしている。(態度)  
【書く能力】論拠に基づいた解答を作成している。(ペーパーテスト・自己評価・相互評価)  
【読む能力】論理の構成や展開を理解しながら、叙述に即して的確に読み取っている。(ペーパーテスト・自己評価・相互評価)  
【知識・理解】表現の特徴やきまり、漢字や語句などを理解している。(ペーパーテスト・態度)

③ 担当者から

長文を読解するためのポイント・記述問題を解くためのポイントを学習しながら、減点されない「記述」解答の書き方を身につけていきましょう。  
自分で解答を作ることができると、文章を読むことがより楽しくなりますよ。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名      | 教科書項目等                                                      | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 授業時数     |
|-----|----------|-------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4   |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 前期中間Ⅰまで  |
|     |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 予定 0     |
| 5   |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 実施       |
| 6   |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 前期中間Ⅱまで  |
|     |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 予定 0     |
| 7・8 |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 実施 0     |
| 9   |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 前期期末まで   |
|     |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 予定 0     |
| 10  | 問題<br>演習 | 論理的な文章<br>文学的な文章<br>(必要に応じて<br>実用的な文章も含む)<br>を中心とした<br>問題演習 | <p>全体を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長文を読解するためのポイント、記述問題を解くためのポイントを理解する。</li> <li>・解答の添削を行いながら解答の仕方を学習していく。</li> </ul> <p>◎態度やペーパーテスト、活動への取り組み方<br/>○テーマに関連した作品などを読ませ、作品やテーマに興味関心を持たせる。</p> <p>論理的な文章</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成、展開、要旨などを的確に捉え、筆者の主張と根拠を理解する。</li> <li>・問いを正確に理解し、問いに沿った解答を作成する。</li> <li>・筆者の主張と根拠について批評し、テーマについて自分の考えを深める。</li> </ul> <p>文学的な文章</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の行動と心情の関係を理解する。</li> <li>・登場人物の生き方を通して、自己のあり方を考える。</li> <li>・表現の特徴や面白さを味わう。</li> </ul> <p>○想像ではなく、本文から推測するように促す。</p> | 後期中間まで   |
| 11  |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 予定 12 12 |
| 12  |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 実施 0     |
| 1   |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 年度末      |
| 2・3 |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 予定 8 20  |
|     |          |                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 実施 20 20 |

No.

2023 年度 地歴公民 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                         |     |   |      |   |          |            |
|---------------|-----------------------------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 世界史B                                    | 単位数 | 3 | 週時間数 | 3 | 年次・コース・組 | 3年次・文系全クラス |
| 使用教科書<br>副教材等 | 教科書『世界史B』(実教出版)<br>ニューステージ『世界史詳覧』(浜島書店) |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

世界各地の文化圏の成立過程を風土や政治、文化などの多方面から認識させ、考察を深めることによって歴史的思考力を養い、国際社会に生きる人間としての必要な資質を養う。

② 評価の観点、方法

- 関心・意欲・態度 歴史に対する興味関心を持って授業に取り組むことができる。
- 思考・判断・表現 歴史の転換点や事象の歴史的意義を説明することができる。
- 技能 資料や授業からの多面的考察や創造力を駆使して歴史へのアプローチができる。
- 知識・理解 授業や試験で知識の定着をはかることができる。

③ 担当者から

世界史は膨大な知識量との格闘です。  
でも知識を定着させ、知識と知識をつなぐことができれば、歴史の大きな流れが少しわかります。  
歴史の大きな流れが少しわかれば、これから私たちがどう生きていったらいいのか、どういう社会がいいのかという大切なことを歴史的な視点から考えることができます。  
知識をつなぎ、知識を使うのです。暗記は最後です。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名       | 教科書項目等                     | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                              | 授業時数     |
|-----|-----------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4   | 一体化に向かう世界 | 近代ヨーロッパと大航海時代              | ・ルネサンスと宗教改革<br>・主権国家体制の成立<br>・激化する覇権競争 ◎世界が一体化したことによる影響を理解し、説明することができる。<br>・近世ヨーロッパの社会と文化                | 前期中間Ⅰまで  |
|     |           | 環太平洋革命とバクス=ブリタニカ           | ・イギリスの産業革命<br>・南北アメリカの革命 ◎産業革命の進展とそれに伴う社会の変容を学習し、市民社会の成長につなげて理解することができる。                                 | 予定 13 13 |
| 5   |           | 〈前期中間試験Ⅰ〉                  | ・フランス革命とナポレオン帝政<br>◎試験、授業、課題への取り組みを総合的に評価します。                                                            | 実施 0     |
|     |           | 近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家          | ・ウィーン体制と1848年の革命<br>・19世紀の欧米の文化 ◎国民国家の形成と自由主義について確認する。                                                   | 前期中間Ⅱまで  |
| 6   | 地球世界の到来   | 地球をおおう帝国主義と抵抗              | ・ヨーロッパとアメリカの帝国主義<br>・諸地域の抵抗(西アジア、アフリカ、インド、東南アジア) ◎世界的規模での変容について学習し理解する。                                  | 予定 12 25 |
|     |           | 〈前期中間試験Ⅱ〉                  | ◎試験、授業、課題への取り組みを総合的に評価します。                                                                               | 実施 0     |
| 7・8 |           | 地球をおおう帝国主義と抵抗              | ・中華帝国の崩壊と中華民国の創立 ◎中国の共和政への意向と動乱について確認する。<br><br>・19世紀～20世紀初頭の朝鮮半島と日本列島 ◎世界史の中の日本について理解し、関連付けて説明することができる。 | 前期期末まで   |
| 9   |           | 二つの世界大戦                    | ・第一次世界大戦<br>・ヴェルサイユ体制と国際協調<br>・アジアのナショナリズムの台頭<br>・世界恐慌とファシズム<br>○戦争の原因や結果について多角的に考察し、平和を希求する態度を養う。       | 予定 18 43 |
|     |           | 〈前期期末試験〉                   | ◎試験、授業、課題への取り組みを総合的に評価します。                                                                               | 実施 0     |
| 10  |           | 二つの世界大戦                    | ・満州事変と日中戦争<br>・第二次世界大戦                                                                                   | 後期中間まで   |
|     |           | 冷戦から多極的国际社会へ               | ・アジア・諸国の独立と「第三勢力」<br>・戦後体制の動揺、多極化とソ連の崩壊<br>◎現代の諸問題について情報を整理し、多角的に考察することができる。                             |          |
| 11  |           | グローバル化と地球環境の危機             | ・経済のグローバル化と地域統合<br>・新しい国際秩序                                                                              | 予定 22 65 |
|     |           | 共通試験対策<br>(後期中間試験)         | ・基本問題演習<br>・マーク演習 ◎試験、授業、課題への取り組みを総合的に評価します。                                                             | 実施 0     |
| 12  |           | 共通試験対策                     | ・基本問題演習<br>・マーク演習                                                                                        | 年度末      |
| 1   | 演習        | 共通試験対策<br>私大試験対策<br>論述試験対策 | ・マーク演習<br>・私大過去問演習<br>・論述問題添削                                                                            |          |
| 2・3 |           | 私大試験対策<br>論述試験対策           | ・私大過去問演習<br>・論述問題添削                                                                                      | 予定 13 78 |
|     |           |                            |                                                                                                          | 実施 0     |

No.

2023 年度 地歴公民 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                           |     |   |      |   |          |       |
|---------------|-------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-------|
| 科目            | 日本史B                                      | 単位数 | 3 | 週時間数 | 3 | 年次・コース・組 | 3年次文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 教科書『詳説 日本史B』(山川出版社)<br>資料集『図説日本史通覧』(帝国書院) |     |   |      |   |          |       |

① 学習の到達目標

日本の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

② 評価の観点、方法

○関心・意欲・態度 歴史に対する興味関心を持って授業に取り組むことができる。  
○思考・判断・表現 歴史の転換点や事象の歴史的意義を説明することができる。  
○技能 資料や授業からの多面的考察や創造力を駆使して歴史へのアプローチができる。  
○知識・理解 授業や試験で知識の定着をはかることができる。  
※ 定期テスト(85%)、課題提出物状況やその内容や授業態度等(15%)で評価します。

③ 担当者から

○知識と知識をつなぐことができれば、歴史の流れがわかってきます。なぜ、これが起こったのかを考えてみるのが大事です。  
○史料・資料を正しく上手に使い、多角的かつ客観的な思考を身につけてください。  
○ともに頑張っていきましょう。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名 | 教科書項目等                    | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                              | 授業時数                    |
|-----|-----|---------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 4   | 江戸  | 幕藩体制の展開                   | ・幕政の安定<br>・経済の発展<br>・元禄文化の成熟                                             | 前期中間Ⅰまで<br>予定 15 15     |
| 5   | 江戸  | 幕藩体制の動揺<br>〈前期中間試験Ⅰ〉      | ・幕政の改革<br>・宝暦、天明期の文化<br>・幕府の衰退<br>・化政文化<br>◎課題、授業への取り組み、試験の結果を総合的に評価します。 | 実施<br>前期中間Ⅱまで           |
| 6   | 江戸  | 江戸の幕末<br>〈前期中間試験Ⅱ〉        | ・開国と幕末の動乱<br>◎課題、授業への取り組み、試験の結果を総合的に評価します。                               | 予定 12 27<br>実施 0        |
| 7・8 | 明治  | 近代国家の成立                   | ・明治維新、富国強兵、立憲国家の成立                                                       | 前期末まで                   |
| 9   | 明治  | 近代国家の成立<br>〈前期期末試験〉       | ・日清、日露戦争と国際情勢<br>・近代産業の発展、近代文化の発達<br>◎課題、授業への取り組み、試験の結果を総合的に評価します。       | 予定 18 45<br>実施 0        |
| 10  | 大正  | 二つの世界大戦とアジア               | ・第一次大戦と日本、ワシントン体制<br>・恐慌の時代と軍部の台頭<br>・第二次大戦と日本                           | 後期中間まで                  |
| 11  | 昭和  | 第二次大戦後の日本<br>〈後期中間試験〉     | ・占領期の改革、55年体制、高度経済成長、オイルショック後の日本<br>◎課題、授業への取り組み、試験の結果を総合的に評価します。        | 予定 21 66<br>実施 0        |
| 12  | 演習  | 大学入学共通テスト対策演習             | ○ マーク式問題集の演習                                                             | 年度末<br>予定 15 81<br>実施 0 |
| 1   | 演習  | 大学入学共通テスト対策演習<br>論述試験対策演習 | ○ マーク式問題集の演習<br>○ 論述試験対策講習                                               |                         |
| 2・3 | 演習  | 論述試験対策演習                  | ○ 論述試験対策講習                                                               |                         |

No.

2023 年度 地歴公民 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                 |     |   |      |   |          |             |
|---------------|-------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-------------|
| 科目            | 地理B                                             | 単位数 | 3 | 週時間数 | 3 | 年次・コース・組 | 3年文系(4組・5組) |
| 使用教科書<br>副教材等 | 新詳地理B(帝国書院)<br>新詳高等地図(帝国書院)<br>最新地理図表GEO(第一学習社) |     |   |      |   |          |             |

① 学習の到達目標

- 世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、地理的な見方や考え方を学ぶ。
- 身の回りの地理的課題を見つけ、GISで表現し分析したり、資料に触れながら自分なりに考察する。

② 評価の観点、方法

- 関心・意欲・態度：世界の地形・気候・文化・各種産業などの様々な地理的事象に関心を持ち、様々な角度からそれを理解しようとする。
- 思考・判断・表現：事象の背景となる要因や、共通性・関連性を見だし、それを自分自身の言葉で表現できる。
- 技能：資料や地図などを読み取り、それを活用できる力がある。GISを活用し分析することができる。
- 知識・理解：自然環境や社会環境など人間を取り巻く環境についての基本的な知識を身に付けている。

③ 担当者から

- 世界で起きている問題や事象について関心を持ち、「なぜ？」を感じたら聞いたり調べたりしましょう。  
(例)ロシアとウクライナの問題がなぜ起こり、それによってどのような影響(食・エネルギー・貿易 など)が世界(日本)にもたらされているのか？
- 身近な生活の中や、普段当たり前のように活用しているものの中にも地理のヒントがたくさんあります。特に、「GoogleMap」や「Googleアース」は、位置情報や自然環境の実態や分布について、より正確なデータを扱うことが出来るので、どんどん活用していきましょう。
- 地図帳やデータブックをどんどん活用しましょう。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画 (どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

| 月   | 単元名        | 教科書項目等                                                   | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 授業時数                |
|-----|------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 4   | 世界の人口と人口問題 | 世界の人口<br>人口問題                                            | ・過去から現在までの世界の人口について、その特徴と人口の形態・構成や移動の歴史について理解する。<br>・先進国・発展途上国それぞれで発生している人口問題について理解する。<br>◎世界の人口問題について理解し、その要因や発生するしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、それぞれの人口問題を解決するためには何が必要かを考えることができるか。                                                                                                                                                                                   | 前期中間Ⅰまで<br>予定 16 16 |
| 5   | 村落と都市      | 都市の機能と生活<br>日本の都市<br>＜前期中間Ⅰ＞                             | ・集落の立地条件や発達について理解する。<br>◎集落はどのように発生し、どのように都市として発達したか。都市はどのような機能を持ち、どのような構造になっているかについて、地形図や資料をもとにして考察することができるか。<br>・村落・都市の形態による分類と特色、歴史的にみた発達について理解する。<br>・日本の都市の成り立ちや発達の様子について、地形や歴史などを踏まえながら理解する。<br>◎日本の都市の特徴は何かについて、様々な角度から考え、その過程や結果を適切に表現しているか。                                                                                                                   | 実施 0<br>前期中間Ⅱまで     |
| 6   | 都市居住問題     | 世界の都市・居住問題<br>先進国の都市問題<br>途上国の都市問題<br>日本の都市問題<br>＜前期中間Ⅱ＞ | ・先進国・発展途上国それぞれで発生している都市問題について理解する。<br>◎世界の都市・居住問題について理解し、その要因や発生するしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、都市・居住問題の解決には何が必要かを考えることができるか。                                                                                                                                                                                                                                          | 予定 13 29<br>実施 0    |
| 7・8 | 生活文化<br>宗教 | 生活文化の地域的差異<br>日本の生活文化<br>世界の民族・言語<br>世界の宗教               | ・世界の人々の生活を、宗教や言語、習慣などの文化的特徴によって分類して理解する。<br>◎世界の民族・宗教について、それぞれを比較しながら、成り立ちや広がりなどについて理解することができるか。<br>◎民族と言語や、宗教と生活の関わりに関して、写真などの資料からその特徴に気づき、まとめることができるか。<br>◎生活文化について、衣食住を取りあげ、それらの分布や地域的な特徴などについて考察することができるか。                                                                                                                                                         | 前期期末まで              |
| 9   | 現代世界の国家    | 世界の民族・領土問題<br>民族の共生<br>＜前期期末試験＞                          | ・世界で起こっている民族問題・領土問題について理解する。<br>◎日本を含めた世界各地で起こっている領土をめぐる問題や、民族間の対立、独立に関する問題などについて、その背景を理解しながら考察することができるか。                                                                                                                                                                                                                                                              | 予定 19 48<br>実施 0    |
| 10  | 現代世界の諸地域   | 東アジア・東南アジア・南アジア・西アジア                                     | ・アジア地誌。<br>◎東アジアについて、地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、隣国との交流などを項目ごとに整理して考察することができるか。<br>◎東南アジアについて、自然、歴史と文化・民族、農業と変化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題などを項目ごとに整理して考察することができるか。<br>◎南アジアについて、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、工業・IT産業などについて、項目ごとに整理して考察することができるか。<br>◎西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目し、自然、イスラムの生活文化、交易と都市、資源と産業の面において、似た性格を持つ二つの地域を比較して考察することができるか。 | 後期中間まで              |
| 11  |            | アフリカ、ヨーロッパ<br>＜後期中間試験＞                                   | ・ヨーロッパ地誌<br>◎北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化という文化に着目し、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域との結びつきなど面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察することができるか。<br>◎ヨーロッパについて、気候と大地、ヨーロッパの成り立ち、域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパなどについて考察することができるか。                                                                                                                                           | 予定 22 70<br>実施 0    |
| 12  |            | アメリカ、ヨーロッパ                                               | ・南北アメリカ地誌<br>◎アングロアメリカについて、ゲルマン文化という文化に基づいて、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界のなかのアメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダということがらを項目ごとに整理して考察することができるか。<br>◎ラテンアメリカについて、ローマン文化という文化に基づいて、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色あることがらを、他のことがらと関連づけて考察することができるか。                                                                                                               | 年度末                 |
| 1   |            | アングロアメリカ、ラテンアメリカ                                         | ・オセアニア地誌<br>◎オセアニアについて、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、強まるアジアとの結びつき、アジア諸国に輸出される農畜産物という特色あることがらについて考察することができるか。                                                                                                                                                                                                                                                                |                     |
|     |            | オセアニア                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                     |
| 2・3 |            |                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 予定 15 85<br>実施 0    |

No.

2023 年度 地歴公民 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                 |     |   |      |   |          |             |
|---------------|-------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-------------|
| 科目            | 地理B                                             | 単位数 | 3 | 週時間数 | 3 | 年次・コース・組 | 3年文系(4組・5組) |
| 使用教科書<br>副教材等 | 新詳地理B(帝国書院)<br>新詳高等地図(帝国書院)<br>最新地理図表GEO(第一学習社) |     |   |      |   |          |             |

① 学習の到達目標

- 世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、地理的な見方や考え方を学ぶ。
- 身の回りの地理的課題を見つけ、GISで表現し分析したり、資料に触れながら自分なりに考察する。

② 評価の観点、方法

- 関心・意欲・態度：世界の地形・気候・文化・各種産業などの様々な地理的事象に関心を持ち、様々な角度からそれを理解しようとする。
- 思考・判断・表現：事象の背景となる要因や、共通性・関連性を見だし、それを自分自身の言葉で表現できる。
- 技能：資料や地図などを読み取り、それを活用できる力がある。GISを活用し分析することができる。
- 知識・理解：自然環境や社会環境など人間を取り巻く環境についての基本的な知識を身に付けている。

③ 担当者から

- 世界で起きている問題や事象について関心を持ち、「なぜ？」を感じたら聞いたり調べたりしましょう。  
(例)ロシアとウクライナの問題がなぜ起こり、それによってどのような影響(食・エネルギー・貿易 など)が世界(日本)にもたらされているのか？
- 身近な生活の中や、普段当たり前のように活用しているものの中にも地理のヒントがたくさんあります。特に、「GoogleMap」や「Googleアース」は、位置情報や自然環境の実態や分布について、より正確なデータを扱うことが出来るので、どんどん活用していきましょう。
- 地図帳やデータブックをどんどん活用しましょう。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名        | 教科書項目等                                        | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 授業時数             |
|-----|------------|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 4   |            | ・世界の農林水産業                                     | ・世界の農業地域の区分と農業の基本的分類について理解しよう。・世界の農業について、自然条件と社会条件から考察しよう。・世界と日本の水産業の現状ならびに問題点について考察しよう。<br>◎授業での積極性や態度(グループ学習・ペア学習・調べ学習の様子、毎時間のワークシートへの取り組み、レポートを含む)。<br>○身近な地域の農業問題にも関心を持ち、その問題点や対策・取り組みをまとめておこう。                                                                                                                                                                    | 前期中間Ⅰまで          |
|     |            | 世界のエネルギー・鉱産資源                                 | ・世界のエネルギー・鉱産資源の分布や、生産と消費について理解しよう。・食糧需給の地域的偏りを、事例をもとに考察させる。<br>◎授業での積極性や態度(グループ学習・ペア学習・調べ学習の様子、毎時間のワークシートへの取り組み、レポートを含む)。<br>○身近な地域や国内のエネルギーや資源問題に関心を持ち、新聞やニュースから情報を収集しよう。                                                                                                                                                                                             | 予定 16 16         |
| 5   | 資源と産業      | 資源・エネルギー問題                                    | ・世界のエネルギーをめぐり、エネルギー生産や消費の抱える課題などを考察しよう。<br>◎授業での積極性や態度(グループ学習・ペア学習・調べ学習の様子、毎時間のワークシートへの取り組み、レポートを含む)。<br>○世界のエネルギーや資源問題に関心を持ち、新聞やニュースから情報を収集しよう。                                                                                                                                                                                                                       | 実施 0             |
|     |            | 世界の工業                                         | ・さまざまな工業の特色と立地条件・変化について、具体的事例を通して理解しよう。<br>◎授業での積極性や態度(グループ学習・ペア学習・調べ学習の様子、毎時間のワークシートへの取り組み、レポートを含む)。<br>○各国・各地域の工業の抱える問題について、新聞やニュースに普段から目を向け、自分なりの考えをまとめておこう。                                                                                                                                                                                                        | 前期中間Ⅱまで          |
| 6   |            | <中間試験Ⅰ>                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 予定 13 29         |
| 7・8 | 世界の人口と人口問題 | 世界の人口                                         | ・過去から現在までの世界の人口について、その特徴と人口の形態・構成や移動の歴史について理解する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 実施 0             |
|     |            | 人口問題<br><中間試験Ⅱ>                               | ・先進国・発展途上国それぞれで発生している人口問題について理解する。<br>◎世界の人口問題について理解し、その要因や発生するしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、それぞれの人口問題を解決するためには何が必要かを考えることができるか。                                                                                                                                                                                                                                       |                  |
|     | 村落と都市      | 都市の機能と生活                                      | ・集落の立地条件や発達について理解する。<br>◎集落はどのように発生し、どのように都市として発達したか。都市はどのような機能を持ち、どういう構造になっているかについて、地形図や資料をもとにして考察することができるか。<br>・村落・都市の形態による分類と特色、歴史的にみた発達について理解する。                                                                                                                                                                                                                   | 前期期末まで           |
|     | 都市居住問題     | 世界の都市・居住問題<br>先進国の都市問題<br>途上国の都市問題<br>日本の都市問題 | ・先進国・発展途上国それぞれで発生している都市問題について理解する。<br>◎世界の都市・居住問題について理解し、その要因や発生するしくみを、発展途上国、先進国、日本の事例で考察するとともに、都市・居住問題の解決には何が必要かを考えることができるか。                                                                                                                                                                                                                                          | 予定 19 48         |
| 9   | 生活文化<br>宗教 | 生活文化の地域的差異<br>日本の生活文化<br>世界の民族・言語<br>世界の宗教    | ・世界の人々の生活を、宗教や言語、習慣などの文化的特徴によって分類して理解する。<br>◎世界の民族・宗教について、それぞれを比較しながら、成り立ちや広がりなどについて理解することができるか。<br>◎民族と言語や、宗教と生活の関わりに関して、写真などの資料からその特徴に気づき、まとめることができるか。<br>◎生活文化について、衣食住を取りあげ、それらの分布や地域的な特徴などについて考察することができるか。                                                                                                                                                         | 実施 0             |
| 10  | 現代世界の国家    | 世界の民族・領土問題<br>民族の共生<br><前期・期末試験>              | ・世界で起こっている民族問題・領土問題について理解する。<br>◎日本を含めた世界各地で起きている領土をめぐる問題や、民族間の対立、独立に関する問題などについて、その背景を理解しながら考察することができるか。                                                                                                                                                                                                                                                               | 後期中間まで           |
|     |            | 東アジア・東南アジア・南アジア・西アジア                          | ・アジア地誌。<br>◎東アジアについて、地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、中国の動向と日本、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業、隣国との交流などを項目ごとに整理して考察することができるか。<br>◎東南アジアについて、自然、歴史と文化・民族、農業と変化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化と諸課題などを項目ごとに整理して考察することができるか。<br>◎南アジアについて、地形と気候、歩みとヒンドゥー教、インドの農業と農村、工業・IT産業などについて、項目ごとに整理して考察することができるか。<br>◎西アジアと中央アジアについて、乾燥帯が広がる自然環境に着目し、自然、イスラムの生活文化、交易と都市、資源と産業の面において、似た性格を持つ二つの地域を比較して考察することができるか。 |                  |
| 11  | 現代世界の諸地域   | アフリカ、ヨーロッパ<br><後期中間試験>                        | ・ヨーロッパ地誌<br>◎北アフリカとサハラ以南のアフリカについて、中近東文化と中南アフリカ文化という文化に着目し、気候と植生、歴史的背景と文化、一次産品への依存、生活の変化と他地域との結びつきなど面において、対照的な性格の二つの地域を比較して考察することができるか。<br>◎ヨーロッパについて、気候と大地、ヨーロッパの成り立ち、域内の結びつき、農業と共通農業政策、移り変わる工業、これからのヨーロッパなどについて考察することができるか。                                                                                                                                           | 予定 22 70         |
|     |            | アフリカ、ヨーロッパ                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 実施 0             |
| 12  |            | アングロアメリカ、ラテンアメリカ                              | ・南北アメリカ地誌<br>◎アングロアメリカについて、ゲルマン文化という文化に基づいて、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、科学技術と産業、世界のなかのアメリカ合衆国、アメリカ合衆国との結びつきが強いカナダということがらを項目ごとに整理して考察することができるか。<br>◎ラテンアメリカについて、ローマン文化という文化に基づいて、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色あることがらを、他のことがらと関連づけて考察することができるか。                                                                                                               | 年度末              |
| 1   |            | オセアニア                                         | ・オセアニア地誌<br>◎オセアニアについて、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、強まるアジアとの結びつき、アジア諸国に輸出される農畜産物という特色あることがらについて考察することができるか。                                                                                                                                                                                                                                                                |                  |
| 2・3 |            |                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 予定 15 85<br>実施 0 |

No.

2023 年度 地理歴史科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                 |     |   |      |   |          |        |
|---------------|-------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------|
| 科目            | 地理B                                             | 単位数 | 3 | 週時間数 | 3 | 年次・コース・組 | 3年探究理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 新詳地理B(帝国書院)<br>新詳高等地図(帝国書院)<br>最新地理図表GEO(第一学習社) |     |   |      |   |          |        |

① 学習の到達目標

- ①現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- ②地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

② 評価の観点、方法

- 関心・意欲・態度 世界の地形・気候・文化・産業などの様々な地理的事象に関心を持ち、様々な角度からそれを理解しようとする。
- 思考・判断・表現 事象の背景となる要因や、共通性・関連性を見だし、それを自分自身の言葉で表現できる。
- 資料活用・技能 さまざまな図表を読み取り、理解を深めるとともに活用できる能力を身に付けている。
- 知識・理解 自然環境や社会環境など人間を取り巻く環境について、基本的な知識を身に付けている。

③ 担当者から

- 2年生で学習した内容を総復習したうえで、さらに系統的な内容を学んでいきます。その後、地誌を学ぶことになります。各分野を関連付けて学んでいくことがとても大切です。
- 日頃から世界のさまざまな事象に目を向け視野を広げよう。地理的な知識はもちろんのこと、経済や歴史的背景にも興味関心を持ちましょう。
- 身の回りの生活の中にこそ、地理の学習につながるヒントが隠されています。身近なことに目を向け、多面的なものの見方や考え方を身に付けましょう。
- 地図帳やデータブックには、おもしろい情報がたくさん掲載されています。時間があれば、積極的に目を通してみましょう。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月                                          | 単元名                         | 教科書項目等           | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                            | 授業予定<br>時数  | 授業<br>実施<br>時数 |
|--------------------------------------------|-----------------------------|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------|
| 前<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>期 | ◆<br>系統地理                   | ○現代世界の国家         | ・既に学んだ分野について復習し、新しい分野と関連づけて理解を深める。<br>(地域ごとの特徴を踏まえて)                                   | (前期中<br>間Ⅰ) | 16             |
|                                            |                             | ○世界を結ぶ交通・通信      | ◎知識の定着度、思考力や判断力・表現力を磨こうとする姿勢。                                                          |             |                |
|                                            |                             | ○村落と都市           | ◎授業での積極性や態度(グループ学習・ペア学習・調べ学習の様子、レポートを含む)。                                              | (前期中<br>間Ⅱ) | 13             |
|                                            |                             | ○様々な地図と地理的技<br>能 | ・資源の分布やそれに関連する諸問題、工業の特色や立地条件とその変化等について理解する。                                            |             |                |
|                                            |                             | ○世界の地形           | ・世界人口の特徴や人口構成、移動の歴史、人口問題について理解する。                                                      | (前期期<br>末)  | 19             |
|                                            |                             | ○世界の気候           | ・世界で起こっている民族問題・領土問題について理解する。                                                           |             |                |
|                                            |                             | ○環境問題            |                                                                                        |             |                |
|                                            |                             | ○資源と産業           |                                                                                        |             |                |
|                                            |                             | ○人口              |                                                                                        |             |                |
|                                            |                             | ○生活文化、民族・宗教      |                                                                                        |             |                |
| 後<br><br><br><br><br><br><br><br><br><br>期 | ◆<br>地誌<br><br>現代世界<br>の諸地域 | ○東アジア            | ◎東アジアについて、地形と気候、中国の民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、朝鮮半島の成り立ち、韓国の産業などを項目ごとに整理して考察できるか。            | (後期中<br>間)  | 22             |
|                                            |                             | ○東南アジア           | ◎東南アジアの自然、歴史と文化・民族、農業と変化、ASEANと工業、ASEAN諸国の変化などについて考察できるか。                              |             |                |
|                                            |                             | ○南アジア            | ◎南アジアの地形と気候、宗教、インドの農業と工業について考察することができるか。                                               | (年度末)       |                |
|                                            |                             | ○西アジア            | ◎西アジアと中央アジアについて、イスラムの文化、都市、産業の面において似た性格を持つ二つの地域を比較して考察できるか。                            |             |                |
|                                            |                             | ○アフリカ            | ◎アフリカの文化に着目して気候と植生、歴史的背景、一次産品への依存、生活の変化などを考察することができるか。                                 |             |                |
|                                            |                             | ○ヨーロッパ           | ◎ヨーロッパの気候と大地、成り立ち、域内の結びつき、農業、変化する工業、これからのヨーロッパなどについて考察できるか。                            |             |                |
|                                            |                             | ○CIS諸国           |                                                                                        |             |                |
|                                            |                             | ○アングロアメリカ        | ◎アングロアメリカについて、自然環境、アメリカ合衆国の移民国家としての発展、人口と都市、農業、産業などを考察することができるか。                       |             |                |
|                                            |                             | ○ラテンアメリカ         | ◎ラテンアメリカについて、自然環境、文化、大土地所有制と農業の変化、工業化と生活の変化という特色ある事柄を他の事柄と関連づけて考察できるか。                 |             |                |
|                                            |                             | ○オセアニア           | ◎オセアニアについて、一つの大陸と太平洋の島々、移民の歴史と多文化社会、強まるアジアとの結びつき、アジア諸国に輸出される農畜産物という特色あることがらについて考察できるか。 |             |                |
|                                            | ◆<br>演習<br>個別指導             |                  | ○演習を通して、大学入学共通テストに向けた実力の養成を行う。<br><br>○国公立大学二次試験及び私立大入試に向けた実力の養成については個別に対応する。          | 15          |                |

No.

2023 年度 地歴公民 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |       |     |   |      |   |          |       |
|---------------|-------|-----|---|------|---|----------|-------|
| 科目            | 教養世界史 | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材  |     |   |      |   |          |       |

① 学習の到達目標

世界の各文化圏形成の特色や世界史の流れについて考察を深めることにより、多面的な視点を養い、国際社会に生きる人間として必要な資質を高める。

② 評価の観点、方法

- 関心・意欲・態度 歴史に対する興味関心を持って授業に取り組むことができる。
- 思考・判断・表現 歴史の転換点や事象の歴史的意義を説明することができる。
- 技能 資料や授業からの多面的考察や想像力を駆使して歴史へのアプローチができる。
- 知識・理解 授業や試験で知識の定着をはかることができる。

③ 担当者から

- 知識と知識をつなげるために、さらに深い学習を行います。
- 各地域と諸国間の関係性を多面的な角度からみていきます。
- 差別や偏見、思い込みを歴史的なものの見方を深めることで除去し、自他を尊重できる姿勢を養成します。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名        | 教科書項目等                   | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                   | 授業時数                    |
|-----|------------|--------------------------|-----------------------------------------------|-------------------------|
| 10  | 世界史の流れをつかむ | 世界史をみる視点                 | ・7つの地域世界<br>・時代区分と優位勢力<br>・優位勢力と「パワー」         | 後期中間まで<br>予定 28 28      |
| 11  |            | 3つの地域世界の鼎立時代<br>(後期中間試験) | ・ユーラシア大陸の文明発祥地<br>・3つの地域世界の鼎立状態<br>・地域間交流の始まり | 実施 0                    |
| 12  |            | 中東勢力の時代                  | ・イスラームの誕生と各地への拡大<br>・「中間の文明」の絶頂期<br>・中東勢力への反撃 | 年度末<br>予定 21 49<br>実施 0 |
| 1   |            | ヨーロッパ勢力の時代               | ・西ヨーロッパの勃興<br>・植民地と宗主国の構造<br>・ヨーロッパ勢力への反撃     |                         |
| 2・3 |            | アメリカの時代                  | ・世界各地への介入と支配<br>・地理的優位性と経済力<br>・アメリカへの反撃      |                         |

No.

2023 年度 地歴公民科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |       |     |   |      |   |          |               |
|---------------|-------|-----|---|------|---|----------|---------------|
| 科目            | 教養日本史 | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次文系(後期のみ開講) |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材  |     |   |      |   |          |               |

① 学習の到達目標

- これまでに学習した高校日本史の内容について、知識を関連づけて理解することにより深化を図る。
- 史料や資料に基づいた学習を通して歴史的な思考や客観的な物の見方を身につけていく。

② 評価の観点、方法

- 関心・意欲・態度 歴史に対する興味関心を持って授業に取り組むことができる。
- 思考・判断・表現 歴史の転換点や事象の歴史的意義を説明することができる。
- 技能 授業で扱う史料・資料を多角的に考察し、客観的に解釈することができる。
- 知識・理解 授業や試験で知識の定着をはかることができる。

③ 担当者から

- これまで学習してきた知識を相互に関連づけることで理解を深め、歴史的事件の原因を探っていきます。
- 史料・資料を正しく上手に使い、多角的かつ客観的な思考を身につけてください。
- 共に頑張っていきましょう。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名  | 教科書項目等  | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点            | 授業時数                         |
|-----|------|---------|----------------------------------------|------------------------------|
| 10  | 中世   | ○ 中世史   | 武家政権の成立(鎌倉幕府と室町幕府)<br><br>下剋上の社会と庶民の台頭 | 後期中間まで                       |
| 11  | 近世   | ○ 近世史   | 幕藩体制の展開<br><br>幕藩体制の動揺                 | 予定 28<br><br>実施              |
| 12  | 近・現代 | ○ 近・現代史 | 二度の世界大戦と日本社会<br><br>戦後日本の復興            | 年度末まで<br><br>予定 21<br><br>実施 |
| 1   | テーマ史 | ○ テーマ史  | 世界史の中の日本(文化交流史)                        |                              |
| 2・3 | テーマ史 | ○ テーマ史  | 庶民生活の変化(衣食住の変化)                        |                              |

No.

2023 年度 地歴公民科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |      |     |   |      |   |          |                |
|---------------|------|-----|---|------|---|----------|----------------|
| 科目            | 教養地理 | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年一般文系(後期のみ開講) |
| 使用教科書<br>副教材等 | 独自教材 |     |   |      |   |          |                |

① 学習の到達目標

○地理的なものの見方や考え方をを用いて、自分なりの問いを見つけ、その問いに対する考えを表現する。

② 評価の観点、方法

○関心・意欲・態度 地理的事項に対して、授業だけでなく日常生活においても、関心と課題意識を持つことができる。

○思考・判断・表現 地理的なものの見方や考え方を身に付けたうえで判断し、自分の言葉で表現することができる。

○資料活用の技能 主題図や各種統計、写真など、多種多様な図表を読み取ることができる。

○知識・理解 地理的なものの見方や考え方を活用し、地理的事項を理解している。

③ 担当者から

○私立大学の過去問や大学入学共通テストの問題などに触れながら、実践的な力を高めていきます。

○これまで学んだ学習内容を振り返るとともに、自分の弱点分野を補強しながら演習を進めていきます。

○地理学の本質に迫る事項を学ぶとともに、世界史や政治・経済分野との関連も学んでいきます。

○世の中の出来事、さまざまな社会問題にも関心を持ち、情報収集を行いましょう。最近のニュースに目を向けることはとても大切なことです。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月  | 単元名      | 教科書項目等                             | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                | 授業予定<br>時数   | 授業<br>実施<br>時数 |
|----|----------|------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|----------------|
| 10 | 系統<br>地理 | 自然環境                               | <p>・問題演習(私大の入試問題や共通テストの過去問)や図表の読み取りを行いながら、主に基本的事項の確認を行う。</p> <p>◎それぞれの分野を横断的に学習しながら、各分野が関連していることに気づくことができる。</p>                                                            | (後期中間)<br>28 |                |
| 11 |          | 産業<br>生活・文化                        |                                                                                                                                                                            |              |                |
| 12 | 地誌       | アジア                                | <p>・系統地理で学んだことを、地域ごとに確認する。</p> <p>・問題演習を行いながら、主に基本的事項の確認を行う。</p> <p>◎地理的事項について、学んできたことを総合的に理解している。</p> <p>◎異なる地域で起きている事象でも、関連性や共通性があることに気づくことができる。また、それを踏まえて地理的考察ができる。</p> | (年度末)<br>21  |                |
| 1  |          | アフリカ<br>ヨーロッパ・ロシア<br>アメリカ<br>オセアニア |                                                                                                                                                                            |              |                |
| 2  |          |                                    |                                                                                                                                                                            |              |                |
| 3  |          |                                    |                                                                                                                                                                            |              |                |

No.

2023 年度 公民 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                            |     |   |      |   |          |             |
|---------------|--------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-------------|
| 科目            | 政治・経済                                      | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年次・探究コース文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 教科書『政治・経済』（東京書籍）<br>副教材『最新政治・経済資料集』（第一学習社） |     |   |      |   |          |             |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○民主主義の本質、「法の支配」の意義、現代の政治、経済、国際関係などについて客観的・理論的・体系的に理解できる。<br>○現代の政治の諸課題や国民経済の動向および、政府の役割と日本経済が抱える課題などについて考察し表現できる。<br>○現代社会の諸課題について主体的に考察するとともに公正な判断力を養い、良識ある公民としての必要な能力と態度を身につける。 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                     |                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| ○知識及び技能                                                                             | 現代の諸課題や事象について、客観的な知識や問題点を理解し、情報を適切かつ効果的にまとめることができる。 |
| ○思考力、判断力、表現力等                                                                       | 授業時や試験時に、現代社会の問題を公平・公正に理解し、判断し、自らの言葉で表現することができる。    |
| ○学びに向かう力、人間性等                                                                       | 授業に対して課題意識を持って臨み、現代の諸課題を主体的に解決しようとすることができる。         |
| ○ 定期試験・小テストの結果をもとに、学んだことを処理し表現する技能が身についているか評価します。                                   |                                                     |
| ○ 記述形式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノート、グループワーク内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、社会的な見方や考え方が身についているか評価します。 |                                                     |
| ○ 学習活動への取り組み、課題・提出物、自己評価シート・ルーブリックの状況をもとに、評価します。                                    |                                                     |

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業ではプリントを配布し、授業を進めていきます。一方的な教員による講義の時間は極力減らして、音読、問題演習、話し合い、グループ学習などを行います。学習に関するテーマはほとんど現在進行形で展開されている事柄です。自分には関係ないとは思わずに、積極的に取り組んでください。18歳成人など主権者としてこれから社会にでるみなさんに必要不可欠な内容です。深い思考や洞察をするためには、物事の概念とそれを表す言葉（語句）を覚え理解することも、とても重要です。当事者意識をもって授業に臨みましょう。 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                             | 教科書項目等                                                                                                                                                                         | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                      | 授業時数                    |
|-----|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 4   | わたしたちの生きる社会                     | ・地球環境問題(P102-105)<br>・資源エネルギー問題(P105-107)<br>・科学技術の発達と生命(自作プリント)<br>・情報化の進展と生活(自作プリント)<br><br>＜前期中間試験Ⅰ＞                                                                        | ・地球環境問題とは ・地球環境保護の取り組み ・地球環境と利害対立<br>・資源エネルギー問題 ・持続可能な社会の形成に向けて<br>・医療技術の発達と生命倫理 ・脳死と臓器移植 ・バイオテクノロジーの進歩と生命操作<br>・情報化社会への歩み ・情報化の進展と社会の変化 情報化社会の危険性<br><br>◎授業、定期考査、ワークシートによる知識、理解の確認。<br>◎定期考査やワークシートによる思考力、判断力、表現力の確認。<br>◎自己評価シートによる自己評価、授業での積極性や態度。                                           | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 10 10 |
| 5   |                                 |                                                                                                                                                                                | ◎これらの諸課題をとらえ考察するための基本的な枠組みを身に付けさせ、社会の在り方を考察する基盤を理解できる。                                                                                                                                                                                                                                           | 実施 0                    |
|     | 民主政治の基本原則                       | ・民主政治の成立(P6-11)<br>・基本的人権の確立(P12-14)<br>・現代の民主政治(P15-17)<br>・世界の主な政治体制(P18-23)<br>＜前期中間試験Ⅱ＞                                                                                    | ・政治と国家 ・絶対王政から民主政治へ ・社会契約説 ・「法の支配」の確立<br>・人権の保障 ・人権の歴史的展開 ・人権の国際化<br>・民主政治の展開 ・大衆民主主義とファシズム ・現在の民主主義<br>・自由民主主義体制 ・権力集中制 ・イスラム諸国の政治体制<br><br>◎授業、定期考査、ワークシートによる知識、理解の確認。<br>◎定期考査やワークシートによる思考力、判断力、表現力の確認。<br>◎自己評価シートによる自己評価、授業での積極性や態度。                                                        | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 8 18  |
| 6   |                                 |                                                                                                                                                                                | ◎個人と国家を中心に考察させ、民主社会に主体的に生きる人間としての在り方生き方について考察できる。                                                                                                                                                                                                                                                | 実施 0                    |
| 7・8 | 日本の政治機構<br>現代政治の特質と課題           | ・日本国憲法の制定と基本原理(P24-29)<br>・基本的人権の保障(P30-42)<br>・平和主義(P43-49)<br>・国会、内閣、裁判所(P50-63)<br>・地方自治(P64-67)<br>・政党、選挙制度、世論と政治参加(P68-79)<br>・国際政治と国際連合(P80-88)<br>・戦後国際関係の展開と日本(P89-94) | ・明治憲法の基本理念 ・日本国憲法の成立 ・憲法の最高法規性と憲法改正<br><br>・基本的人権 ・法の下での平等 ・自由権 社会権 ・新しい人権 ・人権を実現するための権利<br>・自衛隊と防衛力 ・日米安全保障条約 安全保障関連法案の制定<br>・国会の機能 ・内閣の機能 裁判所の機能 ・三権分立<br>・地方自治の本旨 ・地方自治の運営 地方財政の現状 ・地方自治の確立へ<br>・政党と政党政治 ・選挙制度 ・日本の選挙制度 ・世論とマスメディア                                                            | 前期期末まで<br><br>予定 12 30  |
| 9   | 現代の国際政治                         | ・国際政治の課題(P95-101)<br>・貿易と国際収支(P184-187)<br>・国際経済体制の展開(P188-192)<br>・発展途上国の経済(P193-196)<br>・地域主義、世界経済(P197-202)<br><br>＜前期・期末試験＞                                                | ・国際社会の成立 ・国際法 ・勢力均衡と集団安全保障 ・国際連合と平和の維持<br>・第二次正解大戦の終結と冷戦 ・冷戦の終結 ・冷戦後の国際関係<br>・核軍拡競争と反核運動 ・軍備管理から軍縮へ ・冷戦終結後の軍縮 ・地域紛争 ・難民問題<br>・自由貿易と国際分業 ・為替相場と外国為替市場 ・国際収支のしくみ<br>・金本位制の崩壊 ・IMF-GATT体制 ・ブラザ合意 ・GATTからWTOへ<br>・南北問題 ・中国の台頭<br>・地域統合 ・世界金融危機とその後<br><br>◎国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えることができる。 | 実施 0                    |
| 10  | 現代の資本主義経済<br>現代経済のしくみ           | ・資本主義体制の成立と変容(P112-119)<br>・経済活動(P120-125)<br>・市場経済と経済成長(126-134)<br>・金融のしくみ(P135-141)<br>・財政のしくみ(P142-146)<br>・経済再建から高度成長へ(P147-151)                                          | ・経済活動 ・資本主義の成立 ・資本主義の変容 ・社会主義経済 ・新自由主義の台頭<br><br>・経済主体 ・企業の活動 ・株式会社 ・現代の企業<br>・市場メカニズム ・市場の失敗 ・フローとストック ・経済成長と景気変動<br>・通貨と通貨制度 ・金融市場と錦秋機関 ・銀行の役割 ・金融政策<br>・財政制度 ・財政の役割 ・租税と公債 ・財政改革<br>・経済復興と民主化 ・高度経済成長                                                                                         | 後期中間まで<br><br>予定 14 44  |
| 11  | 日本経済の発展と産業構造の変化<br>福祉社会と日本経済の課題 | ・オイルショック後の日本経済(P152-158)<br>・公害と環境保全(P158-161)<br>・消費者問題(P162-164)<br>・農業、食糧問題(P165-167)<br>・中小企業の現状と課題(P168-169)<br>・雇用と労働問題(P170-176)<br>・社会保障と福祉(P177-183)<br>＜後期・中間試験＞     | ・安定成長 ・産業構造の転換 ・バブル経済とその崩壊 ・「失われた10年」と「構造改革」<br><br>・公害問題 ・公害問題から環境問題へ<br>・消費者問題 ・消費者保護と行政 ・消費者の自立<br>・農業政策の変遷 ・食糧問題 ・日本農業の課題と展望<br>・中小企業の地位と役割 ・経済の二重構造 ・中小企業の現状と課題<br>・労働問題の発生 ・日本の労働運動 ・労働基本権と労働三法 雇用環境の変化<br>・社会保障の発展 ・日本の社会保障 ・福祉社会の実現に向けて<br><br>◎日本経済の変化を理解し、良識ある公民としての役割や責任を考察することができる。  | 実施 0                    |
| 12  | 演習                              | ・大学入学共通テスト対策演習<br>・論述試験対策演習                                                                                                                                                    | ○ マーク式問題集の演習<br>○ まとめ                                                                                                                                                                                                                                                                            |                         |
| 1   |                                 |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 年度末<br><br>予定 10 54     |
| 2・3 |                                 |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 実施 0                    |

No.

2023 年度 公民 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                |     |   |      |   |          |            |
|---------------|------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 教養現代社会                                         | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年次一般コース文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 教科書『現代社会』（東京書籍）<br>副教材『フォーラム現代社会』（とうほう） 自作プリント |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○民主主義や現代社会における法の働きなどについて学び、国民の政治参加の意義について考察することができる。<br>○現代の経済の仕組みを市場や国民経済の観点から理解するとともに、日本の経済の動きを学び、政府による調整を必要とする消費者問題や雇用と労働、社会保障の現状と課題などについて考察することができる。<br>○国際社会の仕組みと動きを政治、経済の観点から理解するとともに、国際社会における日本の役割について考えることができる。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○知識及び技能<br>○思考力、判断力、表現力等<br>○学びに向かう力、人間性等                                                                                                                                                    | 現代の諸課題や事象について、客観的な知識や問題点を理解し、情報を適切かつ効果的にまとめることができる。<br>授業時や試験時に、現代社会の問題を公平・公正に理解し、判断し、自らの言葉で表現することができる。<br>授業に対して課題意識を持って臨み、現代の諸課題を主体的に解決しようとするすることができる。 |
| ○ 定期試験・小テストの結果をもとに、学んだことを処理し表現する技能が身に付いているか評価します。<br>○ 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノート、グループワーク内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、社会的な見方や考え方が身に付いているか評価します。<br>○ 学習活動への取り組み、課題・提出物、自己評価シート・ルーブリックの状況をもとに、評価します。 |                                                                                                                                                          |

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業ではプリントを配布し、授業を進めていきます。一方的な教員による講義の時間は極力減らして、音読、問題演習、話し合い、グループ学習などを行います。学習に関するテーマはほとんど現在進行形で展開されている事柄です。自分には関係ないとは思わずに、積極的に取り組んでください。18歳成人など主権者としてこれから社会にでるみなさんに必要不可欠な内容です。深い思考や洞察をするためには、物事の本質とそれを表す言葉（語句）を覚え理解することも、とても重要です。当事者意識をもって授業に臨みましょう。 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                      | 教科書項目等                                                              | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 授業時数                |
|-----|--------------------------|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
| 4   | 現代の社会と人間<br>国際社会と人類の課題   | ・国際政治のしくみと動向                                                        | ・国際社会の動きを、政治や経済の動向を取り上げて具体的に協力や国際協調を推進する上で国際的な組織の果たす役割が増大していることを認識させる。<br>◎国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えることができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 前期中間Ⅰまで<br>予定 10 10 |
| 5   | 国際社会と人類の課題<br>現代の経済と国民福祉 | ・国際経済のしくみと動向<br>・国際社会の現状と課題<br>＜前期・中間試験Ⅰ＞<br>・国際社会の現状と課題<br>・経済の仕組み | ・国際社会の現状や課題について、地域統合や格差、難民問題を取り扱う。世界における日本の立ち位置や役割について考え、自分の意見をもたせる。<br>◎国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えることができる。<br>◎授業、定期考査、ワークシートによる知識、理解の確認。<br>◎定期考査やワークシートによる思考力、判断力、表現力の確認。<br>◎自己評価シートによる自己評価、授業での積極性や態度。<br>・国際社会の現状や課題について、地域統合や格差、難民問題を取り扱う。世界における日本の立ち位置や役割について考え、自分の意見をもたせる。<br>◎国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考えることができる。<br>・自由な経済活動を基本とする市場経済の意義と機能について理解させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。 | 実施 0<br>前期中間Ⅱまで     |
| 6   | 国際社会と人類の課題<br>現代の経済と国民福祉 | ・国際経済のしくみと動向<br>・経済の仕組み<br>＜前期中間試験Ⅱ＞                                | ・国際社会の動きを、政治や経済の動向を取り上げて具体的に協力や国際協調を推進する上で国際的な組織の果たす役割が増大していることを認識させる。<br>・自由な経済活動を基本とする市場経済の意義と機能について理解させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。<br>◎授業、定期考査、ワークシートによる知識、理解の確認。<br>◎定期考査やワークシートによる思考力、判断力、表現力の確認。<br>◎自己評価シートによる自己評価、授業での積極性や態度。                                                                                                                                                                   | 予定 8 18<br>実施 0     |
| 7・8 | 国際社会と人類の課題<br>現代の経済と国民福祉 | ・国際経済のしくみと動向<br>・経済の仕組み                                             | ・国際社会の動きを、政治や経済の動向を取り上げて具体的に協力や国際協調を推進する上で国際的な組織の果たす役割が増大していることを認識させる。<br>・自由な経済活動を基本とする市場経済の意義と機能について理解させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。                                                                                                                                                                                                                                                                   | 前期末まで<br>予定 12 30   |
| 9   | 国際社会と人類の課題<br>現代の経済と国民福祉 | ・国際経済のしくみと動向<br>・経済のしくみ<br>＜前期期末試験＞                                 | ・国際社会の動きを、政治や経済の動向を取り上げて具体的に協力や国際協調を推進する上で国際的な組織の果たす役割が増大していることを認識させる。<br>・自由な経済活動を基本とする市場経済の意義と機能について理解させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。<br>◎授業、定期考査、ワークシートによる知識、理解の確認。<br>◎定期考査やワークシートによる思考力、判断力、表現力の確認。<br>◎自己評価シートによる自己評価、授業での積極性や態度。                                                                                                                                                                   | 実施 0                |
| 10  | 現代の経済と国民福祉               | ・経済のしくみ<br>・変化する日本経済                                                | ・自由な経済活動を基本とする市場経済の意義と機能について理解させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。<br>・市場経済の意義と機能をもとに戦後から現在に至るまでの国策や景気変動について理解を深めさせる。<br>◎日本経済の変化を理解し、良識ある公民としての役割や責任を考察することができる。                                                                                                                                                                                                                                              | 後期中間まで              |
| 11  | 現代の経済と国民福祉               | ・経済のしくみ<br>・変化する日本経済<br>＜後期・中間試験＞                                   | ・自由な経済活動を基本とする市場経済の意義と機能について理解させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。<br>・市場経済の意義と機能をもとに戦後から現在に至るまでの国策や景気変動について理解を深める。<br>◎日本経済の変化を理解し、良識ある公民としての役割や責任を考察することができる。<br>◎授業、定期考査、ワークシートによる知識、理解の確認。<br>◎定期考査やワークシートによる思考力、判断力、表現力の確認。<br>◎自己評価シートによる自己評価、授業での積極性や態度。                                                                                                                                                | 予定 14 44<br>実施 0    |
| 12  | 現代の経済と国民福祉               | ・豊かな生活の実現                                                           | ・雇用、労働問題、社会保障、農業などが抱える諸問題について理解を深めさせる。<br>◎現代社会が抱える諸問題について理解し、考察したり追及したりすることができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                     |
| 1   | 演習                       | 大学入学共通テスト対策演習<br>論述試験対策演習                                           | ○ マーク式問題集の演習                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 年度末                 |
| 2・3 |                          |                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 予定 10 54<br>実施 7 7  |

No.

2023 年度 数学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                              |     |   |      |   |          |            |
|---------------|------------------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 数学Ⅲ                          | 単位数 | 5 | 週時間数 | 5 | 年次・コース・組 | 3年・一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数学Ⅲ(東京書籍)<br>STAGE 数学Ⅲ(東京書籍) |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 数学的活動を通じて、平面上の曲線、複素数平面、極限、微分法および積分法についての体系的な理解を深める。</li><li>○ 知識の習得と技能の習熟を図り、関数で表される事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。</li><li>○ これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断・表現する態度を身につける。</li></ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。</li><li>○ 課題プリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。</li></ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○ 多くの計算を経験します。知識を理解するだけではなく、完答までの式変形を自分のちからで書き切ることが数学Ⅲの上達の秘訣です。教科書の例題の理解に満足せずSTAGEの演習の隅々まで「経験」するつもりで取り組んでください。様々な文字や記号も出てきます。毎日数学の授業に取り組む事で、必ず慣れます！教科書・STAGEを信じて取り組んでください。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名           | 教科書項目等                        | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                | 授業時数                            |
|-----|---------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 4   | 3章<br>関数と極限   | 3 関数の極限                       | 数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用する<br>◎ 0/0形などの不定形を解消して式を処理できる<br>◎ グラフより連続・不連続を考察できる<br>◎ 存在定理として中間値の定理を確認し、それを用いた類題が解ける                                                                     | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 25 25<br>実施 0 |
| 5   | 4章<br>微分      | 1 微分法<br><br><中間試験Ⅰ>          | 関数の積・商の導関数についての理解を深め、合成関数、三角関数、指数関数、対数関数の導関数を求める<br>◎ 微分係数、微分可能が理解できる<br>◎ 自然対数の底の意味が理解できる                                                                                                 | 前期中間Ⅱまで                         |
| 6   |               | 2 いろいろな関数の導関数<br><br><中間試験Ⅱ>  | 関数の積・商の導関数についての理解を深め、合成関数、三角関数、指数関数、対数関数の導関数を求める<br>◎ 自然対数の底を用いて考えることに意義を理解することができる<br>◎ 対数微分法を用いた計算ができる                                                                                   | 予定 20 45<br>実施 0                |
| 7・8 | 5章<br>微分の応用   | 1 接線、関数の増減<br>2 微分のいろいろな応用    | いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、増減減少、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかく。積分法の理解を深める。<br>◎ 方程式や不等式を関数的視点でとらえ解決しようとする<br>◎ 運動する点の速さや加速度を処理できる                                                                           | 前期期末まで                          |
| 9   |               | <前期・期末試験>                     |                                                                                                                                                                                            | 予定 30 75<br>実施 0                |
| 10  | 6章<br>積分とその応用 | 1 不定積分<br>2 定積分<br>3 面積・体積・長さ | 置換積分・部分積分など様々な積分の計算処理法を身につける。また定積分が図形の計量に有効であることを認識する。様々な図形の体積を求める。<br>◎ 微分法の逆演算として不定積分を求めることができる<br>◎ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる<br>◎ 座標平面の点の動きを媒介変数を用いて考察する                               | 後期中間まで                          |
| 11  | 総合演習          | 入試問題を用いた演習<br><br><後期中間試験>    | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につけることができる<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に反応できるようになる | 予定 35 110<br>実施 0               |
| 12  |               |                               |                                                                                                                                                                                            |                                 |
| 1   |               | <後期期末試験>                      |                                                                                                                                                                                            | 年度末                             |
| 2・3 |               |                               |                                                                                                                                                                                            | 予定 25 135<br>実施 0               |

No.

2023 年度 数学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                              |     |   |      |   |          |            |
|---------------|------------------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 数学Ⅲ                          | 単位数 | 5 | 週時間数 | 5 | 年次・コース・組 | 3年・一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数学Ⅲ(東京書籍)<br>STAGE 数学Ⅲ(東京書籍) |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 数学的活動を通じて、平面上の曲線、複素数平面、極限、微分法および積分法についての体系的な理解を深める。</li><li>○ 知識の習得と技能の習熟を図り、関数で表される事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。</li><li>○ これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断・表現する態度を身につける。</li></ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。</li><li>○ 課題プリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。</li></ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○ 多くの計算を経験します。知識を理解するだけではなく、完答までの式変形を自分のちからで書き切ることが数学Ⅲの上達の秘訣です。教科書の例題の理解に満足せずSTAGEの演習の隅々まで「経験」するつもりで取り組んでください。様々な文字や記号も出てきます。毎日数学の授業に取り組む事で、必ず慣れます！教科書・STAGEを信じて取り組んでください。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名           | 教科書項目等                        | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                | 授業時数                            |
|-----|---------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 4   | 3章<br>関数と極限   | 3 関数の極限                       | 数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用する<br>◎ 0/0形などの不定形を解消して式を処理できる<br>◎ グラフより連続・不連続を考察できる<br>◎ 存在定理として中間値の定理を確認し、それを用いた類題が解ける                                                                     | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 25 25<br>実施 0 |
| 5   | 4章<br>微分      | 1 微分法<br><br><中間試験Ⅰ>          | 関数の積・商の導関数についての理解を深め、合成関数、三角関数、指数関数、対数関数の導関数を求める<br>◎ 微分係数、微分可能が理解できる<br>◎ 自然対数の底の意味が理解できる                                                                                                 | 前期中間Ⅱまで                         |
| 6   |               | 2 いろいろな関数の導関数<br><br><中間試験Ⅱ>  | 関数の積・商の導関数についての理解を深め、合成関数、三角関数、指数関数、対数関数の導関数を求める<br>◎ 自然対数の底を用いて考えることに意義を理解することができる<br>◎ 対数微分法を用いた計算ができる                                                                                   | 予定 20 45<br>実施 0                |
| 7・8 | 5章<br>微分の応用   | 1 接線、関数の増減<br>2 微分のいろいろな応用    | いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、増減減少、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかく。積分法の理解を深める。<br>◎ 方程式や不等式を関数的視点でとらえ解決しようとする<br>◎ 運動する点の速さや加速度を処理できる                                                                           | 前期期末まで<br><br>予定 30 75<br>実施 0  |
| 9   |               | <前期・期末試験>                     |                                                                                                                                                                                            |                                 |
| 10  | 6章<br>積分とその応用 | 1 不定積分<br>2 定積分<br>3 面積・体積・長さ | 置換積分・部分積分など様々な積分の計算処理法を身につける。また定積分が図形の計量に有効であることを認識する。様々な図形の体積を求める。<br>◎ 微分法の逆演算として不定積分を求めることができる<br>◎ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる<br>◎ 座標平面の点の動きを媒介変数を用いて考察する                               | 後期中間まで                          |
| 11  | 総合演習          | 入試問題を用いた演習<br><br><後期中間試験>    | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につけることができる<br>◎ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に反応できるようになる | 予定 35 110<br>実施 0               |
| 12  |               |                               |                                                                                                                                                                                            |                                 |
| 1   |               | <後期期末試験>                      |                                                                                                                                                                                            | 年度末                             |
| 2・3 |               |                               |                                                                                                                                                                                            | 予定 25 135<br>実施 0               |

No.

2023 年度 数 学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                          |     |   |      |   |          |            |
|---------------|--------------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 探究数学 $\alpha$            | 単位数 | 5 | 週時間数 | 5 | 年次・コース・組 | 3年・探究コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数研出版『リンク 数学演習 I・A+ II・B』 |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

- 演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。
- 知識の習得と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。
- これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。

② 評価の観点、方法

- 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。
- 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか、より深く考察しようとしているか評価します。
- 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。
- 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。

③ 担当者から

- 予習重視です。これまで身につけた知識を与えられた時間で自分で判断して解く。この演習の繰り返しで学んだことの定着を目指します。初めて見る問題をどのように処理するのか。多くの経験を積んで自在に数学を操れるようになりましょう。
- まずは、基本事項の定着から。公式、教科書の例題は、頭に入れておきましょう。
- 時間をかけて試行錯誤しながら考えることが大事です。間違えることも大事な過程ですので、自分の手で、納得するまで問題を解いてください。
- 問題が解答できた、だけではなく様々な問題との関連や別の視点を持つなどより深めた学習ができるよう心がけましょう。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                         | 教科書項目等                                  | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                  | 授業時数                                |
|-----|-----------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 4   | 演習<br>(数学Ⅰ・<br>A・Ⅱ・B分<br>野) | 数研出版『リンク数学演習ⅠAⅡB』<br>数学Ⅰ/Ⅱ/A/B分野の基礎問題演習 | 分野典型問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解けなかった問題に対して解き直しを行い、知識の見直しをおこなう。                 | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 25 25<br><br>実施 0 |
| 5   |                             | <前期中間試験Ⅰ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 前期中間Ⅱまで                             |
| 6   |                             | <前期中間試験Ⅱ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 予定 20 45<br><br>実施 0                |
| 7・8 |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              | 前期期末まで                              |
| 9   |                             | <前期期末試験>                                |                                                                                                                                                                                                              | 予定 30 75<br><br>実施 0                |
| 10  | 演習                          | 大学入学共通テスト型の演習<br>(数学Ⅰ・Ⅱ・A・B)            | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しプリントをもちいて、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。        | 後期中間まで                              |
| 11  |                             | <後期中間試験><br>実践問題集                       | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 計測して問題を解くことを通じて、共通テストで十分な点数をとれるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。  | 予定 35 110<br><br>実施 0               |
| 12  |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              |                                     |
| 1   |                             | <後期期末試験><br>個別学力試験対策演習                  | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 大学入学個別学力試験の過去問を解くことを通じて、難問に対応できるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。 | 年度末                                 |
| 2・3 |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              | 予定 25 135<br><br>実施 0               |

No.

2023 年度 数 学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                          |     |   |      |   |          |            |
|---------------|--------------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 探究数学 $\alpha$            | 単位数 | 6 | 週時間数 | 6 | 年次・コース・組 | 3年・探究コース文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数研出版『リンク数学演習 I A II B』ほか |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。</li><li>○ 知識の習得と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。</li><li>○ これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。</li></ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。</li><li>○ 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか、より深く考察しようとしているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 予習重視です。これまで身につけた知識を与えられた時間で自分で判断して解く。この演習の繰り返しで学んだことの定着を目指します。初めて見る問題をどのように処理するのか。多くの経験を積んで自在に数学を操れるようになりましょう。</li><li>○ まずは、基本事項の定着から。公式、教科書の例題は、頭に入れておきましょう。</li><li>○ 時間をかけて試行錯誤しながら考えることが大事です。間違えることも大事な過程ですので、自分の手で、納得するまで問題を解いてください。</li><li>○ 問題が解答できた、だけではなく様々な問題との関連や別の視点を持つなどより深めた学習ができるよう心がけましょう。</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                         | 教科書項目等                                  | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                  | 授業時数                        |
|-----|-----------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 4   | 演習<br>(数学Ⅰ・<br>A・Ⅱ・B分<br>野) | 数研出版『リンク数学演習ⅠAⅡB』<br>数学Ⅰ/Ⅱ/A/B分野の基礎問題演習 | 分野典型問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解けなかった問題に対して解き直しを行い、知識の見直しをおこなう。                 | 前期中間Ⅰまで                     |
| 5   |                             | <前期中間試験Ⅰ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 予定 30 30<br>実施 0            |
| 6   |                             | <前期中間試験Ⅱ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 前期中間Ⅱまで<br>予定 24 54<br>実施 0 |
| 7・8 |                             | <前期期末試験>                                |                                                                                                                                                                                                              | 前期期末まで<br>予定 36 90<br>実施 0  |
| 9   | 演習                          | 大学入学共通テスト型の演習<br>(数学Ⅰ・Ⅱ・A・B)            | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。              | 後期中間まで<br>予定 42 132<br>実施 0 |
| 10  |                             | <後期中間試験>                                |                                                                                                                                                                                                              |                             |
| 11  |                             | 実践問題集                                   | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 計測して問題を解くことを通じて、共通テストで十分な点数をとれるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。  |                             |
| 12  |                             | <後期期末試験>                                | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 大学入学個別学力試験の過去問を解くことを通じて、難問に対応できるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。 | 年度末<br>予定 30 162<br>実施 0    |
| 1   |                             | 個別学力試験対策演習                              |                                                                                                                                                                                                              |                             |
| 2・3 |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              |                             |

No.

2023 年度 数 学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                          |     |   |      |   |          |            |
|---------------|--------------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 探究数学 $\alpha$            | 単位数 | 5 | 週時間数 | 5 | 年次・コース・組 | 3年・探究コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数研出版『リンク 数学演習 I・A+ II・B』 |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

- 演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。
- 知識の習得と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。
- これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。

② 評価の観点、方法

- 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。
- 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか、より深く考察しようとしているか評価します。
- 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。
- 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。

③ 担当者から

- 予習重視です。これまで身につけた知識を与えられた時間で自分で判断して解く。この演習の繰り返しで学んだことの定着を目指します。初めて見る問題をどのように処理するのか。多くの経験を積んで自在に数学を操れるようになります。
- まずは、基本事項の定着から。公式、教科書の例題は、頭に入れておきましょう。
- 時間をかけて試行錯誤しながら考えることが大事です。間違えることも大事な過程ですので、自分の手で、納得するまで問題を解いてください。
- 問題が解答できた、だけではなく様々な問題との関連や別の視点を持つなどより深めた学習ができるよう心がけましょう。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                         | 教科書項目等                                  | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                 | 授業時数                                |
|-----|-----------------------------|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 4   | 演習<br>(数学Ⅰ・<br>A・Ⅱ・B分<br>野) | 数研出版『リンク数学演習ⅠAⅡB』<br>数学Ⅰ/Ⅱ/A/B分野の基礎問題演習 | 分野典型問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解けなかった問題に対して解き直しを行い、知識の見直しをおこなう。                | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 25 25<br><br>実施 0 |
| 5   |                             | <前期中間試験Ⅰ>                               |                                                                                                                                                                                                             | 前期中間Ⅱまで                             |
| 6   |                             | <前期中間試験Ⅱ>                               |                                                                                                                                                                                                             | 予定 20 45<br><br>実施 0                |
| 7・8 |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                             | 前期期末まで                              |
| 9   |                             | <前期期末試験>                                |                                                                                                                                                                                                             | 予定 30 75<br><br>実施 0                |
| 10  | 演習                          | 大学入学共通テスト型の演習<br>(数学Ⅰ・Ⅱ・A・B)            | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。             | 後期中間まで                              |
| 11  |                             | <後期中間試験>                                |                                                                                                                                                                                                             | 予定 35 110                           |
| 12  |                             | 実践問題集                                   | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 計測して問題を解くことを通じて、共通テストで十分な点数をとれるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。 | 実施 0                                |
| 1   |                             | <後期期末試験>                                | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。                                                                                                                                           | 年度末                                 |
| 2・3 |                             | 個別学力試験対策演習                              | ◎ 大学入学個別学力試験の過去問を解くことを通じて、難問に対応できるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。                                                                         | 予定 25 135<br><br>実施 0               |

No.

2023 年度 数 学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                        |     |   |      |   |          |            |
|---------------|--------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 探究数学Ⅲ                                                  | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年・一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数学Ⅲ(東京書籍)<br>リンク数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B(数研出版)<br>stage『数学Ⅲ』(東京書籍) ほか |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。</li><li>○ 知識の習得と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。</li><li>○ これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。</li></ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。</li><li>○ 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。</li></ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 数学ⅠAⅡBと数学Ⅲの演習等を行います。</li><li>○ これまで身につけた知識を与えられた時間で自分で判断して解く。この演習の繰り返しで学んだことの定着を目指します。初めて見る問題をどのように処理するのか。多くの経験を積んで自在に数学を操れるようになります。</li><li>○ 扱う問題も限られてきます。良問を扱います。効率的な学習を心がけましょう。</li></ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名              | 教科書項目等                                  | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                  | 授業時数                                |
|-----|------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 4   | 2章<br>複素数平面      | 1 複素数平面<br>2 図形への応用                     | 複素数平面を理解して、それらを事象の考察に活用する。平面上の図形の表現の様々を理解して事象の考察に活用するようにする。<br>◎ 複素数の図形的な意味が理解できる<br>◎ 複素数の演算の図形的な意味が理解できる<br>◎ 3次関数を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組む                                                                | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 10 10<br><br>実施 0 |
| 5   |                  | <前期中間試験Ⅰ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 前期中間Ⅱまで                             |
| 6   |                  | <前期中間試験Ⅱ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 予定 8 18<br><br>実施 0                 |
| 7・8 | 1章<br>平面上の<br>曲線 | 1 2次曲線<br>2 媒介変数表示と極座標                  | 平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。<br>◎ 軌跡の考え方を利用して放物線・楕円・双曲線の方程式を導くことができる<br>◎ 2次曲線と接線や接点を求めることができる                                                                                          | 前期期末まで<br><br>予定 12 30<br><br>実施 0  |
| 9   |                  | <前期期末試験>                                |                                                                                                                                                                                                              |                                     |
| 10  |                  | 数学Ⅲ基礎演習<br>大学入学共通テスト型の演習<br>(数学Ⅰ・Ⅱ・A・B) | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。              | 予定 14 44                            |
| 11  |                  | <後期中間試験><br>実践問題集                       | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 計測して問題を解くことを通じて、共通テストで十分な点数をとれるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。  | 実施 0                                |
| 12  |                  |                                         |                                                                                                                                                                                                              |                                     |
| 1   |                  | <後期期末試験><br>個別学力試験対策演習                  | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 大学入学個別学力試験の過去問を解くことを通じて、難問に対応できるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。 | 年度末<br><br>予定 10 54<br><br>実施 0     |
| 2・3 |                  |                                         |                                                                                                                                                                                                              |                                     |

No.

2023 年度 数 学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                        |     |   |      |   |          |            |
|---------------|--------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 探究数学Ⅲ                                                  | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年・一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数学Ⅲ(東京書籍)<br>リンク数学Ⅰ・A＋Ⅱ・B(数研出版)<br>stage『数学Ⅲ』(東京書籍) ほか |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。</li><li>○ 知識の習得と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。</li><li>○ これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。</li></ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。</li><li>○ 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。</li></ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 数学ⅠAⅡBと数学Ⅲの演習等を行います。</li><li>○ これまで身につけた知識を与えられた時間で自分で判断して解く。この演習の繰り返しで学んだことの定着を目指します。初めて見る問題をどのように処理するのか。多くの経験を積んで自在に数学を操れるようになります。</li><li>○ 扱う問題も限られてきます。良問を扱います。効率的な学習を心がけましょう。</li></ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名              | 教科書項目等                                  | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                  | 授業時数                                |
|-----|------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 4   | 2章<br>複素数平面      | 1 複素数平面<br>2 図形への応用                     | 複素数平面を理解して、それらを事象の考察に活用する。平面上の図形の表現の様々を理解して事象の考察に活用するようにする。<br>◎ 複素数の図形的な意味が理解できる<br>◎ 複素数の演算の図形的な意味が理解できる<br>◎ 3次関数を解析幾何学的方法で考察することに意欲的に取り組む                                                                | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 10 10<br><br>実施 0 |
| 5   |                  | <前期中間試験Ⅰ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 前期中間Ⅱまで                             |
| 6   |                  | <前期中間試験Ⅱ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 予定 8 18<br><br>実施 0                 |
| 7・8 | 1章<br>平面上の<br>曲線 | 1 2次曲線<br>2 媒介変数表示と極座標                  | 平面上の曲線がいろいろな式で表されることについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする<br>◎ 軌跡の考え方を利用して放物線・楕円・双曲線の方程式を導くことができる<br>◎ 2次曲線と接線や接点を求めることができる                                                                                           | 前期期末まで<br><br>予定 12 30<br><br>実施 0  |
| 9   |                  | <前期期末試験>                                |                                                                                                                                                                                                              |                                     |
| 10  |                  | 数学Ⅲ基礎演習<br>大学入学共通テスト型の演習<br>(数学Ⅰ・Ⅱ・A・B) | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。              | 予定 14 44                            |
| 11  |                  | <後期中間試験><br>実践問題集                       | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 計測して問題を解くことを通じて、共通テストで十分な点数をとれるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。  | 実施 0                                |
| 12  |                  |                                         |                                                                                                                                                                                                              |                                     |
| 1   |                  | <後期期末試験><br>個別学力試験対策演習                  | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 大学入学個別学力試験の過去問を解くことを通じて、難問に対応できるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。 | 年度末<br><br>予定 10 54<br><br>実施 0     |
| 2・3 |                  |                                         |                                                                                                                                                                                                              |                                     |

No.

2023 年度 数 学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                       |     |   |      |   |          |            |
|---------------|-----------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 探究数学Ⅱ                 | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年・一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数研出版『リンク 数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B』 |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。</li><li>○ 知識の習得と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。</li><li>○ これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。</li></ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。</li><li>○ 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか、より深く考察しようとしているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 予習重視です。これまで身につけた知識を与えられた時間で自分で判断して解く。この演習の繰り返しで学んだことの定着を目指します。初めて見る問題をどのように処理するのか。多くの経験を積んで自在に数学を操れるようになります。</li><li>○ まずは、基本事項の定着から。公式、教科書の例題は、頭に入れておきましょう。演習量が大事です。</li><li>○ 時間をかけて試行錯誤しながら考えることが大事です。間違えることも大事な過程ですので、自分の手で、納得するまで問題を解いてください。</li></ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                         | 教科書項目等                                  | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                  | 授業時数                                |
|-----|-----------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 4   | 演習<br>(数学Ⅰ・<br>A・Ⅱ・B分<br>野) | 数研出版『リンク数学演習ⅠAⅡB』<br>数学Ⅰ/Ⅱ/A/B分野の基礎問題演習 | 分野典型問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解けなかった問題に対して解き直しを行い、知識の見直しをおこなう。                 | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 10 10<br><br>実施 0 |
| 5   |                             | <前期中間試験Ⅰ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 前期中間Ⅱまで                             |
| 6   |                             | <前期中間試験Ⅱ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 予定 8 18<br><br>実施 0                 |
| 7・8 |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              | 前期期末まで                              |
| 9   |                             | <前期期末試験>                                |                                                                                                                                                                                                              | 予定 12 30<br><br>実施 0                |
| 10  | 演習                          | 大学入学共通テスト型の演習<br>(数学Ⅰ・Ⅱ・A・B)            | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。              | 後期中間まで                              |
| 11  |                             | <後期中間試験><br>実践問題集                       | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 計測して問題を解くことを通じて、共通テストで十分な点数をとれるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。  | 予定 14 44<br><br>実施 0                |
| 12  |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              |                                     |
| 1   |                             | <後期期末試験><br>個別学力試験対策演習                  | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 大学入学個別学力試験の過去問を解くことを通じて、難問に対応できるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。 | 年度末                                 |
| 2・3 |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              | 予定 10 54<br><br>実施 0                |

No.

2023 年度 数 学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                       |     |   |      |   |          |            |
|---------------|-----------------------|-----|---|------|---|----------|------------|
| 科目            | 探究数学Ⅱ                 | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年・一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数研出版『リンク 数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B』 |     |   |      |   |          |            |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。</li><li>○ 知識の習得と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。</li><li>○ これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。</li></ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。</li><li>○ 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか、より深く考察しようとしているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 予習重視です。これまで身につけた知識を与えられた時間で自分で判断して解く。この演習の繰り返しで学んだことの定着を目指します。初めて見る問題をどのように処理するのか。多くの経験を積んで自在に数学を操れるようになります。</li><li>○ まずは、基本事項の定着から。公式、教科書の例題は、頭に入れておきましょう。演習量が大事です。</li><li>○ 時間をかけて試行錯誤しながら考えることが大事です。間違えることも大事な過程ですので、自分の手で、納得するまで問題を解いてください。</li></ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                         | 教科書項目等                                  | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                  | 授業時数                                |
|-----|-----------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 4   | 演習<br>(数学Ⅰ・<br>A・Ⅱ・B分<br>野) | 数研出版『リンク数学演習ⅠAⅡB』<br>数学Ⅰ/Ⅱ/A/B分野の基礎問題演習 | 分野典型問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解けなかった問題に対して解き直しを行い、知識の見直しをおこなう。                 | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 10 10<br><br>実施 0 |
| 5   |                             | <前期中間試験Ⅰ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 前期中間Ⅱまで                             |
| 6   |                             | <前期中間試験Ⅱ>                               |                                                                                                                                                                                                              | 予定 8 18<br><br>実施 0                 |
| 7・8 |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              | 前期期末まで                              |
| 9   |                             | <前期期末試験>                                |                                                                                                                                                                                                              | 予定 12 30<br><br>実施 0                |
| 10  | 演習                          | 大学入学共通テスト型の演習<br>(数学Ⅰ・Ⅱ・A・B)            | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。              | 後期中間まで                              |
| 11  |                             | <後期中間試験><br>実践問題集                       | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 計測して問題を解くことを通じて、共通テストで十分な点数をとれるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。  | 予定 14 44<br><br>実施 0                |
| 12  |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              |                                     |
| 1   |                             | <後期期末試験><br>個別学力試験対策演習                  | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 大学入学個別学力試験の過去問を解くことを通じて、難問に対応できるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。 | 年度末                                 |
| 2・3 |                             |                                         |                                                                                                                                                                                                              | 予定 10 54<br><br>実施 0                |

No.

2023 年度 数学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                     |     |   |      |   |          |        |
|---------------|---------------------|-----|---|------|---|----------|--------|
| 科目            | 数学甲                 | 単位数 | 3 | 週時間数 | 6 | 年次・コース・組 | 3年一般文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数研出版『リンク数学演習ⅠAⅡB』ほか |     |   |      |   |          |        |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 知識の確認と基礎演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。</li><li>○ 典型問題の理解と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。</li><li>○ これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。</li></ul> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習活動への取り組み、課題の提出状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断する態度を評価します。</li><li>○ 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか評価します。</li><li>○ 単元小テストの結果、演習振り返りシートの内容をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。</li><li>○ 定期試験・課題テスト(JUMPテスト)の結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>○ 予習重視です。これまで身につけた知識を与えられた時間で自分で判断して解く。この演習の繰り返しで学んだことの定着を目指します。初めて見る問題をどのように処理するのか。多くの経験を積んで自在に数学を操れるようになります。なお、数学甲①では主に数学Ⅰ・数学A分野、数学甲②では主に数学Ⅱ・数学B分野を扱います。</p> <p>○ まずは、基本事項の定着から。公式、教科書の例題は、頭に入れておきましょう。</p> <p>○ 時間をかけて試行錯誤しながら考えることが大事です。間違えることも大事な過程ですので、自分の手で、納得するまで問題を解いてください。</p> <p>注：3単位ですが前期開講科目により、週6時間実施します。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                         | 教科書項目等                                  | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                  | 授業時数             |
|-----|-----------------------------|-----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 4   | 演習<br>(数学Ⅰ・<br>A・Ⅱ・B分<br>野) | 数研出版『リンク数学演習ⅠAⅡB』<br>数学Ⅰ/Ⅱ/A/B分野の基礎問題演習 | 分野典型問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。<br><br>◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解けなかった問題に対して解き直しを行い、知識の見直しをおこなう。 | 前期中間Ⅰまで          |
| 5   |                             | <前期中間試験Ⅰ>                               |                                                                                                                                                                                              | 予定 30 30<br>実施 0 |
| 6   |                             | <前期中間試験Ⅱ>                               |                                                                                                                                                                                              | 前期中間Ⅱまで          |
| 7・8 |                             | 数学Ⅰ/Ⅱ/A/B分野の標準問題演習                      |                                                                                                                                                                                              | 予定 24 54<br>実施 0 |
| 9   |                             | <前期期末試験><br>(前期で終了)                     |                                                                                                                                                                                              | 前期期末まで           |
| 10  |                             |                                         |                                                                                                                                                                                              | 予定 36 90<br>実施 0 |
| 11  |                             |                                         |                                                                                                                                                                                              | 後期中間まで           |
| 12  |                             |                                         |                                                                                                                                                                                              | 予定 0 90<br>実施 0  |
| 1   |                             |                                         |                                                                                                                                                                                              | 年度末              |
| 2・3 |                             |                                         |                                                                                                                                                                                              | 予定 0 90<br>実施 0  |

No.

2023 年度 数学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                          |     |   |      |   |          |        |
|---------------|--------------------------|-----|---|------|---|----------|--------|
| 科目            | 数学乙                      | 単位数 | 3 | 週時間数 | 6 | 年次・コース・組 | 3年一般文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 数研出版『リンク数学演習 I A II B』ほか |     |   |      |   |          |        |

① 学習の到達目標

|                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 実践演習や大学入試過去問演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。</li><li>○ 総合問題・分野融合問題の理解と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。</li><li>○ これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。</li></ul> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習活動への取り組み、課題の提出状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断する態度を評価します。</li><li>○ 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか評価します。</li><li>○ 単元小テストの結果、演習振り返りシートの内容をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。</li><li>○ 定期考査・課題考査(JUMPテスト)の結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。</li></ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 前期開講の数学甲より応用問題を扱う比率が増します。また共通テスト近くには計測して実際の共通テストを想定した演習を行います。</li><li>○ 前期まで一通り身につけた基本事項をもとに、様々な典型問題を扱います。</li><li>○ 時間をかけて試行錯誤しながら考えることが大切です。間違えることも大事な過程ですので、自分の手で、納得するまで問題を解いてください。</li></ul> <p>注：3単位ですが後期開講科目により、週6時間実施します。</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名 | 教科書項目等          | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                        | 授業時数     |
|-----|-----|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4   |     |                 |                                                                                                                                    | 前期中間Ⅰまで  |
|     |     |                 |                                                                                                                                    | 予定 0     |
| 5   |     |                 |                                                                                                                                    | 実施 0     |
| 6   |     |                 |                                                                                                                                    | 前期中間Ⅱまで  |
|     |     |                 |                                                                                                                                    | 予定 0     |
| 7・8 |     |                 |                                                                                                                                    | 実施 0     |
|     |     |                 |                                                                                                                                    | 前期期末まで   |
| 9   |     |                 |                                                                                                                                    | 予定 0     |
|     |     | (後期から開始)        |                                                                                                                                    | 実施 0     |
| 10  | 演習  | 大学入学共通テストに向けた演習 | 分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。                                                                | 後期中間まで   |
|     |     |                 | ◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。               |          |
| 11  |     | <後期中間試験>        |                                                                                                                                    |          |
|     |     |                 | 実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。                                                                  |          |
|     |     |                 | ◎ 計測して問題を解くことを通じて、共通テストで十分な点数をとれるための実力をつける。<br>◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。<br>○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。 |          |
| 12  |     |                 |                                                                                                                                    | 年度末      |
|     |     | <後期期末試験>        |                                                                                                                                    |          |
| 1   |     | 個別学力試験に向けた演習    |                                                                                                                                    |          |
| 2・3 |     |                 |                                                                                                                                    | 予定 30 72 |
|     |     |                 |                                                                                                                                    | 実施 0     |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

| 科目            | 物理                                                                                     | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次・一般コース・理系 |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 使用教科書<br>副教材等 | 改訂版 物理(数研出版)<br>四訂版 リードα 物理基礎・物理(数研出版)<br>改訂版 フォトサイエンス物理図録(数研出版)<br>フォローアップドリル物理(数研出版) |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

・物理的な探究心を高め、物理解学的に探究する能力と態度を育て、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。  
・学習を通して得た知識や理解したことを活用し、大学入試等に対応できる物理的思考力や応用力を養う。

② 評価の観点、方法

・4つの観点をふまえ、定期試験の成績を基にし、平常成績を勘案して100点満点で算出する。  
授業での学習に対する姿勢、実験実習等への参加態度、ノートや提出物などで「関心・意欲・態度」を評価する。  
定期試験での論述問題、授業中の発問や発表内容や発表の仕方などで「思考・判断・表現」を評価する。  
実験実習等での観察、生徒の自己評価や相互評価などで「観察・実験の技能」を評価する。  
定期試験、小テスト、提出物、発問に対する答えなどで「知識・理解」を評価する。  
・年度末の5段階評価は、概ね次の基準による。  
80点以上:5 65点以上:4 45点以上:3 35点以上:2 34点以下:1

③ 担当者から

・2年次「物理」の履修を前提として授業をすすめる。  
・理工学系・医療系の大学等で学ぶための基礎的な知識や物理学的な思考法を身につけるため、日々の授業の復習や問題演習に十分時間をかける必要がある。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名       | 教科書項目等                              | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                             | 授業時数                    |
|-----|-----------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 4   | 第3編 波     | <課題テスト><br>第1章 波の伝わり方<br>第2章 音の伝わり方 | ・媒質の単振動と正弦波との関係を学ぶ。<br>◎正弦波の式を正しく表し、変位などを計算で求めることができるか。<br>・波の反射・屈折・回折について学ぶ。<br>◎反射・屈折の法則をホイヘンスの法則から説明できるか。<br>・音波の波としての反射・屈折・回折・干渉について学ぶ。<br>◎諸現象の具体例を説明できるか。<br>・ドップラー効果について学ぶ。<br>◎音源が動く場合と観測者が動く場合とで、現象の違いを説明できるか。 | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 21 21 |
| 5   | 第3編 波     | 第3章 光<br><前期中間試験Ⅰ>                  | ・波動としての光波の反射・屈折と全反射について学ぶ。<br>・光の分散・散乱・偏光について学ぶ。<br>・光の回折・干渉について学ぶ。<br>◎全反射が起こる条件を説明し、屈折の法則を用いることができるか。<br>◎ヤングの実験、回折格子、薄膜などの光の干渉について説明できるか。                                                                            | 実施 0                    |
|     | 第4編 電気と磁気 | 第1章 電場                              | ・静電気力とクーロンの法則について学ぶ。<br>・電場と電気力線、電場と電位の関係について学ぶ。<br>◎電場の定義を正しく説明できるか。<br>◎電場と電位の関係をグラフ等を用いて考察できるか。                                                                                                                      | 前期中間Ⅱまで                 |
| 6   | 第4編 電気と磁気 | 第1章 電場<br>第2章 電流<br><前期中間試験Ⅱ>       | ・極板間の電場と電位、電場内の導体や不導体のふるまいと関連付け、コンデンサーの性質を学ぶ。<br>◎コンデンサーの電気容量の式を導く過程を説明できるか。<br>◎コンデンサーの直列接続、並列接続について理解しているか。<br>・電流や電圧の意味を確認しながらキルヒホッフの法則を学ぶ。<br>◎電流の定義を正しく説明できるか。<br>◎キルヒホッフの法則を用いて回路計算ができるか。                         | 予定 17 38<br><br>実施 0    |
| 7・8 | 第4編 電気と磁気 | 第3章 電流と磁場<br><課題テスト>                | ・磁場の定義と電流がつくる磁場について学ぶ。<br>・電流が磁場から受ける力や荷電粒子が磁場から受ける力について学ぶ。<br>◎電流がつくる磁場に関する公式を正しく使うことができるか。<br>◎フレミングの左手の法則を理解し正しく使うことができるか。<br>◎磁場中を運動する荷電粒子の運動について考察できるか。                                                            | 前期期末まで                  |
| 9   | 第4編 電気と磁気 | 第4章 電磁誘導と電磁波<br><前期期末試験>            | ・電磁誘導の法則について学ぶ。<br>・自己誘導と相互誘導について学ぶ。<br>・交流の発生と交流回路について学ぶ。<br>・電磁波の発生の仕組みとその性質について学ぶ。<br>◎誘導起電力の大きさと向きを正しく求めることができるか。<br>◎磁場を横切る導線に生じる誘導起電力について説明できるか。                                                                  | 予定 25 63<br><br>実施 0    |
| 10  |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         | 後期中間まで                  |
| 11  |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         | 予定 63<br>実施 0           |
| 12  |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         |                         |
| 1   |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         | 年度末                     |
| 2・3 |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         | 予定 63<br>実施 0           |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

| 科目            | 物理                                                                                     | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次・探究コース・理系 |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 使用教科書<br>副教材等 | 改訂版 物理(数研出版)<br>四訂版 リードα 物理基礎・物理(数研出版)<br>改訂版 フォトサイエンス物理図録(数研出版)<br>フォローアップドリル物理(数研出版) |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

・物理的な探究心を高め、物学的に探究する能力と態度を育て、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。  
・学習を通して得た知識や理解したことを活用し、難関大学を含む大学入試等に対応できる物理的思考力や応用力を養う。

② 評価の観点、方法

・4つの観点をふまえ、定期試験の成績を基にし、平常成績を勘案して100点満点で算出する。  
授業での学習に対する姿勢、実験実習等への参加態度、ノートや提出物などで「関心・意欲・態度」を評価する。  
定期試験での論述問題、授業中の発問や発表内容や発表の仕方などで「思考・判断・表現」を評価する。  
実験実習等での観察、生徒の自己評価や相互評価などで「観察・実験の技能」を評価する。  
定期試験、小テスト、提出物、発問に対する答えなどで「知識・理解」を評価する。  
・年度末の5段階評価は、概ね次の基準による。  
80点以上:5 65点以上:4 45点以上:3 35点以上:2 34点以下:1

③ 担当者から

・2年次「物理」の履修を前提として授業をすすめる。  
・理工学系・医療系の大学等で学ぶための基礎的な知識や物理学的な思考法を身につけるため、日々の授業の復習や問題演習に十分時間をかける必要がある。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名       | 教科書項目等                              | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                             | 授業時数                    |
|-----|-----------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 4   | 第3編 波     | <課題テスト><br>第1章 波の伝わり方<br>第2章 音の伝わり方 | ・媒質の単振動と正弦波との関係を学ぶ。<br>◎正弦波の式を正しく表し、変位などを計算で求めることができるか。<br>・波の反射・屈折・回折について学ぶ。<br>◎反射・屈折の法則をホイヘンスの法則から説明できるか。<br>・音波の波としての反射・屈折・回折・干渉について学ぶ。<br>◎諸現象の具体例を説明できるか。<br>・ドップラー効果について学ぶ。<br>◎音源が動く場合と観測者が動く場合とで、現象の違いを説明できるか。 | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 21 21 |
| 5   | 第3編 波     | 第3章 光<br><前期中間試験Ⅰ>                  | ・波動としての光波の反射・屈折と全反射について学ぶ。<br>・光の分散・散乱・偏光について学ぶ。<br>・光の回折・干渉について学ぶ。<br>◎全反射が起こる条件を説明し、屈折の法則を用いることができるか。<br>◎ヤングの実験、回折格子、薄膜などの光の干渉について説明できるか。                                                                            | 実施 0                    |
|     | 第4編 電気と磁気 | 第1章 電場                              | ・静電気力とクーロンの法則について学ぶ。<br>・電場と電気力線、電場と電位の関係について学ぶ。<br>◎電場の定義を正しく説明できるか。<br>◎電場と電位の関係をグラフ等を用いて考察できるか。                                                                                                                      | 前期中間Ⅱまで                 |
| 6   | 第4編 電気と磁気 | 第1章 電場<br>第2章 電流<br><前期中間試験Ⅱ>       | ・極板間の電場と電位、電場内の導体や不導体のふるまいと関連付け、コンデンサーの性質を学ぶ。<br>◎コンデンサーの電気容量の式を導く過程を説明できるか。<br>◎コンデンサーの直列接続、並列接続について理解しているか。<br>・電流や電圧の意味を確認しながらキルヒホッフの法則を学ぶ。<br>◎電流の定義を正しく説明できるか。<br>◎キルヒホッフの法則を用いて回路計算ができるか。                         | 予定 17 38<br><br>実施 0    |
| 7・8 | 第4編 電気と磁気 | 第3章 電流と磁場<br><課題テスト>                | ・磁場の定義と電流がつくる磁場について学ぶ。<br>・電流が磁場から受ける力や荷電粒子が磁場から受ける力について学ぶ。<br>◎電流がつくる磁場に関する公式を正しく使うことができるか。<br>◎フレミングの左手の法則を理解し正しく使うことができるか。<br>◎磁場中を運動する荷電粒子の運動について考察できるか。                                                            | 前期期末まで                  |
| 9   | 第4編 電気と磁気 | 第4章 電磁誘導と電磁波<br><前期期末試験>            | ・電磁誘導の法則について学ぶ。<br>・自己誘導と相互誘導について学ぶ。<br>・交流の発生と交流回路について学ぶ。<br>・電磁波の発生の仕組みとその性質について学ぶ。<br>◎誘導起電力の大きさと向きを正しく求めることができるか。<br>◎磁場を横切る導線に生じる誘導起電力について説明できるか。                                                                  | 予定 25 63<br><br>実施 0    |
| 10  |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         | 後期中間まで                  |
| 11  |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         | 予定 63<br><br>実施 0       |
| 12  |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         |                         |
| 1   |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         | 年度末                     |
| 2・3 |           |                                     |                                                                                                                                                                                                                         | 予定 63<br><br>実施 0       |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                             |     |   |      |   |          |           |
|---------------|---------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 科目            | 化学                                          | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 化学(啓林館),リードα化学基礎+化学(数研出版),スクエア最新図説化学(第一学習社) |     |   |      |   |          |           |

① 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら、化学平衡等に関する基本的な概念、並びに無機物質と有機化合物の性質について学習する。(1)化学的な事物・現象に関する基本的な知識と概念、原理・法則を、系統的に理解する。(2)化学的な事物・現象に関して、知的好奇心をもって新たな課題を見出し、主体的に解決しようとする意欲を養う。(3)他の科目とも関連させて、自然界の事物・現象を総合的に考察する能力を育成する。

② 評価の観点、方法

(1)100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。(2)定期テストにおいては、知識、理解、思考力、表現力を評価する。(3)平常点の内容は、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)、小テスト(意欲、知識)、課題の提出(意欲、思考力、表現力)などとする。

③ 担当者から

(1)2年次に「化学」2単位を履修したことを前提として学習する。(2)大学(理系学部)での学習、及び後期「探究化学」の学習に必要な幅広い化学的知識を身につけてもらうための授業である。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                 | 教科書項目等                                              | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                            | 授業予定<br>時数           | 授業<br>実施<br>時数 |
|-----|---------------------|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|----------------|
| 4   | 第2部物質<br>の変化と平<br>衡 | 化学平衡とその移動<br><br>電離平衡                               | ・可逆反応と平衡状態、平衡移動に関するルシャトリエの原理について学ぶ。<br>◎反応速度と反応条件(濃度、温度、触媒)の関係や反応のしくみ、触媒の利用について理解している。<br>◎平衡定数を用いた量的関係を考えることができる。<br>・電解水溶液においても電離平衡が成り立つことを学ぶ。<br>・弱酸や弱塩基における濃度、電離度、電離定数、水のイオン積、pHの関係を知り、これらの考え方を基盤とし、弱酸・弱塩基の遊離、塩の加水分解、緩衝液、難溶性塩の水溶液中の平衡についても学ぶ。<br>◎溶液における平衡状態について考えることができる。<br>◎量的な関係について考えることができる。 | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 20 |                |
| 5   | 第3部無機<br>物質         | 周期表と元素の分類<br>非金属元素<br><br>典型金属元素<br>遷移元素            | ・周期表に基づく、元素の分類や、周期性について学ぶ。<br>・非金属元素について、その単体および化合物の性質、製法や利用法について学ぶ。<br>◎非金属元素について理解し、知識が定着している。<br>◎身についた知識を応用して考えることができる。<br>・典型金属元素について、その単体および化合物の性質、製法や利用法について学ぶ。<br>・遷移元素について、その単体および化合物の性質、製法や利用法について学ぶ。<br>◎典型金属元素について理解し、知識が定着している。<br>◎身についた知識を応用して考えることができる。                                |                      |                |
| 6   | 第4部有機<br>化合物        | 有機化合物の特徴と分類<br>脂肪族炭化水素<br><br>前期中間試験<br>酸素を含む脂肪族化合物 | ・有機化合物の特徴とその分類方法を学ぶ。<br>◎官能基による分類や構造異性体、有機化合物の表し方(分子式、構造式など)について考えることができる。<br>・有機化合物の分析の手順および成分元素の検出と元素分析について学ぶ。<br>◎元素分析の考え方について考えることができる。<br>・酸素を含む有機化合物(アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル)について学ぶ。<br>◎炭素骨格および官能基によりその性質が特徴づけられることを理解し、それぞれの反応性や構造について考えることができる。                                       | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 16 |                |
| 7・8 | 第5部高分子化合物           | 芳香族化合物<br><br>天然高分子化合物                              | ベンゼン環をもつ芳香族化合物の構造と性質、反応性について学ぶ。<br>◎ベンゼン環および官能基により化合物の性質が特徴づけられることを理解する。反応性や構造と関連付けながらこれらの化合物について考えることができる。<br><br>・高分子化合物の分類や構造、重合方法、特徴などを学ぶ。<br>・身近に存在する繊維や食物を構成している代表的な天然高分子化合物である糖類、タンパク質、核酸について、その構造や性質を学ぶ。<br>◎各物質の構造や性質を理解し、知識が定着している。                                                          |                      |                |
| 9   |                     | 合成高分子化合物<br><br>前期末試験                               | 代表的な合成高分子である合成繊維や合成樹脂(プラスチック)、ゴムについて、その構造や性質を学ぶ。<br>◎各物質の構造や性質を理解し、知識が定着している。                                                                                                                                                                                                                          | 前期期末まで<br><br>予定 24  |                |
|     |                     |                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                      |                |

| 科目            | 化学                                                | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年探究コース理系 |
|---------------|---------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 使用教科書<br>副教材等 | 化学(啓林館)<br>リードα化学基礎+化学(数研出版)<br>スクエア最新図説化学(第一学習社) |     |   |      |   |          |           |

## ① 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら、化学平衡等に関する基本的な概念、並びに無機物質と有機化合物の性質について学習する。

- (1)化学的な事物・現象に関する基本的な知識と概念、原理・法則を、系統的に理解する。
- (2)化学的な事物・現象に関して、知的好奇心をもって新たな課題を見だし、主体的に解決しようとする意欲を養う。
- (3)他の科目とも関連させて、自然界の事物・現象を総合的に考察する能力を育成する。

## ② 評価の観点、方法

- (1)100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。
- (2)定期テストにおいては、主に知識と理解力を評価する。
- (3)平常点の内容は、課題の提出(意欲、判断力、思考力、表現力)、小テスト(意欲、知識)、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)などとする。

## ③ 担当者から

- (1)2年次に「化学」2単位を履修したことを前提として学習する。
- (2)大学(理系学部)での学習、及び後期「探究化学」の学習に必要な幅広い化学的知識を身につけてもらうための授業である。

## ※ 前期反省

## ※ 年間反省

(前期科目)

## ※ 次年度に向けて

## ④ 学習計画

| 月 | 単元名                | 教科書項目等                                                | 主な学習活動 ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                         | 予定時間              | 実施時間 |
|---|--------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|------|
| 4 | 第3章<br>化学反応の速さとしくみ | 化学反応の速さとしくみ<br>反応条件と反応速度                              | 反応のしくみ、速度の要因、化学平衡の考え方を理解し、それらの数量的な扱いができるようにする。<br>◎反応条件と反応速度の関係が理解できるか。平衡の移動を判断できるか。<br>◎平衡定数を用いた数量的扱いができるか                                  | 16 (16)<br>1 (17) |      |
|   | 第4章<br>化学平衡        | 可逆反応と化学平衡                                             |                                                                                                                                              |                   |      |
| 5 |                    | 平衡状態の変化                                               |                                                                                                                                              |                   |      |
|   |                    | 前期中間試験Ⅰ<br>電解質水溶液の化学平衡                                |                                                                                                                                              |                   |      |
| 6 | 第3編<br>無機物質        | 非金属元素<br><br>金属元素Ⅰ<br><br>金属元素Ⅱ<br>前期中間試験Ⅱ            | 非金属元素と典型金属元素を族ごとに扱い、各元素と主な化合物の性質と反応について学習する。<br>主な遷移金属元素を取り上げ、その化合物の性質と反応について学習する。<br>◎主な元素と無機物質の性質と反応について理解し、知識が定着しているか。<br>◎更にその知識を応用できるか。 | 16 (33)<br>1 (34) |      |
| 7 | 第4編<br>有機化合物       | 金属元素Ⅱ<br><br>有機化合物の分類と分析<br>脂肪族炭化水素<br><br>アルコールと関連物質 |                                                                                                                                              |                   |      |
| 8 |                    | 課題テスト<br><br>芳香族化合物                                   | 有機化合物の一般的な特徴並びに個別の性質と反応について学習する。<br>◎主な有機化合物の性質と反応について理解し、知識が定着しているか。更にその知識を応用できるか。                                                          |                   |      |
| 9 | 第5編<br>天然有機化合物     | 天然有機化合物<br>天然高分子化合物                                   | 炭水化物、タンパク質、主な合成高分子化合物の性質と反応、製法について学習する。<br>◎各物質の性質を理解し、知識が定着しているか                                                                            | 22 (56)<br>1 (57) |      |
|   | 第6編<br>合成高分子化合物    | 高分子化合物の性質<br>前期末試験                                    |                                                                                                                                              |                   |      |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                               |     |   |      |   |          |           |
|---------------|-------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 科目            | 生物                            | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 生物(数研出版)<br>スクエア最新図説生物(第一学習社) |     |   |      |   |          |           |

① 学習の到達目標

生命現象と物質の働き、生殖と発生の仕組みや器官形成、生物の環境応答、生体と環境および生物の進化と系統を学習し、生物や生物現象に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育成する。

② 評価の観点、方法

原則として、定期テスト80点、平常点20点 の100点法で評価する。  
定期テストにおいては授業の学習内容の理解度を主に評価する。  
定期試験前の課題などの提出では、おもに関心・意欲、判断力、表現力を評価する。  
出席状況、授業への取り組み等により、関心・意欲・態度、また思考力・判断力も評価する。

③ 担当者から

2年次「生物」を履修したことを前提として授業を行う。  
大学(理系の学部)で学ぶための基礎学力、また、探究学習に必要な幅広い生物学的知識を身につけてもらうための授業である。  
「生物基礎」よりも広い分野を扱い、化学的・数的処理能力を必要とする。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名             | 教科書項目等                                                           | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                       | 授業時数                            |
|-----|-----------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 4   | 第5章<br>動物の反応と行動 | (ニューロンとその興奮刺激の受容)<br>(情報の統合)<br>刺激への反応<br>動物の行動                  | ・動物が外界の刺激を受容し、神経系を介してそれに反応する仕組みと、動物の行動について理解する<br>◎基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)<br>◎グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)<br>◎基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)               | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 20 20<br>実施 0 |
| 5   | 第6章<br>植物の環境応答  | 植物の反応<br>成長の調節<br>＜中間試験Ⅰ＞<br><br>花芽形成と発芽の調節                      | ・植物が植物ホルモンや光受容体の働きで環境変化に反応する仕組みを理解する。<br>◎基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)<br>◎グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)<br>◎基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)                        | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 16 36<br>実施 0 |
| 6   | 第7章<br>生物群集と生態系 | 個体群<br>個体群内の個体間の関係<br>異種個体間の関係<br>＜中間試験Ⅱ＞                        | ・個体群とその変動について理解する。<br>・生態系における物質生産とエネルギー効率及び、生物多様性について理解させる。<br>◎基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)<br>◎グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)<br>◎基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視) | 前期期末まで<br><br>予定 24 60<br>実施 0  |
| 7・8 | 第8章<br>生命の起源と進化 | 生物群集<br>生態系における物質生産<br>生態系と生物多様性<br><br>生命の起源<br>生物の変遷<br>進化のしくみ | ・生命の起源や生物が進化してきた道筋を、進化の仕組みと合わせて理解する                                                                                                                                               | 後期中間まで<br><br>予定 60<br>実施 0     |
| 9   | 第9章<br>生物の系統    | 生物の分類と系統<br>原核生物<br>原生生物<br>植物<br>動物菌類<br>＜前期・期末試験＞              | ・生物はその系統に基づいて分類できることを理解する<br>◎基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)<br>◎グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)<br>◎基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)                                    | 年度末<br><br>予定 60<br>実施 0        |
| 10  |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                   |                                 |
| 11  |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                   |                                 |
| 12  |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                   |                                 |
| 1   |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                   |                                 |
| 2・3 |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                   |                                 |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                               |     |   |      |   |          |           |
|---------------|-------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 科目            | 生物                            | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年探究コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 生物(数研出版)<br>スクエア最新図説生物(第一学習社) |     |   |      |   |          |           |

① 学習の到達目標

生命現象と物質の働き、生殖と発生の仕組みや器官形成、生物の環境応答、生体と環境および生物の進化と系統を学習し、生物や生物現象に対する関心や探究心を高め、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物 学の基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、科学的な自然観を育成する。

② 評価の観点、方法

原則として、定期テスト80点、平常点20点 の100点法で評価する。  
定期テストにおいては授業の学習内容の理解度を主に評価する。  
定期試験前の課題などの提出では、おもに関心・意欲、判断力、表現力を評価する。  
出席状況、授業への取り組み等により、関心・意欲・態度、また思考力・判断力も評価する。

③ 担当者から

2年次「生物」を履修したことを前提として授業を行う。  
大学(理系の学部)で学ぶための基礎学力、また、探究学習に必要な幅広い生物学的知識を身につけてもらうための授業である。  
「生物基礎」よりも広い分野を扱い、化学的・数的処理能力を必要とする。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名             | 教科書項目等                                                           | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                               | 授業時数                            |
|-----|-----------------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 4   | 第5章<br>動物の反応と行動 | (情報の統合)<br>刺激への反応<br>動物の行動                                       | ・動物が外界の刺激を受容し、神経系を介してそれに反応する仕組みと、動物の行動について理解する<br><br>◎基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)<br>◎グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)<br>◎基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)                   | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 20 20<br>実施 0 |
| 5   | 第6章<br>植物の環境応答  | 植物の反応<br>成長の調節<br><br><中間試験Ⅰ><br><br>花芽形成と発芽の調節                  | ・植物が植物ホルモンや光受容体の働きで環境変化に反応する仕組みを理解する。<br><br>◎基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)<br>◎グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)<br>◎基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)                            | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 16 36<br>実施 0 |
| 6   | 第7章<br>生物群集と生態系 | 個体群<br>個体群内の個体間の関係<br>異種個体間の関係<br><br><中間試験Ⅱ>                    | ・個体群とその変動について理解する。<br><br>・生態系における物質生産とエネルギー効率及び、生物多様性について理解させる。<br><br>◎基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)<br>◎グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)<br>◎基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視) | 前期期末まで<br><br>予定 24 60<br>実施 0  |
| 7・8 | 第8章<br>生命の起源と進化 | 生物群集<br>生態系における物質生産<br>生態系と生物多様性<br><br>生命の起源<br>生物の変遷<br>進化のしくみ | ・生命の起源や生物が進化してきた道筋を、進化の仕組みと合わせて理解する                                                                                                                                                       | 後期中間まで<br><br>予定 60<br>実施 0     |
| 9   | 第9章<br>生物の系統    | 生物の分類と系統<br>原核生物<br>原生生物<br>植物<br>動物菌類<br><br><前期・期末試験>          | ・生物はその系統に基づいて分類できることを理解する<br><br>◎基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)<br>◎グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)<br>◎基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)                                        | 年度末<br><br>予定 60<br>実施 0        |
| 10  |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                           |                                 |
| 11  |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                           |                                 |
| 12  |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                           |                                 |
| 1   |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                           |                                 |
| 2・3 |                 |                                                                  |                                                                                                                                                                                           |                                 |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

| 科目            | 教養物理                                                             | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次・一般コース・理系 |
|---------------|------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 使用教科書<br>副教材等 | 改訂版 物理基礎(数研出版)<br>改訂版 物理(数研出版)<br>四訂版 リード $\alpha$ 物理基礎・物理(数研出版) |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

- ・物理的な探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育て、科学的な自然観を育成する。
- ・学習を通して得た知識や理解したことを活用する力を養う。

② 評価の観点、方法

- ・4つの観点をふまえ、定期試験の成績を基にし、平常成績を勘案して100点満点で算出する。  
授業での学習に対する姿勢、実験実習等への参加態度、ノートや提出物などで「関心・意欲・態度」を評価する。  
定期試験での論述問題、授業中の発問や発表内容や発表の仕方などで「思考・判断・表現」を評価する。  
実験実習等での視察、生徒の自己評価や相互評価などで「観察・実験の技能」を評価する。  
定期試験、小テスト、提出物、発問に対する答えなどで「知識・理解」を評価する。
- ・年度末の5段階評価は、概ね次の基準による。  
80点以上:5 65点以上:4 45点以上:3 35点以上:2 34点以下:1

③ 担当者から

- ・2年次および3年次前期「物理」の履修を前提として授業をすすめる。
- ・様々な物理学の理論を系統だてて整理し基礎力の定着を図り、物理学の教養を身につける。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名         | 教科書項目等                           | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点 | 授業時数             |
|-----|-------------|----------------------------------|-----------------------------|------------------|
| 4   |             |                                  |                             | 前期中間Ⅰまで<br>予定 0  |
| 5   |             |                                  |                             | 実施 0<br>前期中間Ⅱまで  |
| 6   |             |                                  |                             | 予定 0<br>実施 0     |
| 7・8 |             |                                  |                             | 前期末まで            |
| 9   |             |                                  |                             | 予定 0<br>実施 0     |
| 10  | 力学・熱        | 【基礎】第1編・第2編<br>【基礎なし】第1編・第2編     | 基本的な問題演習を行う                 | 後期中間まで           |
| 11  | 波動          | 【基礎】第3編<br>【基礎なし】第3編<br><後期中間試験> | 基本的な問題演習を行う                 | 予定 25 25<br>実施 0 |
| 12  | 電磁気<br>(原子) | 【基礎】第4編<br>【基礎なし】第4編・第5編         | 基本的な問題演習を行う                 | 年度末              |
| 1   | 総復習         | マーク形式問題演習<br><後期末試験>             | 基本的な問題演習を行う                 |                  |
| 2・3 |             |                                  |                             | 予定 20 45<br>実施 0 |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                           |     |   |      |   |          |           |
|---------------|-------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 科目            | 教養化学                                      | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材,リードα化学基礎＋化学(数研出版),スクエア最新図説化学(第一学習社), |     |   |      |   |          |           |

① 学習の到達目標

『化学基礎』ならびに『化学』を履修した上で、それらの科目で学習した内容を踏まえ、以下の内容を学習する。(1)高校化学の基礎知識・基本技能の習熟を図る。(2)現象と理論の結びつきや各分野の関連性を考えながら取り組み、応用的・発展的な課題にも挑戦する。(3)特に、以下の内容の深化を図る。①物質の状態 ②化学反応 ③様々な物質

② 評価の観点、方法

(1)100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。(2)定期テストにおいては、知識、理解、思考力、表現力を評価する。(3)平常点の内容は、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)、小テスト(意欲、知識)、課題の提出(意欲、思考力、表現力)などとする。

③ 担当者から

(1)「化学」の履修を前提として学習する。(2)探究化学よりもやや基礎的な内容に重点を置いて学習するので、理系の大学進学のためには不十分な内容である。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名            | 教科書項目等                         | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 授業予定<br>時数 | 授業<br>実施<br>時数 |
|-----|----------------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----------------|
| 4   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |            |                |
| 5   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |            |                |
| 6   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |            |                |
| 7・8 |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |            |                |
| 9   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |            |                |
| 10  | 物質の構成<br>物質の変化 | 物質の構成<br>化学結合<br><br>物質量と化学反応式 | <p>物質を構成する粒子の組成について学び、物質がどのように結合して成り立っているかを知る。<br/> ◎結合の種類を説明することができ、物質の持つ結合について考えることができる。<br/> ◎原子の構造について説明することができる。<br/> 物質量と関連した計算を演習を通して学ぶ。<br/> ◎異なる問われ方をした場合でも正確に計算ができる。<br/> ◎量的な関係について考えることができる。</p> <p>酸の発見、及びその利用と歴史について知る。酸塩基の反応と応用について整理したうえで、中和滴定実験及び問題演習を行い、量的扱いに習熟する。<br/> ◎酸と塩基を分類できる。<br/> ◎pHを求めることができる。<br/> ◎中和反応を理解し、量的関係について考えることができる。</p> <p>酸化還元反応について整理したうえで、問題演習を行って理解を深める。<br/> 電池と電気分解について整理する。燃料電池の利用などについて学ぶ。<br/> 問題演習を行って理解を深める。<br/> ◎酸化剤と還元剤を分類できる。<br/> ◎金属の反応性について理解できている。<br/> ◎量的な関係について考えることができる。<br/> ◎電池のしくみについて理解している。</p> <p>理解不十分な分野について、演習問題や調べ学習を重ね理解を深める。</p> | 後期中間まで     |                |
| 11  | 酸化還元           | 酸と塩基<br><br>酸化還元               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 予定 24      |                |
| 12  |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |            |                |
| 1   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 年度末        |                |
| 2・3 |                | 2次講習                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 予定 20      |                |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

| 科目            | 教養化学                                       | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年一般コース理系 |
|---------------|--------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材,リードα 化学基礎＋化学(数研出版),スクエア最新図説化学(第一学習社), |     |   |      |   |          |           |

① 学習の到達目標

『化学基礎』ならびに『化学』を履修した上で、それらの科目で学習した内容を踏まえ、以下の内容を学習する。(1)高校化学の基礎知識・基本技能の習熟を図る。(2)現象と理論の結びつきや各分野の関連性を考えながら取り組み、応用的・発展的な課題にも挑戦する。(3)特に、以下の内容の深化を図る。①物質の状態 ②化学反応 ③様々な物質

② 評価の観点、方法

(1)100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。(2)定期テストにおいては、知識、理解、思考力、表現力を評価する。(3)平常点の内容は、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)、小テスト(意欲、知識)、課題の提出(意欲、思考力、表現力)などとする。

③ 担当者から

(1)「化学」の履修を前提として学習する。(2)探究化学よりもやや基礎的な内容に重点を置いて学習するので、理系の大学進学のためには不十分な内容である。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名            | 教科書項目等                         | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 授業予定<br>時数       | 授業<br>実施<br>時数 |
|-----|----------------|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|----------------|
| 4   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |                |
| 5   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |                |
| 6   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |                |
| 7・8 |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |                |
| 9   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |                |
| 10  | 物質の構成<br>物質の変化 | 物質の構成<br>化学結合<br><br>物質量と化学反応式 | <p>物質を構成する粒子の組成について学び、物質がどのように結合して成り立っているかを知る。<br/> ◎結合の種類を説明することができ、物質の持つ結合について考えることができる。<br/> ◎原子の構造について説明することができる。<br/> 物質量と関連した計算を演習を通して学ぶ。<br/> ◎異なる問われ方をした場合でも正確に計算ができる。<br/> ◎量的な関係について考えることができる。</p> <p>酸の発見、及びその利用と歴史について知る。酸塩基の反応と応用について整理したうえで、中和滴定実験及び問題演習を行い、量的扱いに習熟する。<br/> ◎酸と塩基を分類できる。<br/> ◎pHを求めることができる。<br/> ◎中和反応を理解し、量的関係について考えることができる。</p> <p>酸化還元反応について整理したうえで、問題演習を行って理解を深める。<br/> 電池と電気分解について整理する。燃料電池の利用などについて学ぶ。<br/> 問題演習を行って理解を深める。<br/> ◎酸化剤と還元剤を分類できる。<br/> ◎金属の反応性について理解できている。<br/> ◎量的な関係について考えることができる。<br/> ◎電池のしくみについて理解している。</p> <p>理解不十分な分野について、演習問題や調べ学習を重ね理解を深める。</p> | 後期中間まで           |                |
| 11  | 酸化還元           | 酸と塩基<br><br>酸化還元               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 予定 24            |                |
| 12  |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |                |
| 1   |                |                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                  |                |
| 2・3 |                | 総演習                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 年度末<br><br>予定 20 |                |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                           |     |   |      |   |          |        |
|---------------|---------------------------|-----|---|------|---|----------|--------|
| 科目            | 教養生物                      | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年一般理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材<br>スクエア最新図説生物(第一学習社) |     |   |      |   |          |        |

① 学習の到達目標

既習の各分野に関して、さらに発展的な内容を多く取り扱うことにより、それぞれの分野のつながりや構成を理解するとともに、科学的に考察する力を養い、それらを積極的に応用し探究していく態度を育てる。

② 評価の観点、方法

原則として、定期テスト80点、平常点20点 の100点法で評価する。  
定期テストにおいては授業の学習内容の理解度を主に評価する。  
定期試験前の課題などの提出では、おもに関心・意欲、判断力、表現力を評価する。  
出席状況、授業への取り組み等により、関心・意欲・態度、また思考力・判断力も評価する。

基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)  
グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)  
基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)

③ 担当者から

1年次の「生物基礎」、2年次・3年次前期の「生物」を履修したことを前提として学習する。  
「生物基礎」の内容を土台に「生物」の内容をより深める学習を行う。  
3年次前期までに学んだことを基に、様々な生物学の理論を系統だてて整理し総合的に探究していく応用力を身につける。  
大学等で学ぶための基礎的な知識や生物学的な思考法を身につけるため、授業の復習や問題演習に十分時間をかける必要がある。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名 | 教科書項目等       | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点 | 授業時数     |
|-----|-----|--------------|-----------------------------|----------|
| 4   |     |              |                             | 前期中間Ⅰまで  |
|     |     |              |                             | 予定 0     |
| 5   |     |              |                             | 実施 0     |
|     |     |              |                             | 前期中間Ⅱまで  |
| 6   |     |              |                             | 予定 0     |
|     |     |              |                             | 実施 0     |
| 7・8 |     |              |                             |          |
|     |     |              |                             | 前期期末まで   |
| 9   |     |              |                             | 予定 0     |
|     |     |              |                             | 実施 0     |
| 10  |     | 「生物の特徴」      | 基本的な問題演習を行う。                |          |
|     |     |              |                             | 後期中間まで   |
| 11  |     | 「遺伝子とそのはたらき」 | 基本的な問題演習を行う。                | 予定 27 27 |
|     |     |              |                             | 実施 0     |
| 12  |     | 「生物の体内環境」    | 基本的な問題演習を行う。                |          |
|     |     | 「植生の多様性と分布」  |                             |          |
| 1   |     | 「生態系とその保全」   |                             | 年度末      |
| 2・3 |     |              |                             | 予定 19 46 |
|     |     |              |                             | 実施 0     |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

| 科目            | 探究物理                                                                           | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次・一般コース・理系 |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 使用教科書<br>副教材等 | 改訂版 物理(数研出版)<br>四訂版 リードα 物理基礎・物理(数研出版)<br>改訂版 フォトサイエンス物理図録(数研出版)<br>共通テスト対策問題集 |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

|                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、自然科学の進歩に対応できる知識と能力を育成する。<br>・学習を通して得た知識や理解したことを活用し、大学入試等に対応できる物理的思考力や応用力を養う。 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|

② 評価の観点、方法

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・4つの観点をふまえ、定期試験の成績を基にし、平常成績を勘案して100点満点で算出する。<br>授業での学習に対する姿勢、実験実習等への参加態度、ノートや提出物などで「関心・意欲・態度」を評価する。<br>定期試験での論述問題、授業中の発問や発表内容や発表の仕方などで「思考・判断・表現」を評価する。<br>実験実習等での観察、生徒の自己評価や相互評価などで「観察・実験の技能」を評価する。<br>定期試験、小テスト、提出物、発問に対する答えなどで「知識・理解」を評価する。<br>・年度末の5段階評価は、概ね次の基準による。<br>80点以上:5 65点以上:4 45点以上:3 35点以上:2 34点以下:1 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

③ 担当者から

|                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・2年次および3年次前期「物理」の履修を前提として授業をすすめる。<br>・理工学系・医療系の大学等で学ぶための基礎的な知識や物理学的な思考法を身につけるため、日々の授業の復習や問題演習に十分時間をかける必要がある。 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名           | 教科書項目等                            | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                   | 授業時数             |
|-----|---------------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 4   |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 前期中間Ⅰまで<br>予定 0  |
| 5   |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 実施 0<br>前期中間Ⅱまで  |
| 6   |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 予定 0<br>実施 0     |
| 7・8 |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 前期期末まで           |
| 9   |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 予定 0<br>実施 0     |
| 10  | 第5編 原子        | 第1章 電子と光                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子の比電荷や電気素量などの値がどのように得られたのかを学ぶ。</li> <li>・光電効果、X線の性質、コンプトン効果などから、光の粒子性と波動性、粒子の波動性について学ぶ。</li> <li>◎トムソンの実験やミリカンの実験について説明できる。</li> <li>◎光電効果の現象を光子説により説明できる。</li> <li>◎X線の最短波長を求める過程を説明できる。</li> </ul> | 後期中間まで           |
| 11  | 第5編 原子<br>総復習 | 第2章 原子と原子核<br><後期中間試験><br>記述式問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水素原子模型を用いて、水素原子のエネルギー準位について学ぶ。</li> <li>・原子核の構造と、放射線の性質について学ぶ。</li> <li>・原子核反応による核エネルギーの解放について学ぶ。</li> <li>◎量子条件、振動数条件について説明できるか。</li> <li>◎質量欠損と結合エネルギーについて正しく理解しているか。</li> </ul> 個別試験・共通テストに向けた問題演習 | 予定 25 25<br>実施 0 |
| 12  | 総復習           | 記述式問題演習<br>マーク式問題演習               | 個別試験・共通テストに向けた問題演習                                                                                                                                                                                                                            |                  |
| 1   | 総復習           | マーク式問題演習<br><後期期末試験>              | 共通テストに向けた問題演習                                                                                                                                                                                                                                 | 年度末              |
| 2・3 |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 予定 20 45<br>実施 0 |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

| 科目            | 探究物理                                                                           | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次・探究コース・理系 |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|--------------|
| 使用教科書<br>副教材等 | 改訂版 物理(数研出版)<br>四訂版 リードα 物理基礎・物理(数研出版)<br>改訂版 フォトサイエンス物理図録(数研出版)<br>共通テスト対策問題集 |     |   |      |   |          |              |

① 学習の到達目標

- ・物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、自然科学の進歩に対応できる知識と能力を育成する。
- ・学習を通して得た知識や理解したことを活用し、難関大学を含む大学入試等に対応できる物理的思考力や応用力を養う。

② 評価の観点、方法

- ・4つの観点をふまえ、定期試験の成績を基にし、平常成績を勘案して100点満点で算出する。  
授業での学習に対する姿勢、実験実習等への参加態度、ノートや提出物などで「関心・意欲・態度」を評価する。  
定期試験での論述問題、授業中の発問や発表内容や発表の仕方などで「思考・判断・表現」を評価する。  
実験実習等での観察、生徒の自己評価や相互評価などで「観察・実験の技能」を評価する。  
定期試験、小テスト、提出物、発問に対する答えなどで「知識・理解」を評価する。
- ・年度末の5段階評価は、概ね次の基準による。  
80点以上:5 65点以上:4 45点以上:3 35点以上:2 34点以下:1

③ 担当者から

- ・2年次および3年次前期「物理」の履修を前提として授業をすすめる。
- ・理工学系・医療系の大学等で学ぶための基礎的な知識や物理学的な思考法を身につけるため、日々の授業の復習や問題演習に十分時間をかける必要がある。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名           | 教科書項目等                            | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                   | 授業時数             |
|-----|---------------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 4   |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 前期中間Ⅰまで<br>予定 0  |
| 5   |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 実施 0<br>前期中間Ⅱまで  |
| 6   |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 予定 0<br>実施 0     |
| 7・8 |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 前期期末まで           |
| 9   |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 予定 0<br>実施 0     |
| 10  | 第5編 原子        | 第1章 電子と光                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子の比電荷や電気素量などの値がどのように得られたのかを学ぶ。</li> <li>・光電効果、X線の性質、コンプトン効果などから、光の粒子性と波動性、粒子の波動性について学ぶ。</li> <li>◎トムソンの実験やミリカンの実験について説明できる。</li> <li>◎光電効果の現象を光子説により説明できる。</li> <li>◎X線の最短波長を求める過程を説明できる。</li> </ul> | 後期中間まで           |
| 11  | 第5編 原子<br>総復習 | 第2章 原子と原子核<br><後期中間試験><br>記述式問題演習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水素原子模型を用いて、水素原子のエネルギー準位について学ぶ。</li> <li>・原子核の構造と、放射線の性質について学ぶ。</li> <li>・原子核反応による核エネルギーの解放について学ぶ。</li> <li>◎量子条件、振動数条件について説明できるか。</li> <li>◎質量欠損と結合エネルギーについて正しく理解しているか。</li> </ul> 個別試験・共通テストに向けた問題演習 | 予定 25 25<br>実施 0 |
| 12  | 総復習           | 記述式問題演習<br>マーク式問題演習               | 個別試験・共通テストに向けた問題演習                                                                                                                                                                                                                            |                  |
| 1   | 総復習           | マーク式問題演習<br><後期期末試験>              | 共通テストに向けた問題演習                                                                                                                                                                                                                                 | 年度末              |
| 2・3 |               |                                   |                                                                                                                                                                                                                                               | 予定 20 45<br>実施 0 |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                           |     |   |      |   |          |           |
|---------------|-------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 科目            | 探究化学                                      | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年一般コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材,リードα化学基礎+化学(数研出版),スクエア最新図説化学(第一学習社), |     |   |      |   |          |           |

① 学習の到達目標

高校化学の各分野における基礎知識・基本技能の習熟を図った上で、以下の内容について学習する。(1)論理的思考が求められる応用的・発展的な課題に、自らの力で取り組む。(2)根拠を明らかにして自分の考えを説明できる表現力を育む。(3)特に、以下の内容の深化を図る。(i)結合 (ii)気体と溶液 (iii)平衡 (iv)様々な物質

② 評価の観点、方法

(1)100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。(2)定期テストにおいては、知識、理解、思考力、表現力を評価する。(3)平常点の内容は、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)、小テスト(意欲、知識)、課題の提出(意欲、思考力、表現力)などとする。

③ 担当者から

(1)「化学」の履修を前提として学習する。(2)理解が深まるにつれて、「化学基礎」と「化学」で学んだ様々な知識が結びついていき、視界がパッと開けていく楽しさを味わって欲しい。(3)大学進学後の探究的な学習に繋がる、より深い学習を行う予定である。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                     | 教科書項目等                                                             | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                     | 授業予定<br>時数 | 授業<br>実施<br>時数 |
|-----|-------------------------|--------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|----------------|
| 4   |                         |                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                 |            |                |
| 5   |                         |                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                 |            |                |
| 6   |                         |                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                 |            |                |
| 7・8 |                         |                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                 |            |                |
| 9   |                         |                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                 |            |                |
| 10  | 物質の状態                   | 原子の構造、イオン化エネルギー<br>電子親和力、電気陰性度、極性<br>化学結合に関する応用力養成                 | 原子の構造、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度などに関する基礎知識の習熟を図る。極性と化学結合に関する応用的な問題に取り組む。<br>◎用語についてその意味を理解し、説明することができる。<br>◎根拠をもって解答を導くことができる。                                                                                                       |            |                |
| 11  | 物質の変化と平衡                | 気体の諸法則<br>混合気体<br>希薄溶液の性質                                          | 気体の法則性、混合気体、希薄溶液の性質に関する問題演習を行い、量的扱いについて習熟を図る。<br>身近なコロイドの例について理解を深める。<br>◎用語についてその意味を理解し、説明することができる。<br>◎根拠をもって解答を導くことができる。                                                                                                     | 24         |                |
| 12  | 無機物質<br>有機化合物<br>高分子化合物 | 定量的扱いの習熟<br>生体内の酸塩基反応<br>様々な反応の速度と平衡<br>定量的扱いの習熟<br>実用電池<br>後期中間試験 | 反応速度と様々な化学平衡について、問題演習を行って理解を深める。<br>◎用語についてその意味を理解し、説明することができる。<br>◎根拠をもって解答を導くことができる。<br>◎正確に計算することができる。                                                                                                                       |            |                |
| 1   |                         | 有機化合物<br>高分子化合物<br>無機物質<br>総合演習                                    | 有機化合物、高分子化合物、無機物質について、問題演習を行って理解を深める。<br>◎用語についてその意味を理解し、説明することができる。<br>◎それぞれの物質の性質、製法やその利用法について理解し、説明することができる。<br>◎正確に計算することができる。                                                                                              |            |                |
| 2・3 |                         | 二次講習                                                               | ・上記の分野が混合した演習問題を行って理解を深める。<br>◎問題を整理し、どの分野の出題であるかを分析し、正確に解答を導くことができる。                                                                                                                                                           |            |                |
|     |                         |                                                                    | ◎全体を通しての評価の観点<br>＜関心・意欲・態度＞<br>学習内容に関心を持ち、意欲的に探究する中で、科学的なものの見方・考え方を身に付ける。(主に平時の学習状況により評価する)<br>＜思考・判断・表現＞<br>様々な事象を科学的に考察し、その結果を的確に表現する。(思考力を要する課題に対する取り組み状況を評価)<br>＜知識・理解＞<br>基本的な概念を理解し、知識を身に付け、それを応用できる。(主に問題演習と定期考査により評価する) | 20         |                |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                           |     |   |      |   |          |           |
|---------------|-------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 科目            | 探究化学                                      | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年探究コース理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材,リードα化学基礎＋化学(数研出版),スクエア最新図説化学(第一学習社), |     |   |      |   |          |           |

### ① 学習の到達目標

高校化学の各分野における基礎知識・基本技能の習熟を図った上で、以下の内容について学習する。(1)論理的思考が求められる応用的・発展的な課題に、自らの力で取り組む。(2)根拠を明らかにして自分の考えを説明できる表現力を育む。(3)特に、以下の内容の深化を図る。(i)結合 (ii)気体と溶液 (iii)平衡 (iv)様々な物質

### ② 評価の観点、方法

(1)100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。(2)定期テストにおいては、主に知識、理解力、思考力を評価する。(3)平常点の内容は、課題の提出(意欲、判断力、思考力、表現力)、小テスト(意欲、知識)、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)などとする。

### ③ 担当者から

(1)「化学」の履修を前提として学習する。(2)理解が深まるにつれて、「化学基礎」と「化学」で学んだ様々な知識が結びついていき、視界がパッと開けていく楽しさを味わって欲しい。(3)大学進学後の探究的な学習に繋がる、より深い学習を行う予定である。

### ※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

### ※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

### ※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名   | 教科書項目等                                       | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                               | 授業時数     |
|-----|-------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4   |       |                                              |                                                                                                           | 前期中間Ⅰまで  |
|     |       |                                              |                                                                                                           | 予定 0     |
| 5   |       |                                              |                                                                                                           | 実施 0     |
|     |       |                                              |                                                                                                           | 前期中間Ⅱまで  |
| 6   |       |                                              |                                                                                                           | 予定 0     |
|     |       |                                              |                                                                                                           | 実施 0     |
| 7・8 |       |                                              |                                                                                                           | 前期期末まで   |
| 9   |       |                                              |                                                                                                           | 予定 0     |
|     |       |                                              |                                                                                                           | 実施 0     |
| 10  | 気体と溶液 | 原子の構造、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度、極性、化学結合に関する応用力養成 | 原子の構造、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度などに関する基礎知識の習熟を図る。極性と化学結合に関する応用的な問題に取り組む。                                       | 後期中間まで   |
|     |       | 気体の諸法則、混合気体、元データE54                          | 気体の法則性、混合気体、希薄溶液の性質に関する問題演習を行い、量的扱いについて習熟を図る。<br>身近なコロイドの例について理解を深める。                                     |          |
|     |       | 定量的扱いの習熟                                     |                                                                                                           |          |
| 11  |       | 定量的扱いの習熟、後期中間試験                              |                                                                                                           | 予定 25 25 |
|     |       | 有機化合物                                        | 有機化合物、高分子化合物、無機物質について、問題演習を行って理解を深める。                                                                     | 実施       |
| 12  |       | グループごとテーマ設定                                  |                                                                                                           | 年度末      |
|     |       | グループ学習、元データE77                               | これまでの内容をもとにグループごとにテーマを設定し、更に学習を深める。<br>グループ学習の成果を発表する。                                                    |          |
| 1   |       | 2次講習、                                        | ◎全体を通しての評価の観点<br><関心・意欲・態度><br>学習内容に関心を持ち、意欲的に探究する中で、科学的なものの見方・考え方を身に付ける。(主に平時の学習状況により評価する)<br>／田老、判断、事項、 |          |
| 2・3 |       |                                              |                                                                                                           | 予定 16 41 |
|     |       |                                              |                                                                                                           | 実施       |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

| 科目            | 探究化学                                       | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年探究コース理系 |
|---------------|--------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材,リードα 化学基礎＋化学(数研出版),スクエア最新図説化学(第一学習社), |     |   |      |   |          |           |

### ① 学習の到達目標

高校化学の各分野における基礎知識・基本技能の習熟を図った上で、以下の内容について学習する。(1)論理的思考が求められる応用的・発展的な課題に、自らの力で取り組む。(2)根拠を明らかにして自分の考えを説明できる表現力を育む。(3)特に、以下の内容の深化を図る。(i)結合 (ii)気体と溶液 (iii)平衡 (iv)様々な物質

### ② 評価の観点、方法

(1)100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。(2)定期テストにおいては、主に知識、理解力、思考力を評価する。(3)平常点の内容は、課題の提出(意欲、判断力、思考力、表現力)、小テスト(意欲、知識)、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)などとする。

### ③ 担当者から

(1)「化学」の履修を前提として学習する。(2)理解が深まるにつれて、「化学基礎」と「化学」で学んだ様々な知識が結びついていき、視界がパッと開けていく楽しさを味わって欲しい。(3)大学進学後の探究的な学習に繋がる、より深い学習を行う予定である。

### ※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

### ※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

### ※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名   | 教科書項目等                                       | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                               | 授業時数     |
|-----|-------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4   |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 前期中間Ⅰまで  |
|     |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 予定 0     |
| 5   |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
|     |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 前期中間Ⅱまで  |
| 6   |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 予定 0     |
|     |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
| 7・8 |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 前期期末まで   |
| 9   |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 予定 0     |
|     |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
| 10  | 気体と溶液 | 原子の構造、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度、極性、化学結合に関する応用力養成 | 原子の構造、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度などに関する基礎知識の習熟を図る。極性と化学結合に関する応用的な問題に取り組む。                                                                                                                                                                                                                                       | 後期中間まで   |
|     |       | 気体の諸法則、混合気体、希薄溶液の性質                          | 気体の法則性、混合気体、希薄溶液の性質に関する問題演習を行い、量的扱いについて習熟を図る。<br>身近なコロイドの例について理解を深める。                                                                                                                                                                                                                                     |          |
|     |       | 定量的扱いの習熟                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 予定 25 25 |
| 11  |       | 定量的扱いの習熟、後期中間試験                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 実施       |
|     |       | 有機化合物                                        | 有機化合物、高分子化合物、無機物質について、問題演習を行って理解を深める。                                                                                                                                                                                                                                                                     | 年度末      |
| 12  |       | グループごとテーマ設定                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |          |
|     |       | グループ学習、元データE77                               | これまでの内容をもとにグループごとにテーマを設定し、更に学習を深める。<br>グループ学習の成果を発表する。                                                                                                                                                                                                                                                    |          |
| 1   |       | 総合演習                                         | ◎全体を通しての評価の観点<br>＜関心・意欲・態度＞<br>学習内容に関心を持ち、意欲的に探究する中で、科学的なものの見方・考え方を身に付ける。(主に平時の学習状況により評価する)<br>＜思考・判断・表現＞<br>様々な事象を科学的に考察し、その結果を的確に表現する。(平時の発言とレポート、グループ学習の状況により評価する)<br>＜観察・実験の技能＞<br>実験の基本技能を習得し、また実験結果を的確に記録する。(主に実験中の取り組みとレポートにより評価する)<br>＜知識・理解＞<br>基本的な概念を理解し、知識を身に付け、それを応用できる。(主に問題演習と定期考査により評価する) | 予定 16 41 |
| 2・3 |       |                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 実施       |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                           |     |   |      |   |          |        |
|---------------|---------------------------|-----|---|------|---|----------|--------|
| 科目            | 探究生物                      | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年一般理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材<br>スクエア最新図説生物(第一学習社) |     |   |      |   |          |        |

① 学習の到達目標

既習の各分野に関して、さらに発展的な内容を多く取り扱うことにより、それぞれの分野のつながりや構成を理解するとともに、科学的に考察する力を養い、それらを積極的に応用し探究していく態度を育てる。

② 評価の観点、方法

原則として、定期テスト80点、平常点20点 の100点法で評価する。  
定期テストにおいては授業の学習内容の理解度を主に評価する。  
定期試験前の課題などの提出では、おもに関心・意欲、判断力、表現力を評価する。  
出席状況、授業への取り組み等により、関心・意欲・態度、また思考力・判断力も評価する。

基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)  
グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)  
基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)

③ 担当者から

1年次の「生物基礎」、2年次・3年次前期の「生物」を履修したことを前提として学習する。  
主に「生物」の内容をより深める学習を行う。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名 | 教科書項目等                                     | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                               | 授業時数     |
|-----|-----|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4   |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 前期中間Ⅰまで  |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 予定 0     |
| 5   |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 前期中間Ⅱまで  |
| 6   |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 予定 0     |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
| 7・8 |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 前期期末まで   |
| 9   |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 予定 0     |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
| 10  |     | 「生命現象と物質」                                  | ・細胞と分子 ・代謝<br>細胞小器官や生体膜のはたらきについてさらに詳しく学習する。また、タンパク質を分子レベルでとらえ、生命現象との関わりについて細かく学習する。<br>さまざまな化学反応を分子の動きで理解し、代謝反応全体を関連させて理解させる。<br>・遺伝情報の発現<br>化学的な内容を中心に遺伝子のはたらきをとらえ、現在の技術における課題について考えさせる。 | 後期中間まで   |
| 11  |     | 「生殖と発生」                                    | ・有性生殖 ・動物・植物の発生<br>基本内容に触れながら、細胞分化や形態形成の内容を詳しく取り扱う。                                                                                                                                       | 予定 28 28 |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
| 12  |     | 「生物の環境応答」<br><br>「生態と環境」<br><br>「生物の進化と系統」 | ・動物の反応と行動 ・植物の環境応答<br>一連の反応を総合的にとらえられるよう学習する。<br>・個体群と生物群集 ・生態系<br>生態系という大きな括りの中で、生物群集の成り立ちと共存のしくみや物質の循環についてさらに理解を深める。<br>基本事項を再度確認し、全体的な流れを追って進化を総合的に学習する。                               | 年度末      |
| 2・3 |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 予定 20 48 |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                           |     |   |      |   |          |        |
|---------------|---------------------------|-----|---|------|---|----------|--------|
| 科目            | 探究生物                      | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年探究理系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材<br>スクエア最新図説生物(第一学習社) |     |   |      |   |          |        |

① 学習の到達目標

既習の各分野に関して、さらに発展的な内容を多く取り扱うことにより、それぞれの分野のつながりや構成を理解するとともに、科学的に考察する力を養い、それらを積極的に応用し探究していく態度を育てる。

② 評価の観点、方法

原則として、定期テスト80点、平常点20点 の100点法で評価する。  
定期テストにおいては授業の学習内容の理解度を主に評価する。  
定期試験前の課題などの提出では、おもに関心・意欲、判断力、表現力を評価する。  
出席状況、授業への取り組み等により、関心・意欲・態度、また思考力・判断力も評価する。

基本的な用語と事象が理解されているか(発問・小テスト)  
グラフや図を読み取り解析することができるか・計算問題を解くことができる(課題テスト・定期テスト)  
基本的な実験の操作ができるか(実験レポート・机間巡視)

③ 担当者から

1年次の「生物基礎」、2年次・3年次前期の「生物」を履修したことを前提として学習する。  
主に「生物」の内容をより深める学習を行う。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名 | 教科書項目等                                     | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                               | 授業時数     |
|-----|-----|--------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 4   |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 前期中間Ⅰまで  |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 予定 0     |
| 5   |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 前期中間Ⅱまで  |
| 6   |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 予定 0     |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
| 7・8 |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 前期期末まで   |
| 9   |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 予定 0     |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
| 10  |     | 「生命現象と物質」                                  | ・細胞と分子 ・代謝<br>細胞小器官や生体膜のはたらきについてさらに詳しく学習する。また、タンパク質を分子レベルでとらえ、生命現象との関わりについて細かく学習する。<br>さまざまな化学反応を分子の動きで理解し、代謝反応全体を関連させて理解させる。<br>・遺伝情報の発現<br>化学的な内容を中心に遺伝子のはたらきをとらえ、現在の技術における課題について考えさせる。 | 後期中間まで   |
| 11  |     | 「生殖と発生」                                    | ・有性生殖 ・動物・植物の発生<br>基本内容に触れながら、細胞分化や形態形成の内容を詳しく取り扱う。                                                                                                                                       | 予定 24 24 |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |
| 12  |     | 「生物の環境応答」<br><br>「生態と環境」<br><br>「生物の進化と系統」 | ・動物の反応と行動 ・植物の環境応答<br>一連の反応を総合的にとらえられるよう学習する。<br>・個体群と生物群集 ・生態系<br>生態系という大きな括りの中で、生物群集の成り立ちと共存のしくみや物質の循環についてさらに理解を深める。<br>基本事項を再度確認し、全体的な流れを追って進化を総合的に学習する。                               | 年度末      |
| 2・3 |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 予定 20 44 |
|     |     |                                            |                                                                                                                                                                                           | 実施 0     |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |        |     |       |      |   |          |          |
|---------------|--------|-----|-------|------|---|----------|----------|
| 科目            | 探究自然科学 | 単位数 | 2 + 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次 探究文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材   |     |       |      |   |          |          |

① 学習の到達目標

「化学基礎」並びに「生物基礎」における学習内容を踏まえ、以下の内容について学習する。  
①主に化学的な事象と生物に関わる様々な現象について学ぶ。  
②化学基礎や生物基礎の既習内容を土台として、食品や医薬品といった身近な物質の性質や化学変化および多様な生物、生態系について学習する。

② 評価の観点、方法

100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。  
定期テストにおいては、主に知識と理解力を評価する。  
平常点の内容は、課題の提出(意欲、判断力、思考力、表現力)、小テスト(意欲、知識)、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)などとする。

③ 担当者から

「化学基礎」並びに「生物基礎」が履修済であることを前提とする。  
前半は、化学分野と生物分野を並行して、土台となる「化学基礎」「生物基礎」の復習を中心に授業を進める。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名 | 教科書項目等                                            | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                              | 授業時数                                |
|-----|-----|---------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 4   |     | ○化学と人間生活<br><br>○生物の特徴<br>遺伝子とその働き<br><br>前期中間試験Ⅰ | 化学物質や化学反応が生活に深く関わっていることに気付かせる。<br>◎基礎力を重視する。<br><br>細胞の多様性と共通性、酵素と代謝のしくみについて理解を深める。<br>遺伝子の本体であるDNAの構造から遺伝子発現のしくみまでの理解を深める。<br>◎生物用語およびそれらの関係について理解したか。  | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 19 19<br><br>実施 0 |
| 5   |     | ○物質の構成<br><br>○生物の体内環境<br><br>前期中間試験Ⅱ             |                                                                                                                                                          | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 15 34<br><br>実施 0 |
| 6   |     | ○化学変化<br><br>○植生の多様性と分布<br>生態系とその保全<br>総合的な問題演習   | 化学基礎で学習した酸と塩基の中和反応について、定量的に扱う。<br>◎定量的な考え方が理解できたか。<br>◎誤差や有効数字をきちんと扱えるか。<br><br>環境に応じた生態系の成り立ちと、生態系内の相互関係について理解を深める。<br>◎植生の変化とそれぞれのバイオームが成り立つ理由を説明できるか。 | 前期末まで<br><br>予定 23 57<br><br>実施 0   |
| 7・8 |     |                                                   |                                                                                                                                                          |                                     |
| 9   |     |                                                   |                                                                                                                                                          |                                     |
| 10  |     | ○食品と医薬品<br><br>○物質循環と環境問題<br><br>○総合的な問題演習を行う     | 日常生活に不可欠な食品と医薬品を題材に、化学物質と生活との関わりについて理解を深める。<br>◎科学と生活との関わりを理解できたか。                                                                                       | 後期中間まで<br><br>予定 26 83<br><br>実施 0  |
| 11  |     | ○総合的な問題演習を行う                                      |                                                                                                                                                          |                                     |
| 12  |     |                                                   |                                                                                                                                                          |                                     |
| 1   |     |                                                   |                                                                                                                                                          | 年度末<br><br>予定 11 94<br><br>実施 0     |
| 2・3 |     |                                                   |                                                                                                                                                          |                                     |

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |         |     |     |      |   |          |          |
|---------------|---------|-----|-----|------|---|----------|----------|
| 科目            | 自然科学A・B | 単位数 | 2＋2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次 一般文系 |
| 使用教科書<br>副教材等 | 自主教材    |     |     |      |   |          |          |

① 学習の到達目標

「化学基礎」並びに「生物基礎」における学習内容を踏まえ、以下の内容について学習する。  
①主に化学的な事象と生物に関わる様々な現象について学ぶ。  
②化学基礎や生物基礎の既習内容を土台として、食品や医薬品といった身近な物質の性質や化学変化および多様な生物、生態系について学習する。

② 評価の観点、方法

100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。  
定期テストにおいては、主に知識と理解力を評価する。  
平常点の内容は、課題の提出(意欲、判断力、思考力、表現力)、小テスト(意欲、知識)、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)などとする。

③ 担当者から

「化学基礎」並びに「生物基礎」が履修済であることを前提とする。  
前半は、化学分野と生物分野を並行して、土台となる「化学基礎」「生物基礎」の復習を中心に授業を進める。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名 | 教科書項目等                                            | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                  | 授業時数                               |
|-----|-----|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 4   |     | ○化学と人間生活<br><br>○生物の特徴<br>遺伝子とその働き<br><br>前期中間試験Ⅰ | 化学物質や化学反応が生活に深く関わっていることに気付かせる。<br>◎基礎力を重視する。<br><br>細胞の多様性と共通性、酵素と代謝のしくみについて理解を深める。<br>遺伝子の本体であるDNAの構造から遺伝子発現のしくみまでの理解を深める。<br>◎生物用語およびそれらの関係について理解したか。                                                      | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 30<br><br>実施 0   |
| 5   |     | ○物質の構成<br><br>○生物の体内環境<br><br>前期中間試験Ⅱ             | 化学基礎で学習した結合を発展させ、錯体の構造や配位結合までとりあげる。<br>◎食塩や砂糖、鉄といった身近な物質の変化を、結合の概念で捉えることができるか。また、イオン化エネルギー等の知識を使って説明できるか。<br><br>体液や各臓器のはたらき、神経やホルモンによる調節、免疫などによる体内環境の維持のしくみを理解する。<br>◎各種神経系の働きや刺激に対する臓器の反応、免疫の反応について理解できたか。 | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 24<br><br>実施 0   |
| 6   |     | ○化学変化<br><br>○植生の多様性と分布<br>生態系とその保全<br>総合的な問題演習   | 化学基礎で学習した酸と塩基の中和反応について、定量的に扱う。<br>◎定量的な考え方が理解できたか。<br>◎誤差や有効数字をきちんと扱えるか。<br><br>環境に応じた生態系の成り立ちと、生態系内の相互関係について理解を深める。<br>◎植生の変化とそれぞれのバイオームが成り立つ理由を説明できるか。                                                     | 前期中間Ⅲまで<br><br>予定 36<br><br>実施 0   |
| 7・8 |     |                                                   |                                                                                                                                                                                                              |                                    |
| 9   |     |                                                   |                                                                                                                                                                                                              |                                    |
| 10  |     | ○食品と医薬品<br><br>○物質循環と環境問題<br><br>○総合的な問題演習を行う     | 日常生活に不可欠な食品と医薬品を題材に、化学物質と生活との関わりについて理解を深める。<br>◎科学と生活との関わりを理解できたか。                                                                                                                                           | 後期中間まで<br><br>予定 28 28<br><br>実施 0 |
| 11  |     | ○総合的な問題演習を行う                                      |                                                                                                                                                                                                              |                                    |
| 12  |     |                                                   |                                                                                                                                                                                                              |                                    |
| 1   |     |                                                   |                                                                                                                                                                                                              |                                    |
| 2・3 |     |                                                   |                                                                                                                                                                                                              | 年度末<br><br>予定 20<br><br>実施 0       |

2023 年度 保健体育 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

| 科目            | 体育                                   | 単位数 | 2 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年次 |
|---------------|--------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----|
| 使用教科書<br>副教材等 | ステップアップ高校スポーツ(大修館)<br>最新高等 保健体育(大修館) |     |   |      |   |          |     |

## ① 学習の到達目標

運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全についての理解と運動や健康についての課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、思考・判断する力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。

各種の運動の合理的、計画的な実践を通して、運動技能を身に付け、自己の状況に応じて体力の向上を図るとともに、公正、協力、責任、参画、多様性などを大切にしようとするなどの意欲と生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。

## ② 評価の観点、方法

- ・「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の観点で総合的に評価する。
- ・出席状況、授業への取り組み、パフォーマンステスト、学習ノート、小テスト等で総合的に評価する。

## ③ 担当者から

- ・運動の意義や技能の理論などを理解し、合理的、計画的な実践を通して、運動技能を身に付け、自己の状況に応じて体力の向上を図ろうとする取り組みができるようになること。
- ・公正、協力、責任、参画、多様性などを大切にしようとする意欲と生涯にわたって継続して運動に親しむための基礎を身に付けられるように取り組ませたい。

## ※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

## ※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

## ※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画 (どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む)

| 月   | 単元名         | 教科書項目等                             | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 授業時数                                |
|-----|-------------|------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|
| 4   | 体づくり運動      | ・生涯スポーツの味方・考え方<br>・ライフスタイルに応じたスポーツ | ・オリエンテーション<br><br>・体育理論(生涯スポーツの味方・考え方、ライフスタイルに応じたスポーツ)<br>○自主的な学習を通し、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。<br>◎小テスト、授業プリント。積極的に学習に取り組み、プリントなどにまとめ他者に伝えることができているか。<br><br>・集団行動、体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画作成<br>○集団行動のおもな行動様式を身につける。集団の約束や決まりを守って、仲間と協力し主体的に行動する。<br>○体づくり運動の行い方などを理解し、実生活に生かす自己に適した運動の計画を立て実践し、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。<br>◎実生活への取り入れ方には自己のねらいに応じた様々な運動の計画などがあることを理解し、計画を立てることができているか。<br>◎仲間と協力して、いろいろな条件で、走ったり飛び跳ねたりする運動を行うことを通して、お互いの心と体に気付いたり関わり合ったりすることができているか。<br>◎一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし、課題解決に向けて話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしているか。                                       | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 10 10<br><br>実施 0 |
| 5   |             |                                    | ・球技Ⅰはゴール型(サッカー・バスケットボール)、ネット型(バレーボール・ソフトテニス)、ベースボール型(ソフトボール)の5種目から1つ選択する。<br>○勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。<br>○作戦や状況に応じた技能や戦術で、主体的に仲間と連携し、ゲームを展開する。<br>○生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題に取り組み、考えたことを他者に伝える。<br>◎課題解決の方法には、チームや自己の能力に応じた目標の設定、その目標に適した具体的な作戦や戦術の設定、課題解決に適した練習法の選択と実践、ゲームを通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることを理解して取り組んでいるか。<br>◎学習に主体的に取り組み、チームや自己の課題解決に向けた練習方法や作戦について話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしているか。                                                                                                                  | 前期中間Ⅱまで                             |
| 6   | 球技Ⅰ         |                                    | ・ゴール型(サッカー・バスケットボール)<br>○状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。<br>◎守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールキープすることができているか。<br>◎得点をとるためのフォーメーションやセットプレイなどのチームの役割に応じた動きをすることができているか。<br><br>・ネット型(バレーボール・ソフトテニス)<br>○状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによる空間を作り出すなどの攻防を展開する。<br>◎チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができているか。<br>◎相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動する動きができているか。<br>・ベースボール型(ソフトボール)<br>○状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備によって攻防を展開する。<br>◎守備スペースが空いた方向を狙ってボールを打ち返すことができているか。<br>◎投球ではコースや高さをコントロールして投げるができているか。<br>◎打球や送球に応じて仲間の後方に回り込むバックアップの動きをすることができているか。 | 予定 8 18<br><br>実施 0                 |
| 7   |             |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                     |
| 8   |             |                                    | ・陸上競技は短距離走、長距離走、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げの5種目から1つ選択する。<br>○自らが選択した種目の記録向上や競争及び自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える。<br>○体力の高め方や課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付ける。<br>◎課題解決の方法には、自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法の選択と実践、記録会などを通した学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることを理解して取り組んでいるか。<br>◎練習や競技会の場面で、自己や仲間の危険を回避するための活動の仕方を提案することができているか。<br>◎学習に主体的に取り組み、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしているか。                                                                                                                                                                 | 前期期末まで                              |
| 9   | 陸上競技        |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 予定 12 30<br><br>実施 0                |
| 10  | 体育理論<br>球技Ⅱ | ・日本のスポーツ振興<br>・スポーツと環境             | ・体育理論(日本のスポーツ振興、スポーツと環境)<br>○自主的な学習を通し、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。<br>◎小テスト、授業プリント。積極的に学習に取り組み、プリントなどにまとめ他者に伝えることができているか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 後期中間まで                              |
| 11  |             |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 予定 14 44<br><br>実施 0                |
| 12  | 球技Ⅱ         |                                    | ・選択 球技Ⅱ(種目選択)<br>○球技Ⅱはゴール型(サッカー・バスケットボール)、ネット型(バドミントン・バレーボール・ソフトテニス・卓球)、ベースボール型(ソフトボール)の5種目から選択Ⅰで選択した類型以外の種目を1つ選択する。(学習内容は球技Ⅰと同じ)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                     |
| 1   |             |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 年度末                                 |
| 2・3 |             |                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 予定 10 54<br><br>実施 0                |

No.

2023 年度 英語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                           |     |   |      |   |          |           |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 科目            | コミュニケーション英語Ⅲ                                                              | 単位数 | 4 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次 一般コース |
| 使用教科書<br>副教材等 | Perspective English Communication Ⅲ (第一学習社)<br>Cutting Edge Green (エミル出版) |     |   |      |   |          |           |

① 学習の到達目標

- (1) 英文の構造を見抜く力と要約する力を身につける  
(2) 語彙サイズ4000語を超える語彙力を身につける  
(3) 読む、聴く、書く、話す、考えるスピードを上げる(WPM130台)努力をする  
(4) 難関大学の英語に対応できる筆記力を身につける  
(5) 外部試験を積極的に活用し英語力の向上につなげる

② 評価の観点、方法

前期中間試験Ⅰ、前期中間試験Ⅱ、前期期末試験、後期中間試験、後期期末試験において、筆記、Listening、Performanceの試験を行い、総合的に評価する。さらに普段の授業の中で行う小テスト等、各種週末課題、長期課題の取り組み等を評価に加える。

③ 担当者から

○英語は語彙力が土台です。土台がしっかりとしていないと、上にどんなものを積み上げてもいずれは崩れます。教科書や課題に出てきた英単語は全て調べあげ覚える、日常的にユメタンを用いて繰り返し覚える、覚えたい英単語を使って英作文をするなどして、豊富な語彙力を身につけましょう。  
○共通テストでも個別試験でも速読力が必要になってきます。できるだけ速く文章の大意を掴むことができるよう、日頃から速読力を意識しながら学習しよう。  
○英語の学習には、とにかく音読が重要です。手本となるCD等の完璧な真似ができるくらいまで徹底的に音読を繰り返し、英語力を上げていきましょう。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                            | 教科書項目等                                                       | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                  | 授業時数                             |
|-----|--------------------------------|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 4   | Communication III<br>Lesson 1  | Let's Go to the Movies!                                      | ・豊富な異文化体験を持つ筆者は、映画館がその国の文化の一端を見せてくれる場所なので、外国を訪れる際に必ず映画を見に行くことにしているという。本課では、それぞれの国の文化的特徴が色濃く反映された具体的事例を考察し、異文化理解の一助とする。<br>◎世界にある映画館の中で特徴的なものを調べて、その概要を発表することができる。<br>◎複合関係詞の構造を理解し、正しく活用することができる。                                            | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 20 20          |
|     | Lesson 2                       | Louis Pasteur<br>—Medical Wonder Worker                      | ・バスツールが初めて狂犬病ワクチンを実用化するにあたっての経緯と心の葛藤を読み取り、医療と病気予防についての理解を深める。<br>◎健康維持のための習慣について自分の意見を述べることができる。<br>◎否定語＋倒置の構造を理解し、正しく活用することができる。                                                                                                            |                                  |
| 5   | Lesson 2                       | Louis Pasteur<br>—Medical Wonder Worker<br>総合問題演習<br>＜中間試験Ⅰ＞ | ・バスツールが初めて狂犬病ワクチンを実用化するにあたっての経緯と心の葛藤を読み取り、医療と病気予防についての理解を深める。<br>◎健康維持のための習慣について自分の意見を述べることができる。<br>◎否定語＋倒置の構造を理解し、正しく活用することができる。                                                                                                            | 実施 0                             |
|     | Lesson 4                       | Hidden in the Dark                                           | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。<br><br>・ラスコーとショーヴェ洞窟壁画が発見された経緯と、その後訪問者によってどのような影響を受けどう対処したのかを理解する。また、壁画の研究結果から、古代の芸術家がどのように考え、感じていたのかを推測する。<br>◎ラスコーとショーヴェ洞窟壁画が発見された経緯を時系列にまとめ、発表することができる。<br>◎be-不定詞の否定形やwhatを含む重要表現を理解し、上手に活用することができる。 |                                  |
| 6   | Cutting Edge Green<br>Lesson 1 | 食事とCO <sub>2</sub>                                           | ・肉の消費が環境に与える影響を考察する。また、菜食が健康の改善と環境保護の両面で有益であることを学ぶ。                                                                                                                                                                                          | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 16 36          |
|     | Lesson 2                       | ＜中間試験Ⅱ＞<br><br>必要水分量                                         | ・毎日コップ8杯の水を飲む必要があると信じている人が多い。その数字は何に基づくものなのか、適量なのかについて考察する。                                                                                                                                                                                  |                                  |
| 7・8 | Lesson 3                       | 英語の変遷                                                        | ・英語は数世紀の間に発音やつづり、語彙などすべてが変化してきた。現在世界中で話されている英語は各地域で変化し続けていて、インターネットでは表現などが新しい英語も出現していることを学ぶ。                                                                                                                                                 | 前期期末まで<br><br>予定 24 60           |
|     | Lesson 4                       | トランスヒューマン                                                    | ・将来「頭脳クローン」技術が発展すれば、人間はデジタル的に不死身になると考える人々がいる。「トランスヒューマン」は様々な問題を解決するだろうが、同時に弊害もありうることを考える。                                                                                                                                                    |                                  |
| 9   | Lesson 5                       | 絶滅危惧種の選定                                                     | ・縞模様が特徴のクアッガは乱獲により絶滅した。彼らの再生計画にサバンナシマウマが使われているが、遺伝的に両者は異なる。クアッガへの高い関心は、環境保護においても人間が美醜の偏見を持つことを示唆することを考える。                                                                                                                                    | 実施 0                             |
|     | Lesson 6                       | 嘘も方便<br>＜前期・期末試験＞                                            | ・ある家を訪れていた父娘のいる部屋で魔法びんが勝手に落ちた。父は主人に、自分のせいだと嘘をついた。不審に思う娘に、父は、もめごとを避けるためには、真実を主張するより、嘘をつく方がよいこともあると言った。物語文を鑑賞する。                                                                                                                               |                                  |
| 10  |                                | 総合問題演習                                                       | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。                                                                                                                                                                                                          | 後期中間まで                           |
| 11  |                                | 総合問題演習<br>＜中間試験＞                                             | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。                                                                                                                                                                                                          | 予定 28 88<br><br>実施 0             |
| 12  |                                | 総合問題演習                                                       | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。                                                                                                                                                                                                          | 年度末<br><br>予定 20 108<br><br>実施 0 |
| 1   |                                | 総合問題演習                                                       | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。                                                                                                                                                                                                          |                                  |
| 2・3 |                                | 総合問題演習<br>＜後期・期末試験＞                                          | ・進路別にクラスを分け、問題の解法を学びながら、個別試験に対応できる英語力を養成する。                                                                                                                                                                                                  |                                  |

No.

2023 年度 英語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                           |     |   |      |   |          |           |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|-----------|
| 科目            | コミュニケーション英語Ⅲ                                                              | 単位数 | 4 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次 探究コース |
| 使用教科書<br>副教材等 | Perspective English Communication Ⅲ (第一学習社)<br>Cutting Edge Green (エミル出版) |     |   |      |   |          |           |

① 学習の到達目標

- (1) 英文の構造を見抜く力と要約する力を身につける  
(2) 語彙サイズ4000語を超える語彙力を身につける  
(3) 読む、聴く、書く、話す、考えるスピードを上げる(WPM130台)努力をする  
(4) 難関大学の英語に対応できる筆記力を身につける  
(5) 外部試験を積極的に活用し英語力の向上につなげる

② 評価の観点、方法

前期中間試験Ⅰ、前期中間試験Ⅱ、前期期末試験、後期中間試験、後期期末試験において、筆記、Listening、Performanceの試験を行い、総合的に評価する。さらに普段の授業の中で行う小テスト等と各種週末、長期課題の取り組み等を評価に加える。

③ 担当者から

○英語は語彙力が土台です。土台がしっかりとしていないと、上にどんなものを積み上げてもいずれは崩れます。教科書や課題に出てきた英単語は全て調べ覚え、日常的にユメタンを用いて繰り返し覚える、覚えたい英単語を使って英作文をするなどして、豊富な語彙力を身につけましょう。  
○共通テストでも個別試験でも速読力が必要になってきます。できるだけ速く文章の大意を掴むことができるよう、日頃から速読力を意識しながら学習しよう。  
○英語の学習には、とにかく音読が重要です。手本となるCD等の完璧な真似ができるくらいまで徹底的に音読を繰り返し、英語力を上げていきましょう。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                            | 教科書項目等                                                       | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                                                                                                                                  | 授業時数                             |
|-----|--------------------------------|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 4   | Communication III<br>Lesson 1  | Let's Go to the Movies!                                      | ・豊富な異文化体験を持つ筆者は、映画館がその国の文化の一端を見せてくれる場所なので、外国を訪れる際に必ず映画を見に行くことにしているという。本課では、それぞれの国の文化的特徴が色濃く反映された具体的事例を考察し、異文化理解の一助とする。<br>◎世界にある映画館の中で特徴的なものを調べて、その概要を発表することができる。<br>◎複合関係詞の構造を理解し、正しく活用することができる。                                            | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 20 20          |
|     | Lesson 2                       | Louis Pasteur<br>—Medical Wonder Worker                      | ・バスツールが初めて狂犬病ワクチンを実用化するにあたっての経緯と心の葛藤を読み取り、医療と病気予防についての理解を深める。<br>◎健康維持のための習慣について自分の意見を述べることができる。<br>◎否定語＋倒置の構造を理解し、正しく活用することができる。                                                                                                            |                                  |
| 5   | Lesson 2                       | Louis Pasteur<br>—Medical Wonder Worker<br>総合問題演習<br>＜中間試験Ⅰ＞ | ・バスツールが初めて狂犬病ワクチンを実用化するにあたっての経緯と心の葛藤を読み取り、医療と病気予防についての理解を深める。<br>◎健康維持のための習慣について自分の意見を述べることができる。<br>◎否定語＋倒置の構造を理解し、正しく活用することができる。                                                                                                            | 実施 0                             |
|     | Lesson 4                       | Hidden in the Dark                                           | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。<br><br>・ラスコーとショーヴェ洞窟壁画が発見された経緯と、その後訪問者によってどのような影響を受けどう対処したのかを理解する。また、壁画の研究結果から、古代の芸術家がどのように考え、感じていたのかを推測する。<br>◎ラスコーとショーヴェ洞窟壁画が発見された経緯を時系列にまとめ、発表することができる。<br>◎be-不定詞の否定形やwhatを含む重要表現を理解し、上手に活用することができる。 |                                  |
| 6   | Cutting Edge Green<br>Lesson 1 | 食事とCO <sub>2</sub>                                           | ・肉の消費が環境に与える影響を考察する。また、菜食が健康の改善と環境保護の両面で有益であることを学ぶ。                                                                                                                                                                                          | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 16 36          |
|     | Lesson 2                       | ＜中間試験Ⅱ＞<br><br>必要水分量                                         | ・毎日コップ8杯の水を飲む必要があると信じている人が多い。その数字は何に基づくものなのか、適量なのかについて考察する。                                                                                                                                                                                  |                                  |
| 7・8 | Lesson 3                       | 英語の変遷                                                        | ・英語は数世紀の間に発音やつづり、語彙などすべてが変化してきた。現在世界中で話されている英語は各地域で変化し続けていて、インターネットでは表現などが新しい英語も出現していることを学ぶ。                                                                                                                                                 | 前期期末まで<br><br>予定 24 60           |
|     | Lesson 4                       | トランスヒューマン                                                    | ・将来「頭脳クローン」技術が発展すれば、人間はデジタル的に不死身になると考える人々がいる。「トランスヒューマン」は様々な問題を解決するだろうが、同時に弊害もありうることを考える。                                                                                                                                                    |                                  |
| 9   | Lesson 5                       | 絶滅危惧種の選定                                                     | ・縞模様が特徴のクアッガは乱獲により絶滅した。彼らの再生計画にサバンナシマウマが使われているが、遺伝子的に両者は異なる。クアッガへの高い関心は、環境保護においても人間が美醜の偏見を持つことを示唆することを考える。                                                                                                                                   | 実施 0                             |
|     | Lesson 6                       | 嘘も方便<br>＜前期・期末試験＞                                            | ・ある家を訪れていた父娘のいる部屋で魔法びんが勝手に落ちた。父は主人に、自分のせいだと嘘をついた。不審に思う娘に、父は、もめごとを避けるためには、真実を主張するより、嘘をつく方がよいこともあると言った。物語文を鑑賞する。                                                                                                                               |                                  |
| 10  |                                | 総合問題演習                                                       | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。                                                                                                                                                                                                          | 後期中間まで                           |
| 11  |                                | 総合問題演習<br>＜中間試験＞                                             | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。                                                                                                                                                                                                          | 予定 28 88<br><br>実施 0             |
| 12  |                                | 総合問題演習                                                       | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。                                                                                                                                                                                                          | 年度末<br><br>予定 20 108<br><br>実施 0 |
| 1   |                                | 総合問題演習                                                       | ・共通テストの演習や大学入試の過去問に取り組み、総合的な力を養成する。                                                                                                                                                                                                          |                                  |
| 2・3 |                                | 総合問題演習<br>＜後期・期末試験＞                                          | ・進路別にクラスを分け、問題の解法を学びながら、個別試験に対応できる英語力を養成する。                                                                                                                                                                                                  |                                  |

No.

2023 年度 英語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                                                  |     |   |      |   |          |                |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|----------------|
| 科目            | 英語表現Ⅱ                                                                                                            | 単位数 | 3 | 週時間数 | 3 | 年次・コース・組 | 3年次・一般コース文系クラス |
| 使用教科書<br>副教材等 | ・Vision Quest English ExpressionⅡ Ace(啓林館)<br>・Vision Quest 総合英語 2nd Edition(啓林館)<br>・入試必携英作文<br>・Scramble英文法・語法 |     |   |      |   |          |                |

① 学習の到達目標

|                                                          |
|----------------------------------------------------------|
| 1. 様々な場面や目的に応じて使われる英語を正しく聞き取り、理解することができる。                |
| 2. 身近な事柄について即興で話す力を向上させ、伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。         |
| 3. 学んだ文法・語法に関する知識を踏まえ、与えられた条件に応じて日本語を正しい英語で書くことができる。     |
| 4. 与えられた条件に応じて自分自身で内容や構成を決め、様々な種類の文章を書くことができる。           |
| 5. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。 |

② 評価の観点、方法

|                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------|
| 1. 前期中間試験Ⅰ：前期中間試験Ⅰの素点及び小テスト等を勘案して評点を算出する。                              |
| 2. 前期中間試験Ⅱ：前期中間試験Ⅱの素点及び小テスト等を勘案して評点を算出する。                              |
| 3. 前期期末成績：前期中間試験Ⅰ・Ⅱ、前期期末試験の素点、課題の取り組み、小テスト等の結果を総合的に勘案して評点を算出する。        |
| 4. 後期中間試験：後期中間試験の素点および小テスト等を勘案して評点を算出する。                               |
| 5. 後期期末成績：前期期末成績、後期中間試験の評点、後期期末試験の評点、課題の取り組み、小テスト等の結果を総合的に勘案して評点を算出する。 |

③ 担当者から

|                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 英語は語彙力が土台です。土台がしっかりといてないと、上にどんなものを積み上げてもいずれは崩れます。教科書や課題に出てきた英単語は全て調べ覚える、覚えたい英単語を使って英作文をするなどして、豊富な語彙力を身につけること。 |
| 2. 教科書「Vision Quest English ExpressionⅡ Ace」や副教材「Scramble英文法・語法」で学んだ英文法・語法を含む英文を意識的に使って、日本語を英文にする練習(和文英訳)をすること。  |
| 3. 文法・語法に関わる一つの知識を単体ではなく、いくつかの知識を組み合わせた文構造を正しく理解できるようにすること。                                                      |
| 4. 自分の意見や考え、理由・根拠、具体例などを含めた、内容的にまとまりのある英文を書く練習をすること。                                                             |

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                 | 教科書項目等                                      | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                     | 授業時数                            |
|-----|---------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 4   | Part 1<br>Lesson 14 | ローマの魅力(後置修飾)                                | ・ローマを訪れる夢を述べたインターネット投稿について質疑応答や意見交換を行う。<br>◎前置詞句や不定詞・分詞など名詞を修飾する形容詞的用法を理解することができる。              | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 16 16<br>実施 0 |
|     | Lesson 15           | 思い出の写真(関係代名詞、関係副詞)                          | ・自分の思い出の写真について英語で説明する。<br>◎関係詞が名詞を修飾する用法を理解することができる。                                            |                                 |
|     | Lesson 16           | 科学技術の利用(副詞、副詞句、不定詞や分詞を使った副詞句)<br>〈前期・中間試験Ⅰ〉 | ・科学技術の功罪について自分の意見を英語で述べる。<br>◎副詞等で語句や文全体を適切に修飾し、正しい英文を書くことができる。<br>◎中間試験Ⅰの結果、課題の提出状況            |                                 |
| 5   | Lesson 17           | 携帯電話は便利だけど...(副詞節)                          | ・携帯電話の是非を論じる記事を読み、長所・短所をまとめる。<br>◎接続詞が導く節の副詞的用法を理解することができる。                                     | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 13 29<br>実施 0 |
|     | Lesson 18           | 犬派？猫派？(原級、比較級)                              | ・犬と猫の性質を踏まえ、好きな方を理由とともに英文にまとめる。<br>◎原級、比較級を使った比較表現を用いることができる。                                   |                                 |
|     | Lesson 19           | 思い出深いプレゼント(最上級、最上級の意味を表す表現)                 | ・今までにももらった最も思い出深いプレゼントを紹介する。<br>◎最上級やそれを表す比較構文を使うことができる。                                        |                                 |
| 6   | Lesson 20           | インターネットの問題点(no + 名詞、no-で始まる代名詞、部分否定)        | ・インターネットの問題点を取り上げ、英文にまとめる。<br>◎様々な否定形や部分否定を理解し、活用することができる。<br>◎中間試験Ⅱの結果、課題の提出状況                 | 前期期末まで<br><br>予定 19 48<br>実施 0  |
|     | Part 2<br>Lesson 1  | 文と文をつなぐ                                     | ・代用表現、関連する内容の語句、省略、つなぎ言葉を使う。<br>◎文と文を意味的につながりをわかりやすく示し、一貫性のある文章を書くことができる。                       |                                 |
|     | Lesson 2            | パラグラフ①                                      | ・パラグラフの概念と基本的構成を学ぶ。<br>◎パラグラフの基本構造(主題文、支持文、結論文)を理解しまとまりのある文章を作ることができる。                          |                                 |
| 7・8 | Lesson 3            | パラグラフ②                                      | ・パラグラフの構成の一つとして例示・追加を学ぶ。<br>◎例を挙げたり、具体的な情報を付け加えたりして説明することができる。                                  | 後期中間まで<br><br>予定 22 70<br>実施 0  |
|     | Lesson 4            | パラグラフ③                                      | ・パラグラフの構成の一つとして比較・対照を学ぶ。<br>◎2つ以上のものや事柄を比較して、相違点や類似点を述べるすることができる。                               |                                 |
|     | Lesson 5            | パラグラフ④                                      | ・パラグラフの構成の一つとして原因・理由・結果を学ぶ。<br>◎ある物事の理由を説明したり、因果関係について述べたりすることができる。                             |                                 |
| 9   | Lesson 6            | リーディングの要約<br>〈前期・期末試験〉                      | ・ある程度の長さの文章を要約する。<br>◎パラグラフ構成を把握して、文章の最も重要なポイントを簡潔にまとめることができる。<br>◎前期期末試験の結果、課題の提出状況            | 後期期末まで<br><br>予定 15 85<br>実施 85 |
|     | Lesson 1            | 主語の決定(1)                                    | ・「～が多い(少ない、増えている)」を主語で表す。<br>◎適切な主語を用いて、「～が多い(少ない、増えている)」を表すことができる。                             |                                 |
|     | Lesson 2            | 主語の決定(2)                                    | ・主語の選定を慎重にする。<br>◎「筆者の個人的な体験」が「一般論」かを判別し、主語を選定することができる。                                         |                                 |
| 10  | Lesson 3            | 目的の表現                                       | ・目的を表す表現を理解する。<br>◎so that S+V～、in order to do などを使って目的を表すことができる。                               | 年度末<br><br>予定 15 85<br>実施 85    |
|     | Lesson 4            | 理由の表現                                       | ・様々な理由を表す表現を理解する。<br>◎because、since、due to Aなどを使って理由を表すことができる。                                  |                                 |
|     | Lesson 5            | 時制(1)                                       | ・現在完了形と過去形の違いを理解する。<br>◎現在完了形と過去形の違いに気づき、適切な時制を使って表現することができる。                                   |                                 |
| 11  | Lesson 6            | 時制(2)                                       | ・「現在形」と「現在進行形」のどちらを使うかを判断する。<br>◎習慣的行為か進行中の動作なのかを考えて、適切な時制を使って表現することができる。<br>◎後期中間試験の結果、課題の提出状況 | 年度末<br><br>予定 15 85<br>実施 85    |
|     | Lesson 7            | 動詞の語法                                       | ・SVOCの動詞の語法を身につける。<br>◎make、have、let を使って表現することができる。                                            |                                 |
|     | Lesson 8            | 関係詞                                         | ・関係代名詞と関係副詞を使い分ける。<br>◎関係代名詞と関係副詞を使い分けて表現することができる。                                              |                                 |
| 12  | Lesson 9            | 時間の表現                                       | ・様々な時間を表す表現を理解する。<br>◎「～ぶりで」、「～たてば」、「～までに」等の表現を覚え活用することができる。                                    | 年度末<br><br>予定 15 85<br>実施 85    |
|     | Lesson 10           | 数字の表現                                       | ・数字の表現を理解する。<br>◎様々な数字の表現を理解し、活用することができる。<br>◎後期期末試験の結果、課題の提出状況                                 |                                 |
|     | Lesson 11           | 〈後期・期末試験〉                                   |                                                                                                 |                                 |

No.

2023 年度 英語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

| 科目            | 英語表現Ⅱ                                                                                                            | 単位数 | 3 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年次・一般コース理系クラス |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|----------------|
| 使用教科書<br>副教材等 | ・Vision Quest English ExpressionⅡ Ace(啓林館)<br>・Vision Quest 総合英語 2nd Edition(啓林館)<br>・入試必携英作文<br>・Scramble英文法・語法 |     |   |      |   |          |                |

① 学習の到達目標

|                                                          |
|----------------------------------------------------------|
| 1. 様々な場面や目的に応じて使われる英語を正しく聞き取り、理解することができる。                |
| 2. 身近な事柄について即興で話す力を向上させ、伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。         |
| 3. 学んだ文法・語法に関する知識を踏まえ、与えられた条件に応じて日本語を正しい英語で書くことができる。     |
| 4. 与えられた条件に応じて自分自身で内容や構成を決め、様々な種類の文章を書くことができる。           |
| 5. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。 |

② 評価の観点、方法

|                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------|
| 1. 前期中間試験Ⅰ：前期中間試験Ⅰの素点及び小テスト等を勘案して評点を算出する。                              |
| 2. 前期中間試験Ⅱ：前期中間試験Ⅱの素点及び小テスト等を勘案して評点を算出する。                              |
| 3. 前期期末成績：前期中間試験Ⅰ・Ⅱ、前期期末試験の素点、課題の取り組み、小テスト等の結果を総合的に勘案して評点を算出する。        |
| 4. 後期中間試験：後期中間試験の素点および小テスト等を勘案して評点を算出する。                               |
| 5. 後期期末成績：前期期末成績、後期中間試験の評点、後期期末試験の評点、課題の取り組み、小テスト等の結果を総合的に勘案して評点を算出する。 |

③ 担当者から

|                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 英語は語彙力が土台です。土台がしっかりといてないと、上にどんなものを積み上げてもいずれは崩れます。教科書や課題に出てきた英単語は全て調べ覚える、覚えたい英単語を使って英作文をするなどして、豊富な語彙力を身につけること。 |
| 2. 教科書「Vision Quest English ExpressionⅡ Ace」や副教材「Scramble英文法・語法」で学んだ英文法・語法を含む英文を意識的に使って、日本語を英文にする練習(和文英訳)をすること。  |
| 3. 文法・語法に関わる一つの知識を単体ではなく、いくつかの知識を組み合わせた文構造を正しく理解できるようにすること。                                                      |
| 4. 自分の意見や考え、理由・根拠、具体例などを含めた、内容的にまとまりのある英文を書く練習をすること。                                                             |

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                 | 教科書項目等                                      | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                     | 授業時数                            |
|-----|---------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 4   | Part 1<br>Lesson 14 | ローマの魅力(後置修飾)                                | ・ローマを訪れる夢を述べたインターネット投稿について質疑応答や意見交換を行う。<br>◎前置詞句や不定詞・分詞など名詞を修飾する形容詞的用法を理解することができる。              | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 11 11<br>実施 0 |
|     | Lesson 15           | 思い出の写真(関係代名詞、関係副詞)                          | ・自分の思い出の写真について英語で説明する。<br>◎関係詞が名詞を修飾する用法を理解することができる。                                            |                                 |
|     | Lesson 16           | 科学技術の利用(副詞、副詞句、不定詞や分詞を使った副詞句)<br>〈前期・中間試験Ⅰ〉 | ・科学技術の功罪について自分の意見を英語で述べる。<br>◎副詞等で語句や文全体を適切に修飾し、正しい英文を書くことができる。<br>◎中間試験Ⅰの結果、課題の提出状況            |                                 |
| 5   | Lesson 17           | 携帯電話は便利だけど...(副詞節)                          | ・携帯電話の是非を論じる記事を読み、長所・短所をまとめる。<br>◎接続詞が導く節の副詞的用法を理解することができる。                                     | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 9 20<br>実施 0  |
| 6   | Lesson 18           | 犬派？猫派？(原級、比較級)                              | ・犬と猫の性質を踏まえ、好きな方を理由とともに英文にまとめる。<br>◎原級、比較級を使った比較表現を用いることができる。                                   |                                 |
|     | Lesson 19           | 思い出深いプレゼント(最上級、最上級の意味を表す表現)<br>〈前期・中間試験Ⅱ〉   | ・今までにももらった最も思い出深いプレゼントを紹介する。<br>◎最上級やそれを表す比較構文を使うことができる。<br>◎中間試験Ⅱの結果、課題の提出状況                   |                                 |
| 7・8 | Lesson 20           | インターネットの問題点(no + 名詞、no-で始まる代名詞、部分否定)        | ・インターネットの問題点を取り上げ、英文にまとめる。<br>◎様々な否定形や部分否定を理解し、活用することができる。                                      | 前期期末まで<br><br>予定 13 33<br>実施 0  |
|     | Part 2<br>Lesson 1  | 文と文をつなぐ                                     | ・代用表現、関連する内容の語句、省略、つなぎ言葉を使う。<br>◎文と文を意味的につながりをわかりやすく示し、一貫性のある文章を書くことができる。                       |                                 |
|     | Lesson 2            | パラグラフ①                                      | ・パラグラフの概念と基本的構成を学ぶ。<br>◎パラグラフの基本構造(主題文、支持文、結論文)を理解しまとまりのある文章を作ることができる。                          |                                 |
| 9   | Lesson 3            | パラグラフ②                                      | ・パラグラフの構成の一つとして例示・追加を学ぶ。<br>◎例を挙げたり、具体的な情報を付け加えたりして説明することができる。                                  | 後期中間まで<br><br>予定 15 48<br>実施 0  |
|     | Lesson 4            | パラグラフ③<br>〈前期・期末試験〉                         | ・パラグラフの構成の一つとして比較・対照を学ぶ。<br>◎2つ以上のものや事柄を比較して、相違点や類似点を述べる。<br>◎前期期末試験の結果、課題の提出状況                 |                                 |
| 10  | Lesson 5            | パラグラフ④                                      | ・パラグラフの構成の一つとして原因・理由・結果を学ぶ。<br>◎ある物事の理由を説明したり、因果関係について述べたりすることができる。                             | 後期中間まで<br><br>予定 15 48<br>実施 0  |
|     | Lesson 6            | リーディングの要約                                   | ・ある程度の長さの文章を要約する。<br>◎パラグラフ構成を把握して、文章の最も重要なポイントを簡潔にまとめることができる。                                  |                                 |
|     | 英作文<br>Lesson 1     | 主語の決定(1)                                    | ・「～が多い(少ない、増えている)」を主語で表す。<br>◎適切な主語を用いて、「～が多い(少ない、増えている)」を表すことができる。                             |                                 |
| 11  | Lesson 2            | 主語の決定(2)                                    | ・主語の選定を慎重にする。<br>◎「筆者の個人的な体験」が「一般論」かを判別し、主語を選定することができる。                                         | 年度末<br>予定 10 58<br>実施 58        |
|     | Lesson 3            | 目的の表現<br>〈後期・中間試験〉                          | ・目的を表す表現を理解する。<br>◎so that S+V～、in order to do などを使って目的を表すことができる。<br>◎後期中間試験の結果、課題の提出状況         |                                 |
| 12  | Lesson 4            | 理由の表現                                       | ・様々な理由を表す表現を理解する。<br>◎because、since、due to Aなどを使って理由を表すことができる。                                  | 年度末<br>予定 10 58<br>実施 58        |
|     | Lesson 5            | 時制(1)                                       | ・現在完了形と過去形の違いを理解する。<br>◎現在完了形と過去形の違いに気づき、適切な時制を使って表現することができる。                                   |                                 |
|     | Lesson 6            | 時制(2)<br>〈後期・期末試験〉                          | ・「現在形」と「現在進行形」のどちらを使うかを判断する。<br>◎習慣的行為か進行中の動作なのかを考えて、適切な時制を使って表現することができる。<br>◎後期期末試験の結果、課題の提出状況 |                                 |

No.

2023 年度 英語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                                                  |     |   |      |   |          |                |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|----------------|
| 科目            | 英語表現Ⅱ                                                                                                            | 単位数 | 3 | 週時間数 | 3 | 年次・コース・組 | 3年次・探究コース文系クラス |
| 使用教科書<br>副教材等 | ・Vision Quest English ExpressionⅡ Ace(啓林館)<br>・Vision Quest 総合英語 2nd Edition(啓林館)<br>・入試必携英作文<br>・Scramble英文法・語法 |     |   |      |   |          |                |

① 学習の到達目標

|                                                          |
|----------------------------------------------------------|
| 1. 様々な場面や目的に応じて使われる英語を正しく聞き取り、理解することができる。                |
| 2. 身近な事柄について即興で話す力を向上させ、伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。         |
| 3. 学んだ文法・語法に関する知識を踏まえ、与えられた条件に応じて日本語を正しい英語で書くことができる。     |
| 4. 与えられた条件に応じて自分自身で内容や構成を決め、様々な種類の文章を書くことができる。           |
| 5. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。 |

② 評価の観点、方法

|                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------|
| 1. 前期中間試験Ⅰ：前期中間試験Ⅰの素点及び小テスト等を勘案して評点を算出する。                              |
| 2. 前期中間試験Ⅱ：前期中間試験Ⅱの素点及び小テスト等を勘案して評点を算出する。                              |
| 3. 前期期末成績：前期中間試験Ⅰ・Ⅱ、前期期末試験の素点、課題の取り組み、小テスト等の結果を総合的に勘案して評点を算出する。        |
| 4. 後期中間試験：後期中間試験の素点および小テスト等を勘案して評点を算出する。                               |
| 5. 後期期末成績：前期期末成績、後期中間試験の評点、後期期末試験の評点、課題の取り組み、小テスト等の結果を総合的に勘案して評点を算出する。 |

③ 担当者から

|                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 英語は語彙力が土台です。土台がしっかりといてないと、上にどんなものを積み上げてもいずれは崩れます。教科書や課題に出てきた英単語は全て調べ覚える、覚えたい英単語を使って英作文をするなどして、豊富な語彙力を身につけること。 |
| 2. 教科書「Vision Quest English ExpressionⅡ Ace」や副教材「Scramble英文法・語法」で学んだ英文法・語法を含む英文を意識的に使って、日本語を英文にする練習(和文英訳)をすること。  |
| 3. 文法・語法に関わる一つの知識を単体ではなく、いくつかの知識を組み合わせた文構造を正しく理解できるようにすること。                                                      |
| 4. 自分の意見や考え、理由・根拠、具体例などを含めた、内容的にまとまりのある英文を書く練習をすること。                                                             |

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                 | 教科書項目等                                      | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                     | 授業時数                             |
|-----|---------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 4   | Part 1<br>Lesson 14 | ローマの魅力(後置修飾)                                | ・ローマを訪れる夢を述べたインターネット投稿について質疑応答や意見交換を行う。<br>◎前置詞句や不定詞・分詞など名詞を修飾する形容詞的用法を理解することができる。              | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 16 16<br>実施 0  |
|     | Lesson 15           | 思い出の写真(関係代名詞、関係副詞)                          | ・自分の思い出の写真について英語で説明する。<br>◎関係詞が名詞を修飾する用法を理解することができる。                                            |                                  |
|     | Lesson 16           | 科学技術の利用(副詞、副詞句、不定詞や分詞を使った副詞句)<br>〈前期・中間試験Ⅰ〉 | ・科学技術の功罪について自分の意見を英語で述べる。<br>◎副詞等で語句や文全体を適切に修飾し、正しい英文を書くことができる。<br>◎中間試験Ⅰの結果、課題の提出状況            |                                  |
| 5   | Lesson 17           | 携帯電話は便利だけど...(副詞節)                          | ・携帯電話の是非を論じる記事を読み、長所・短所をまとめる。<br>◎接続詞が導く節の副詞的用法を理解することができる。                                     | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 13 29<br>実施 12 |
|     | Lesson 18           | 犬派？猫派？(原級、比較級)                              | ・犬と猫の性質を踏まえ、好きな方を理由とともに英文にまとめる。<br>◎原級、比較級を使った比較表現を用いることができる。                                   |                                  |
|     | Lesson 19           | 思い出深いプレゼント(最上級、最上級の意味を表す表現)                 | ・今までにももらった最も思い出深いプレゼントを紹介する。<br>◎最上級やそれを表す比較構文を使うことができる。                                        |                                  |
| 6   | Lesson 20           | インターネットの問題点(no + 名詞、no-で始まる代名詞、部分否定)        | ・インターネットの問題点を取り上げ、英文にまとめる。<br>◎様々な否定形や部分否定を理解し、活用することができる。<br>◎中間試験Ⅱの結果、課題の提出状況                 |                                  |
| 7・8 | Part 2<br>Lesson 1  | 文と文をつなぐ                                     | ・代用表現、関連する内容の語句、省略、つなぎ言葉を使う。<br>◎文と文を意味的につながりをわかりやすく示し、一貫性のある文章を書くことができる。                       | 前期期末まで<br><br>予定 19 48<br>実施 15  |
|     | Lesson 2            | パラグラフ①                                      | ・パラグラフの概念と基本的構成を学ぶ。<br>◎パラグラフの基本構造(主題文、支持文、結論文)を理解しまとまりのある文章を作ることができる。                          |                                  |
|     | Lesson 3            | パラグラフ②                                      | ・パラグラフの構成の一つとして例示・追加を学ぶ。<br>◎例を挙げたり、具体的な情報を付け加えたりして説明することができる。                                  |                                  |
| 9   | Lesson 4            | パラグラフ③                                      | ・パラグラフの構成の一つとして比較・対照を学ぶ。<br>◎2つ以上のものや事柄を比較して、相違点や類似点を述べるすることができる。                               | 後期中間まで<br><br>予定 22 70<br>実施 15  |
|     | Lesson 5            | パラグラフ④                                      | ・パラグラフの構成の一つとして原因・理由・結果を学ぶ。<br>◎ある物事の理由を説明したり、因果関係について述べたりすることができる。                             |                                  |
|     | Lesson 6            | リーディングの要約<br>〈前期・期末試験〉                      | ・ある程度の長さの文章を要約する。<br>◎パラグラフ構成を把握して、文章の最も重要なポイントを簡潔にまとめることができる。<br>◎前期期末試験の結果、課題の提出状況            |                                  |
| 10  | Lesson 1            | 主語の決定(1)                                    | ・「～が多い(少ない、増えている)」を主語で表す。<br>◎適切な主語を用いて、「～が多い(少ない、増えている)」を表すことができる。                             | 後期中間まで<br><br>予定 22 70<br>実施 15  |
|     | Lesson 2            | 主語の決定(2)                                    | ・主語の選定を慎重にする。<br>◎「筆者の個人的な体験」が「一般論」かを判別し、主語を選定することができる。                                         |                                  |
|     | Lesson 3            | 目的の表現                                       | ・目的を表す表現を理解する。<br>◎so that S+V～、in order to do などを使って目的を表すことができる。                               |                                  |
| 11  | Lesson 4            | 理由の表現                                       | ・様々な理由を表す表現を理解する。<br>◎because、since、due to Aなどを使って理由を表すことができる。                                  | 後期中間まで<br><br>予定 22 70<br>実施 15  |
|     | Lesson 5            | 時制(1)                                       | ・現在完了形と過去形の違いを理解する。<br>◎現在完了形と過去形の違いに気づき、適切な時制を使って表現することができる。                                   |                                  |
|     | Lesson 6            | 時制(2)<br>〈後期・中間試験〉                          | ・「現在形」と「現在進行形」のどちらを使うかを判断する。<br>◎習慣的行為か進行中の動作なのかを考えて、適切な時制を使って表現することができる。<br>◎後期中間試験の結果、課題の提出状況 |                                  |
| 12  | Lesson 7            | 動詞の語法                                       | ・SVOCの動詞の語法を身につける。<br>◎make、have、let を使って表現することができる。                                            | 年度末<br><br>予定 15 85<br>実施 85     |
|     | Lesson 8            | 関係詞                                         | ・関係代名詞と関係副詞を使い分ける。<br>◎関係代名詞と関係副詞を使い分けて表現することができる。                                              |                                  |
|     | Lesson 9            | 時間の表現                                       | ・様々な時間を表す表現を理解する。<br>◎「～ぶりで」、「～たてば」、「～までに」等の表現を覚え活用することができる。                                    |                                  |
| 1   | Lesson 10           | 数字の表現<br>〈後期・期末試験〉                          | ・数字の表現を理解する。<br>◎様々な数字の表現を理解し、活用することができる。<br>◎後期期末試験の結果、課題の提出状況                                 | 年度末<br><br>予定 15 85<br>実施 85     |
|     |                     |                                             |                                                                                                 |                                  |
|     | 2・3                 |                                             |                                                                                                 |                                  |

No.

2023 年度 英語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                                                  |     |   |      |   |          |                |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|----------------|
| 科目            | 英語表現Ⅱ                                                                                                            | 単位数 | 3 | 週時間数 | 2 | 年次・コース・組 | 3年次・探究コース理系クラス |
| 使用教科書<br>副教材等 | ・Vision Quest English ExpressionⅡ Ace(啓林館)<br>・Vision Quest 総合英語 2nd Edition(啓林館)<br>・入試必携英作文<br>・Scramble英文法・語法 |     |   |      |   |          |                |

① 学習の到達目標

|                                                          |
|----------------------------------------------------------|
| 1. 様々な場面や目的に応じて使われる英語を正しく聞き取り、理解することができる。                |
| 2. 身近な事柄について即興で話す力を向上させ、伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。         |
| 3. 学んだ文法・語法に関する知識を踏まえ、与えられた条件に応じて日本語を正しい英語で書くことができる。     |
| 4. 与えられた条件に応じて自分自身で内容や構成を決め、様々な種類の文章を書くことができる。           |
| 5. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表することができる。 |

② 評価の観点、方法

|                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------|
| 1. 前期中間試験Ⅰ：前期中間試験Ⅰの素点及び小テスト等を勘案して評点を算出する。                              |
| 2. 前期中間試験Ⅱ：前期中間試験Ⅱの素点及び小テスト等を勘案して評点を算出する。                              |
| 3. 前期期末成績：前期中間試験Ⅰ・Ⅱ、前期期末試験の素点、課題の取り組み、小テスト等の結果を総合的に勘案して評点を算出する。        |
| 4. 後期中間試験：後期中間試験の素点および小テスト等を勘案して評点を算出する。                               |
| 5. 後期期末成績：前期期末成績、後期中間試験の評点、後期期末試験の評点、課題の取り組み、小テスト等の結果を総合的に勘案して評点を算出する。 |

③ 担当者から

|                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 英語は語彙力が土台です。土台がしっかりといてないと、上にどんなものを積み上げてもいずれは崩れます。教科書や課題に出てきた英単語は全て調べ覚える、覚えたい英単語を使って英作文をするなどして、豊富な語彙力を身につけること。 |
| 2. 教科書「Vision Quest English ExpressionⅡ Ace」や副教材「Scramble英文法・語法」で学んだ英文法・語法を含む英文を意識的に使って、日本語を英文にする練習(和文英訳)をすること。  |
| 3. 文法・語法に関わる一つの知識を単体ではなく、いくつかの知識を組み合わせた文構造を正しく理解できるようにすること。                                                      |
| 4. 自分の意見や考え、理由・根拠、具体例などを含めた、内容的にまとまりのある英文を書く練習をすること。                                                             |

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名                 | 教科書項目等                                      | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                     | 授業時数                            |
|-----|---------------------|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| 4   | Part 1<br>Lesson 14 | ローマの魅力(後置修飾)                                | ・ローマを訪れる夢を述べたインターネット投稿について質疑応答や意見交換を行う。<br>◎前置詞句や不定詞・分詞など名詞を修飾する形容詞的用法を理解することができる。              | 前期中間Ⅰまで<br><br>予定 11 11<br>実施 0 |
|     | Lesson 15           | 思い出の写真(関係代名詞、関係副詞)                          | ・自分の思い出の写真について英語で説明する。<br>◎関係詞が名詞を修飾する用法を理解することができる。                                            |                                 |
|     | Lesson 16           | 科学技術の利用(副詞、副詞句、不定詞や分詞を使った副詞句)<br>〈前期・中間試験Ⅰ〉 | ・科学技術の功罪について自分の意見を英語で述べる。<br>◎副詞等で語句や文全体を適切に修飾し、正しい英文を書くことができる。<br>◎中間試験Ⅰの結果、課題の提出状況            |                                 |
| 5   | Lesson 17           | 携帯電話は便利だけど...(副詞節)                          | ・携帯電話の是非を論じる記事を読み、長所・短所をまとめる。<br>◎接続詞が導く節の副詞的用法を理解することができる。                                     | 前期中間Ⅱまで<br><br>予定 9 20<br>実施 0  |
| 6   | Lesson 18           | 犬派？猫派？(原級、比較級)                              | ・犬と猫の性質を踏まえ、好きな方を理由とともに英文にまとめる。<br>◎原級、比較級を使った比較表現を用いることができる。                                   |                                 |
|     | Lesson 19           | 思い出深いプレゼント(最上級、最上級の意味を表す表現)<br>〈前期・中間試験Ⅱ〉   | ・今までにももらった最も思い出深いプレゼントを紹介する。<br>◎最上級やそれを表す比較構文を使うことができる。<br>◎中間試験Ⅱの結果、課題の提出状況                   |                                 |
| 7・8 | Lesson 20           | インターネットの問題点(no + 名詞、no-で始まる代名詞、部分否定)        | ・インターネットの問題点を取り上げ、英文にまとめる。<br>◎様々な否定形や部分否定を理解し、活用することができる。                                      | 前期期末まで<br><br>予定 13 33<br>実施 0  |
|     | Part 2<br>Lesson 1  | 文と文をつなぐ                                     | ・代用表現、関連する内容の語句、省略、つなぎ言葉を使う。<br>◎文と文を意味的につながりをわかりやすく示し、一貫性のある文章を書くことができる。                       |                                 |
|     | Lesson 2            | パラグラフ①                                      | ・パラグラフの概念と基本的構成を学ぶ。<br>◎パラグラフの基本構造(主題文、支持文、結論文)を理解しまとまりのある文章を作ることができる。                          |                                 |
| 9   | Lesson 3            | パラグラフ②                                      | ・パラグラフの構成の一つとして例示・追加を学ぶ。<br>◎例を挙げたり、具体的な情報を付け加えたりして説明することができる。                                  | 後期中間まで<br><br>予定 15 48<br>実施 0  |
|     | Lesson 4            | パラグラフ③<br>〈前期・期末試験〉                         | ・パラグラフの構成の一つとして比較・対照を学ぶ。<br>◎2つ以上のものや事柄を比較して、相違点や類似点を述べる。<br>◎前期期末試験の結果、課題の提出状況                 |                                 |
| 10  | Lesson 5            | パラグラフ④                                      | ・パラグラフの構成の一つとして原因・理由・結果を学ぶ。<br>◎ある物事の理由を説明したり、因果関係について述べたりすることができる。                             | 後期中間まで<br><br>予定 15 48<br>実施 0  |
|     | Lesson 6            | リーディングの要約                                   | ・ある程度の長さの文章を要約する。<br>◎パラグラフ構成を把握して、文章の最も重要なポイントを簡潔にまとめることができる。                                  |                                 |
|     | 英作文<br>Lesson 1     | 主語の決定(1)                                    | ・「～が多い(少ない、増えている)」を主語で表す。<br>◎適切な主語を用いて、「～が多い(少ない、増えている)」を表すことができる。                             |                                 |
| 11  | Lesson 2            | 主語の決定(2)                                    | ・主語の選定を慎重にする。<br>◎「筆者の個人的な体験」が「一般論」かを判別し、主語を選定することができる。                                         | 年度末<br>予定 10 58<br>実施 58        |
|     | Lesson 3            | 目的の表現<br>〈後期・中間試験〉                          | ・目的を表す表現を理解する。<br>◎so that S+V～、in order to do などを使って目的を表すことができる。<br>◎後期中間試験の結果、課題の提出状況         |                                 |
| 12  | Lesson 4            | 理由の表現                                       | ・様々な理由を表す表現を理解する。<br>◎because、since、due to Aなどを使って理由を表すことができる。                                  | 年度末<br>予定 10 58<br>実施 58        |
|     | Lesson 5            | 時制(1)                                       | ・現在完了形と過去形の違いを理解する。<br>◎現在完了形と過去形の違いに気づき、適切な時制を使って表現することができる。                                   |                                 |
|     | Lesson 6            | 時制(2)<br>〈後期・期末試験〉                          | ・「現在形」と「現在進行形」のどちらを使うかを判断する。<br>◎習慣的行為か進行中の動作なのかを考えて、適切な時制を使って表現することができる。<br>◎後期期末試験の結果、課題の提出状況 |                                 |

No.

2023 年度 英語 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

|               |                                                                                      |     |   |      |   |          |          |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----|---|------|---|----------|----------|
| 科目            | 教養英語                                                                                 | 単位数 | 2 | 週時間数 | 4 | 年次・コース・組 | 3年次文系コース |
| 使用教科書<br>副教材等 | Perspective English Communication I、II<br>Vision Quest I、II<br>総合問題集 リスニング教材 速読教材 など |     |   |      |   |          |          |

① 学習の到達目標

- ・既習教科書を使用し、要約、暗唱などに取り組み、発表することができる。
- ・自分の意見を書いたり、話したりすることができる。
- ・大学入試に対応できる力を身に付ける。

② 評価の観点、方法

- ・授業への積極性、態度（協働する態度も含む）
- ・後期中間試験における評価

③ 担当者から

教養英語では、前半は主に1、2年次、そして3年次のコミュニケーション英語、英語表現で学んだことを使って、復習、定着させるための様々な活動を通し総合力を身に付けます。後半は培った力を基にして、大学入試に向けた実践力を育てます。英語は、たくさん使うことによってどんどん力がつきます。ぜひ積極的に、前向きに取り組み、英語力を向上させましょう。

※ 前期反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 年間反省

|  |
|--|
|  |
|--|

※ 次年度に向けて

|  |
|--|
|  |
|--|

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

| 月   | 単元名 | 教科書項目等                                                                                          | ・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点                                                                                                   | 授業時数             |
|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 4   |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 前期中間Ⅰまで          |
|     |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 予定               |
| 5   |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 実施               |
|     |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 前期中間Ⅱまで          |
| 6   |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 予定               |
|     |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 実施               |
| 7・8 |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 前期期末まで           |
| 9   |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 予定 0             |
|     |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 実施               |
| 10  |     | Perspective English Communication<br>および Vision Quest I、II から適宜<br>適切なレッスンを選択                   | ・様々なタイプの英文を読み、キーワードを参考に、文章の内容を再現する。<br>・テーマに即したエッセイを書き、発表する。<br>・暗唱テストやパフォーマンステストを実施する。<br>◎他人の発表などを聞いて、質問したり、自分の意見を述べたりできるか。 | 後期中間まで           |
| 11  |     | Perspective English Communication<br>および Vision Quest I、II から適宜<br>適切なレッスンを選択<br><br>〈 後期中間試験 〉 | ・様々なタイプの英文を読み、キーワードを参考に、文章の内容を再現する。<br>・テーマに即したエッセイを書き、発表する。<br>・暗唱テストやパフォーマンステストを実施する。<br>◎他人の発表などを聞いて、質問したり、自分の意見を述べたりできるか。 | 予定 26 26<br>実施 0 |
| 12  |     | 大学入試対策                                                                                          | ・大学入学共通テストの予想問題、私大の入試の過去問などに取り組み、実践的な英語力をつける。                                                                                 | 年度末              |
| 1   |     | 大学入試対策                                                                                          | ・大学入学共通テストの予想問題、私大の入試の過去問などに取り組み、実践的な英語力をつける。                                                                                 |                  |
| 2・3 |     |                                                                                                 |                                                                                                                               |                  |
|     |     |                                                                                                 |                                                                                                                               | 予定 16 16<br>実施 0 |